

令和4年度

地域と共にある学校づくり 実践事例集 — 中信地区 —



長野県教育委員会事務局
文化財・生涯学習課

中信教育事務所

目 次

小 学 校

< 木曾郡 >		
○木祖小	1
○日義小	2
○福島小	3
○開田小	4
○三岳小	5
○王滝小	6
○上松小	7
○大桑小	8
○南木曾小	9
< 塩尻市 >		
○塩尻東小	10
○塩尻西小	11
○桔梗小	12
○片丘小	13
○宗賀小	14
○広丘小	15
○吉田小	16
○洗馬小	17
< 東筑摩郡 >		
○朝日小	18
○山形小	19
○生坂小	20
○筑北小	21
○麻績小	22
< 安曇野市 >		
○穂高北小	23
○穂高南小	24
○穂高西小	25
○豊科北小	26
○豊科南小	27
○豊科東小	28
○堀金小	29
○三郷小	30
○明北小	31
○明南小	32
< 北安曇郡 >		
○池田小	33
○会染小	34
○松川小	35
○白馬南小	36
○白馬北小	37
○小谷小	38
< 大町市 >		
○八坂小	39
○大町東小	40
○大町西小	41
○大町南小	42
○大町北小	43

< 松本市 >		
○開智小	44
○源池小	45
○筑摩小	46
○並柳小	47
○旭町小	48
○田川小	49
○鎌田小	50
○開明小	51
○清水小	52
○島内小	53
○中山小	54
○島立小	55
○山辺小	56
○岡田小	57
○芝沢小	58
○芳川小	59
○寿小	60
○明善小	61
○今井小	62
○菅野小	63
○二子小	64
○本郷小	65
○四賀小	66
○梓川小	67
○波田小	68
○安曇小	69
○大野川小	70
○奈川小	71
○ <small>信州大学教育学部</small> 附属松本小	72

< 安曇野市 >		
○穂高東中	88
○穂高西中	89
○豊科北中	90
○豊科南中	91
○堀金中	92
○三郷中	93
○明科中	94
< 北安曇郡 >		
○高瀬中	95
○松川中	96
○白馬中	97
○小谷中	98
< 大町市 >		
○八坂中	99
○第一中	100
○仁科台中	101
< 松本市 >		
○清水中	102
○鎌田中	103
○丸ノ内中	104
○旭町中	105
○信明中	106
○松島中	107
○開成中	108
○山辺中	109
○高綱中	110
○菅野中	111
○筑摩野中	112
○明善中	113
○女鳥羽中	114
○鉢盛中	115
○会田中	116
○梓川中	117
○波田中	118
○安曇中	119
○大野川中	120
○奈川中	121
○ <small>信州大学教育学部</small> 附属松本中	122

義 務 教 育 学 校

< 木曾郡 >		
○木祖中	73
○日義中	74
○木曾町中	75
○開田中	76
○上松中	77
○大桑中	78
○南木曾中	79
< 塩尻市 >		
○両小野中	80
○塩尻中	81
○塩尻西部中	82
○丘中	83
○広陵中	84
< 東筑摩郡 >		
○生坂中	85
○聖南中	86
○筑北中	87


< 大町市 >		
○美麻小中	123
< 塩尻市 >		
○檜川小中	124
特 別 支 援 学 校		
< 木曾郡 >		
○木曾養護	125
< 北安曇郡 >		
○安曇養護	126
< 松本市 >		
○松本盲	127
○松本ろう	128
○松本養護	129
○寿台養護	130

学校の概要		学校名	木祖村 立木祖小	学校	学校長	小河 保宣	児童生徒数	114 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成		ボランティアのリストがある						
		市町村教委		○	自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○	PTA代表		○	○	ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	学校長・教頭以外の学校職員		○			○		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	木祖村コミュニティ・スクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入					学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人	
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			0	人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月13日(月) 2月28日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標	「やさし木 かしこ木 たくまし木」 三つの木を大きく豊かな木に育てよう												
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域で明るいあいさつを自分からできる子 ・自分の考えをもち、意見や考えをしっかりと発信できる子 ・友だちの意見や考えを取り入れ、自分の考えを高めていくことのできる子 ・広い校庭・体育館でのびのびと遊ぶ子、毎日しっかりと体を動かす子 												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2	学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
3	地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	52	人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数			35	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間					
	清掃		ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	○		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○	遠足・登山	○		
	人権教育		国際理解		託児		環境整備	○			○		
	学校・家庭・地域の協働した取組例												
		あいさつ運動(4/11)		白菜畑見学(10/5)		生活科遠足(10/14)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>・木祖村は、教育委員会主体の「もいちど小中学校」がある。村内の高齢者30名ほどが集まり、5月に小学校の地域学習室で入学式が行われた。もいちど小中学校の方々には、学校行事に参加したり、学校整備に協力していただいたりしている。今年度は、1、2年生合同の生活科遠足(開田高原遠足)で、子どもたちとおしゃべりを楽しみながら一緒に歩いたり、見守りをさせていただいたりした。子どもたちは高齢者に優しく接してもらうことで、人に親切にする気持ちや思いやりの心を育てていくことができます。今後はランチルームで給食を食べたり、授業を参観したりしていただく予定です。</p>													

学校の概要		学校名	木曾町 立 日義小中 学校	学校長	丸山 美恵	児童生徒数	146 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	日義CS(コミュニティスクール)			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)				
	学校評議員、民生児童委員 社会教育委員、少年補導委員 日義地区育成会長、日義教育事務所係長			地域コーディネーター		2	人			
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)	4月27日・10月13日・2月7日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
						地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	地域連携委員長 元日義自治協議会長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		じょうぶで思いやりがあり自ら学ぶ子ども								
地域と共有された育てたい子どもの姿		じょうぶで柔らかな心と身体をもち、仲間と共に意欲的に学び続け、思いやりの心で行動する子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について		○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○			
3	地域の実情や課題について		○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	49 人			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			4		参加者延べ人数	約100 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
	里山学習(6月10日)		大工さんから学ぶ「ものづくり」(8月23日)		文化祭ワークショップ(10月1日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
【大工さんから学ぶ「ものづくり」】 中学校技術科の授業で、地元の大工さんに来ていただき木工の授業を行った。近年、大工さんが減少していることを受け、大工のことを少しでも知ってもらう機会となった。授業では、大工さんの仕事についてのお話を聞いたり、のこぎりびきやかんながけなどの技を見せていただいたりした。また、大工さんに教わりながら墨付け、のこぎりびき、かんながけを生徒が体験することができた。見た目以上に難しいかんながけでは、きれいに削れるまで挑戦する姿も見られ、とてもよい体験になった。後半には、簡単な椅子も手伝ってもらいながら製作し、大工さんの思いを感じたり、木のよさを感じたりする貴重な体験となった。 (以下、生徒の感想) ・大工さんに手伝ってもらいながらきれいに作れたのでよかったし、貴重な体験ができたのでよかったです。・かんなを体験しました。大工さんはうまく削っていたけれど、僕はあまりうまく削れなかったのが、大工さんはすごいと思いました。・椅子をつくるのは難しかったけど作りあげることができてよかったです。難しかったからこそ、大工さんとの交流も深められて嬉しかったです。										

学校の概要		学校名	木曾町立 福島小 学校		学校長	池田 信三		児童生徒数	221 名																
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																									
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある																	
				市町村教委		○		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)													
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある													
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある													
名称		木曾福島型コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会教育学識経験者				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人													
										地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人													
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月17日 10月25日 2月17日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)															
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭															
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																									
学校教育目標		明るく 正しく たくましく																							
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域と関わりながら、地域への理解を深めるもの姿																							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○															
2 学校運営への必要な支援について		○		3																					
3 地域の実情や課題について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○															
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○															
5 教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		60 人															
								参加者延べ人数		40 人															
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間		○	
		清掃				ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習		○	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
		人権教育		○		国際理解				託児															
学校・家庭・地域の協働した取組例																									
		見守り隊紹介式(4月27日)				民生児童委員さんとの共同作業(9月9日)				魚釣り(9月28日)															
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																									
<ul style="list-style-type: none"> ・地域で交通安全啓発やあいさつ運動に取り組んでいらっしゃる民生児童委員さん等「見守り隊」のみなさんを年度当初にお招きし、全校児童と顔合わせの式を毎年行っている。児童が地域でお世話になる方の顔を覚え、今後の交流活動がスムーズ進むように工夫している。 ・民生児童委員さんは従来6月の「ふれあい作業」に参加いただいていたが、コロナの感染状況の悪化のための縮小により、今年度の作業には参加いただかなかった。代わりに9月の運動会前の児童作業(校庭整備)への参加を申し出いただき、1・6年生との交流につながった。 ・従来より交流している木曾川漁業協同組合との活動が、他学年やクラブ活動へも広がった。複数学年での継続的な体験・交流活動の実施により、地域の産業を理解し、地域の自然を愛する気持ちの高まりに繋がっている。 																									

学校の概要		学校名	木曾町 立開田小 学校	学校長	林 久美	児童生徒数	49 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	開田高原コミュニティスクール運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
						地域コーディネーター	1 人		
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人		
会議開催数(予定)	2 回	今年度開催日(予定)	5月20日(金) 2月17日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
					具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ子ども ・心を豊かにする子ども ・体をきたえる子ども 								
地域と共有された育てたい子どもの姿	ふるさとを愛し、志をもって自分の未来を切り拓いていく子ども ～ひとりになれる ひとつになれる～								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○	
3	地域の実情や課題について				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	40 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				5		参加者延べ人数	110 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○
	人権教育	国際理解		託児					キャリア教育(職場体験を含む)
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
	駄菓子屋横丁(7/26)			お茶なし茶話会(9/24)			マラソン大会準備草刈(10/13)		
代表的な協働した活動の取組例									
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
・夏休み4日目。地域のお祭りの実施に合わせて、駄菓子屋横丁を行った。開田CSのメンバーを中核に開田小学校応援団を結成し、自分たちがやりたい事、子ども達が喜びそうな事をみんなで意見を出し合い、準備を行った。催し物は以下の通り。 ○駄菓子屋(事前に子どもにはチケットを配布)○昔のおもちゃ屋○似顔絵屋○ヨーヨー釣り○読み聞かせ 当日は小学生だけでなく近くのこども園も神輿で参加するなど大盛況であった。									
・子ども達からは来年もぜひやって欲しいとの要望。応援団のメンバーも子ども達の反応に手ごたえを感じていた。 ・子ども達の元気なパワーが地域の活性化につながることを実感することができた。									




学校の概要		学校名	木曾町 立三岳小	学校	学校長	倉澤 啓	児童生徒数	40 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	三岳ふれあいコミュニティスクール		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
			保護司会代表 民生児童委員会会長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5/12, 2/16		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長 三岳教育事務所主事		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	考える人 やさしい人 たくましい人									
地域と共有された育てたい子どもの姿	めざす学校像「笑顔の学校」 令和5年度の重点目標「自分で考え、やってみよう」を合言葉に、自律的な学び手を育てたい									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数		20 人	
							ボランティア登録者人数		20 人	
							参加者延べ人数		20 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解		託児					
										
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○御嶽山火山防災学習 (1)内 容 火山防災について学ぶ(全3回中 第2回) (2)場 所 御嶽山ビジターセンター「さとテラスみたけ」 (3)参加者 5・6年生14名 三岳支所防災担当係職員・支所長 御嶽山石室山荘オーナー 噴火で被害に遭った方 (4)具体的な内容・成果・課題など ・第1回では御嶽山の魅力や、活火山としての特徴について学んだ。第2回では8年前の噴火のことを具体的にお聞きしたりどのようにその場から逃げたか、噴火の後どのような体制がとられたのかなど当時のことをお聞きし、今、噴火が起きたらどこにどのように災害対策施設をつくっていくことができるかなどを考えて地図にプロットするなどの学習をした。御嶽山と共生していくということについて改めて考えていく機会となった。										

学校の概要		学校名	王滝村 立 王滝小 学校		学校長	宮坂 寛		児童生徒数	11 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
		公民館代表		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員				○		校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	学校運営協議会 (王滝わくわく共育学校)		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		2 人	
			子ども育成会長 社会教育委員 主任民生児童委員 社会福祉協議会事務局長 王寿会副会長(高齢者クラブ)						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)		5月11日(水) 11月30日(水) 2月4日(土)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	Aim High, Big Heart, Serve Others ～こころざし高く、大きな心で、人のために～											
地域と共有された育てたい子どもの姿	王滝に自信と誇りをもって生きる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3	地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		53 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○		5		参加者延べ人数		221 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	○	国際理解	○	託児	○		○		○		
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
	王滝小学校・村民合同運動会(5/21)				社協、木曾ペインティングススコラ音楽祭(10/22)				公民館コラボロゲイニング(11/2)			
代表的な協働した活動の取組例												
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>中学校が昨年度末をもって休校となり、小学校単独(児童11名家庭数9)となった本年度、今までと同じ取り組み方では音楽会や運動会等ができないことを想定し、昨年度から学校、家庭、村民、行政が月1回集まって持続可能な取組について熟議してきた。「それぞれの団体で開催している取組を一つにする」ことに話題はフォーカスされ、参加者の融合、運営に関わる人員の確保と負担軽減、子どもにも地域の大人にも学びがある取組づくり等を目指し、「コラボレーション」をテーマに新しい王滝村の協働活動がスタートした。音楽会や児童の書写、図工作品の発信は、昨年度まで中学校が開催していた「翔岳祭」という文化祭の中で行ってきた。今年度は、児童、社協(村民を含む)、木曾ペインティングスが一緒に実行委員会をつくり、「笑楽祭」という芸術祭を開催した。これまで社協が開催していた「福祉・健康の集い講演会」に訪れていた村民が、コラボしたことで学校の音楽会や児童会企画にも参画(鑑賞や出演等)して笑顔になってくださったり、アートを通して地域を元気にしている木曾ペインティングスが、図工の授業とコラボレーションしてワークショップを開催し、笑楽祭に作った作品を素敵に展示して下さったりして、学校も社協も木曾ペインティングスも村民も「よかった」と笑顔になれた取組となった。児童にとっても、実行委員として大人と話し合い、様々な考え方とぶつかり合いながら会を実現したり、図工の授業を木曾ペインティングスが海外から招いたドイツ人アーティストと一緒にできたりなど、この取組を通して学べたことはとても多岐にわたっていた。</p>												

学校の概要		学校名	上松町	立上松小	学校	学校長	川上 明宏	児童生徒数	157 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称		あげまつコミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人
					学校支援ボランティア代表			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人
					学校評議員会			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
会議開催数(予定)		2	回	今年度開催日(予定)	2022/5/11		2022/11/9		具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		大きく育て! わたしの木 1 元気に あいさつ 2 根気よく そうじ 3 本気で べんきょう										
地域と共有された育てたい子どもの姿		・自らの言葉で上松を語る子ども ・あいさつのできる子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について											
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	24	人		
								参加者延べ人数	52	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間				
	清掃	○	ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	木曾踊り指導(5月17日)			伝統野菜作り(9月6日)			環境整備作業(9月10日)					
	代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
9月の土曜参観日の折に、ボランティアの環境整備作業と親子作業を同一日開催で行った。 1・2時間目に、児童と保護者は授業参観を行い、ボランティアの皆様は機械を使っての草刈りや枝払い等をしてくださる 3・4時間目は、親子で分担された場所の環境整備作業を行い、ボランティアさんが刈った草や枝も片付ける分担もある。 学校のためにご尽力いただいている方々の活動を子どもたちが知る機会となった。												

学校の概要		学校名	大桑村 立 大桑小 学校	学校長	山田 文広	児童生徒数	114 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	○	公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	オオクワガタコミュニティスクール委員会 (オオクワガタCS委員会)	[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	4 人	
		社会教育委員 村文化協会会長 村体育協会会長 主任児童委員				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人	
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	6月2日 11月22日 2月3日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	つよく かしく あたたく							
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・大桑村のことを知り、誇りに思うことができる子ども。 ・ふるさとを大事にして、大桑村をより立てていく子ども。 							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
3	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	20 人		
					参加者延べ人数	80 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児				
								
	須原花クラブ(8月23日)		大桑の土で作った粘土作品を野焼き(9月27日)		地域の方といっしょに脱穀(10月14日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
<p>本校のクラブ活動は全てのクラブで地域講師を依頼している。それぞれの活動に造詣が深い方々のご指導により、より質の高い活動内容を児童に提供できている。また、前年度の内にクラブ内容と講師依頼を含め準備をすることで、年度初めにバタバタと発足準備をする必要がなく、5月の運動会後にはスムーズにクラブ活動に入っていくことができる。講師の方々にとっても全7回のクラブが前年度の内に位置付くので予定が立てやすく、ほぼ全回のクラブに来校いただいている。今年度が初めてというクラブも発足した(須原花クラブ) 村内須原地区に伝わる独特の花札ゲームで、年配の方々を中心にゲームが継承されている。若い人や子ども達にも知ってほしいという願いを受け、CSのコーディネーターが窓口となり、講師を紹介いただいて発足につながった。クラブ員数は多くなかったが子ども達からは「楽しい」という声も聞かれ、地域の新たな一面を知る一端となった。</p>								

学校の概要		学校名	南木曾町立 南木曾小 学校	学校長	松井 聡	児童生徒数	166 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○		自治会代表	
		公民館代表		○		PTA代表	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	
		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアと学校の情報交換会がある	
南木曾小学校・中学校コミュニティスクール地域応援団運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		・支援団体代表者		地域コーディネーター		2 人	
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月25日(水) 2月	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
						公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		<ul style="list-style-type: none"> ・えがお(自分も友達も大切に子ども) ・あせ(ねばり強く最後までやりぬく子ども) ・ゆめ(ふるさとや自分自身に夢と誇りをもつ子ども) 					
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・友達を大切にできる気持ち、素直な気持ちを伸ばして欲しい。 ・向上心や自立心を身につけて欲しい。 ・南木曾町を愛し、南木曾町の将来を担う人になって欲しい。 					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 45 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		参加者延べ人数		40 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○	
		清掃		ICT		○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○	
		人権教育		国際理解		○	
		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食	
		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		休み時間	
		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
		託児				放課後教科・体験学習	
						遠足・登山	
						キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
2年ほうば巻き作り(6月2日)		5年田んぼ学習(10月4日)		花馬づくり:クラブ活動(年6回)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>・例年行っている年間6回のクラブ活動は、本年度は地域の方々を講師として迎え、交流を深めると共に子ども達が地域をよりよく知る機会として活動している。昨年度末に学校からコミュニティスクール地域応援団運営委員会へ依頼し、活動可能なクラブを挙げていただき、今年度になってから子ども達にアンケートを取った。文科系5(木工・刺し子・花馬・大正琴・絵画)、運動系2(バスケットボール・バレーボール)の7講座に4～6年生が希望するクラブに所属し活動を行った。文科系クラブの子ども達は、普段経験することが少ないことを、楽しみながら作品作りに取り組んだり技能の向上に努めたりする姿が見られた。運動系クラブの子ども達も、その競技に関わっている方から専門的な指導を受け、技能を磨こうとする姿があった。講師の先生方からは、町内の伝統文化を子ども達に受け継いでいってほしいという声もあがっている。</p>							




学校の概要		学校名	塩尻市	立塩尻東小	学校	学校長	村上 きよみ	児童生徒数	344 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	塩尻東小学校コミュニティ・スクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 市議会議員, 民生児童委員代表 支所長, こども会育成協議会長 学校支援ボランティア代表 教育委員, 社会教育委員 保育園長, 児童館長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人		
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1 人			
会議開催数(予定)	4 回	今年度開催日(予定)	4月20日 7月13日 12月20日 2月21日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			教育委員会職員				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	ふれあい ひびきあい たかめあい										
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切にでき、思いやりのある子 ・心身ともに健康で、元気に意欲的な子 ・主体的に学び、チャレンジする子 										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	107 人	参加者延べ人数	300 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
			夏休み学習広場(7月～8月)			図書館ボランティア(月1回)			地域講師を招いてのクラブ活動(9～11月)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
◇夏休み学習広場 <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み期間中(7月28日～8月19日)に9回(120分/回)実施。 ・塩尻東公民館, 塩尻東地区子ども育成連絡協議会, 塩尻中学校, 塩尻東小学校が協働し, 塩尻東地区センターで開催。 ・夏休みの平日に開催したことにより、子どもたちの居場所づくりや熱中症予防、午前中開催による規則正しい生活リズムの保持に寄与している。 ・学習支援を得られることにより、子どもたちも意欲的に自らの課題に取り組むことができた。また、講師の先生によるワークショップに興味関心を持ち、探究的な学びをすることができた。 ・様々な団体が関わり開催することにより、地域と学校の連携の深まりにつながっている。 											

学校の概要		学校名	塩尻市	立塩尻西小	学校	校長	千村 哲朗	児童生徒数	296 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	塩尻西小学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)				
	登下校の見守り隊 児童館長 市議会議員 市教育委員 元学校評議員 元PTA会長			地域コーディネーター		1	人	地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	2022/4/20 7月13日 12月21日 2月20日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		市学校支援コーディネーター					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	西の子は かしく なかよく たくましく										
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ともに学び 学びを楽しむ ・ものに 人に 心をこめる ・心も体も元気 										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	61 人		
						参加者延べ人数		約400 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解	○	託児	○		○		○	
	  										
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>・総合的な学習の時間に、地域の方(元大工さん)に木工工作の講師をしていただいた。子どもたちは自分たちの課題解決に向け、目を輝かせながら製作に取り組み、納得のいく作品をつくることができました。地域の方に教えていただきながら、触れあうことを通し、地域から守られている安心感を抱くこともできていたように思う。</p>											

学校の概要		学校名	塩尻市立桔梗小学校		学校長	三溝 裕子		児童生徒数	697 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
			市町村教委		○	自治会代表		○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		○	PTA代表		○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	学校長・教頭以外の学校職員		○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	桔梗小学校学校運営協議会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人	
	桔梗小学校地域教育協議会							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1	人	
会議開催数(予定)	6	回	今年度開催日(予定)	学校運営協議会 4/20 7/13 12/9 2/15 地域教育協議会 4/20 2/15		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	心豊かで たくましい 子ども										
地域と共有された育てたい子どもの姿	粘り強く求める子 体をきたえ、よくはたらく子 素直で思いやりのある子 正しく判断し、人のためにつくす子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数			99 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5			参加者延べ人数			250 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児						
											
	【3年】塩尻志学館高校生徒の指導で農業体験(4~11月 6回)			【希望者】キッズ防災チャレンジ(10/29)			【3~6年】志学館高校と東京都大塩尻高校の書道部生徒を講師とした書き初め教室(PTA 寺子屋教室)(12/28 予定)				
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
キッズ防災チャレンジでは、小学校を会場に、市役所、消防署、自衛隊、地元アウトドア用品販売企業の協力を得て、「防災」をテーマとした体験活動を行った。当日は約130名の児童が参加し、防災倉庫にあるテントやパーテーションを組み立てること、地震体験車による地震体験、救助作業に使う道具を使った体験、火起こし体験等を行った。体験等とおして、災害が発生したときに自分ができることは何か、関係機関がどんな活動をしているのかを知る機会となった。											

学校の概要		学校名	塩尻市立 片丘小 学校	学校長	山本直佳	児童生徒数	186 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の 学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	片丘小学校コミュニティ・スクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人					
						地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)	1 人					
会議 開催数 (予定)	4	回	今年度 開催日 (予定)	4月14日、7月27日、12月16日、2月17日		中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)	教育委員会職員					
				具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	・正直で思いやりのある子			・自ら学ぶ子		・健康でたくましい子						
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	・地域の方とのコミュニケーションを深める子			・地域の方とともに学ぶ子		・地域の方とともに汗を流す子						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○					
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	59 人					
						ボランティア 登録者人数	150 人					
						参加者延べ 人数						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習	○
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動	○	子ども食堂(子ども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場 体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		キノコのコマ打ち体験(4月18日)		カタオカザクラのボトル作成(4月28日)		チャレンジスペース(通年)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
地域のボランティアがとても熱心に子どもたちの支援に取り組んでくださり、特に田畑での農業体験では、学校での教科学習では得られない体験を通じた貴重な学びの機会をいただいている。1年生の小さな手が電気ドリルを持って、キノコの菌を打つ穴を材木に開ける体験も、ボランティアがしっかりと体を支え、手を添えて、安全に農業のおもしろさや達成感を感じられるようにしてくださっている。大変ありがたいが、一方で学校職員としては、ボランティアの支援が多すぎて、子どもが主体的に活動に取り組んだり、「失敗」から学んだりする体験ができていないのでは、という思いがあった。そこで、今年度はボランティアに年度当初に学校の目指す子ども像をお伝えし、畑の一角に「チャレンジスペース」を作っていただいた。この区画では、ボランティアはあまり手を出さず、子どもたちが自分たちで農作物を育てるスペースとした。ボランティアの支援の入らないチャレンジスペースは、すぐにくさの草に覆われ、植えたニンジンがどこにあるのか分からなくなった。担当していた学級担任が、子どもたちを畑へ連れて行き、その状況を見せると、子どもたちは自ら「草を取らなきゃ」「ニンジンがかわいそう」と動き始めた。「チャレンジスペース」での農作物栽培は、子どもたちが自ら課題に気づき、試行錯誤しながら課題解決の力をつけていくことに効果があったと考えられる。												

学校の概要		学校名	塩尻市 立 宗賀小 学校	学校長	戸辺 修	児童生徒数	213 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	宗賀小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員・民生児童委員代表・ボランティア代表・児童館長・公民館長・支所長・博物館長・地域住民		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人			
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1 人			
会議開催数(予定)	4 回	今年度開催日(予定)	4月15日・7月19日・12月21日・2月20日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	教育委員会職員					
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校支援コーディネーター(3校兼務)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	豊かな知恵 優しい心 丈夫な体										
地域と共有された育てたい子どもの姿	「問い」から「学び」を始めよう 1. 見つける力 2. つながる力 3. しなやかな心と体										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○						
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○						
3	地域の実情や課題について	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		4	協働活動に参加したボランティアの人数	40 人	ボランティア登録者人数					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				50 人	参加者延べ人数					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児						
											
	ジャガイモ植え(4月18日)		森の健康診断(10月12日)		洗馬探検(11月4日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>・10月12日に4学年が「森の健康診断」を行った。普段から中心となって学校支援をしてくださっている「どんぐりPJ(プロジェクト)」の皆さん、森林会社の方々講師となり、「どんぐりの森」に入り、自然を五感で感じながら、間伐などの森林整備の大切さを知り、実際に木の伐採活動を行った。今回活動を行った「どんぐりの森」は、もとは学有林であり、現在は地域振興協議会を母体とした「どんぐりPJ」の方々が、管理をしている。学校の近くであり、子ども達は生活科や総合的な学習の時間に、学年・季節を問わず森に出かけ、どんぐりPJの方と一緒に木苜を採って食べたり、坂道をそりで滑ったりと様々な体験的な活動を行い、身近な存在となっている。また、学校全体でも、1・2年生は奈良井川での川遊び、3年生はヤマメの放流、4年生はしいたけの駒うち・森の健康診断といった活動が位置づいており、学年の発達段階に応じて「自分たちのふるさと宗賀」の自然に親しみ、興味関心を広げている。今回の森の健康診断では、小グループに分かれ、それぞれ講師となった方々のお話に耳を傾け、活動を行った。講師の方の「自分が子どもの頃は、宗賀小にどんぐりの森から飲料水を引いてきたこと」などのお話をお聞きしながら、地元の人々が大切に森(自然)を守ってきたその思いにも触れ、自分たちのふるさとを自然を多面的多角的に見つめていくきっかけにもなった。</p>											

学校の概要		学校名	塩尻市 立 広丘小	学校	学校長	折橋 善文	児童生徒数	633 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	広丘小学校 学校運営協議会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 児童館長、保護司、社会教育委員、各支援部代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人					
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1 人					
会議開催数(予定)	5 回	今年度開催日(予定)	4月13日、7月13日、8月8日、12月5日、2月20日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	教育委員会職員						
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標	正しく 強く 美しく つたえる・つづける・つながる 3つを目指し、伸びようとする広丘の子ども												
地域と共有された育てたい子どもの姿	歴史と伝統を土台に新たなつながりを育む広丘小学校コミュニティ・スクール ・挨拶等がしっかりとでき、人とのつながりを大事にする子ども ・よく学び、体を鍛え、夢に向かい進む子ども ・相手の気持ちがわかり、協調して活動ができる子ども												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2	学校運営への必要な支援について		○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3	地域の実情や課題について		○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		130 人					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		○	5		参加者延べ人数		600 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	○	
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育	○	国際理解	○	託児	○		○		○		○	
	学校・家庭・地域の協働した取組例								読み聞かせ(6月24日～3月)		安全見守り(5月～3月)		クラブ活動(10月・11月)
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
3年ぶりにクラブ活動を実施し、開設した15のクラブ(絵手紙・切り絵・放送・サッカー・茶道・広丘たんけん・ゲートボール・昔の暮らし・音楽・パソコン・ものづくり・木工・バドミントン・百人一首)のうち、すべてのクラブで地域の方を講師としてお招きすることができた。児童は、自分の興味のある活動を選び、技や知識をお持ちの講師の方から普段の授業ではなかなか追究や体験することができない内容にも触れさせていただき、毎回のクラブ活動を心待ちにするほど充実感を得ることができていた。児童の感想からも、学校の先生以外の方からも認められ、励まされる経験は、人との関わりを楽しみにする姿につながっていることが伺える。講師の方々からも「子どもたちの集中した姿はとて素晴らしいものでした」「難しい部分も製作途中にはありましたが、それに向かう子どもたちの姿に励まされました」「これからは様々に親しんでいってほしいです」などの声が寄せられ、改めて子どもたちと触れ合うことの喜びややりがいを感じていただくことができていたことを感じる。													

学校の概要		学校名	塩尻市 立 吉田小 学校	学校長	富田 昭子	児童生徒数	535 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○	公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある
			地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の 学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある
名称	吉田小学校コミュニティ・スクール学校 運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 市議会議員 児童館館長 保育園園長 主任児童委員 民生児童委員 育成会長 敬老会長 社会福祉協議会支部長 地区 体育協会長		学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人
						地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)	1 人
会議 開催数 (予定)	4	回	今年度 開催日 (予定)	4月13日 7月27日 12月14日 2月7日	中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)	教育委員会職員	
				具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標	強い子 やさしい子 明るい子						
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	多様な人々と協働しながら、自分をより高めていこうとする吉田っ子						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について			○			
3	地域の実情や課題について				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	44 人 参加者延べ人数 66 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山
	人権教育		国際理解	託児			○
学校・家庭・地域の協働した取組例							
交通安全教室(4月26日)		6学年総合的な学習(米作り・田植え)(5月20日)			2学年乗り物遠足(10月14日)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
交通安全教室に参加いただき、ご指導いただいた。1・2年生は地域を歩き、交通ルールや歩き方を実習した。地域をよく知る方々が、危険箇所や注意が必要なポイントを教えてください、日頃の登下校の安全意識の向上に生かされている。3学年以上は自転車の実習を行った。3学年は校庭模擬道路で、4～6学年は近所の自動車学校のコースで自転車の乗り方を学んだ。自動車学校では、ヘルメットのかぶり方の注意点や、坂道・駐車された車の脇を通る際にも危険が潜んでいること等、交通安全の専門的な観点からのお話もあり、新たな気付きをする児童もいた。教室に携わる方々には、この行事を楽しみにしてくださっている方もおり、お互いにうれしい交流となっている。							




学校の概要		学校名	塩尻市 立洗馬小 学校	学校長	中沢 寛	児童生徒数	216 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	洗馬小学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 育成会長、児童館長、主任児童委員 ボランティア代表							
				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1	人				
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1	人				
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	4月19日 7月19日 12月16日 3月3日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	教育委員会職員					
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	かしこく(知) やさしく(徳) たくましく(体・心)										
地域と共有された育てたい子どもの姿	自分で行動し、よりよくしようとする姿 言葉を用いて他者と適切に伝え合う姿 知識や経験を生かして問題を明らかにしたり表現したりする姿										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数	78 人			
							参加者延べ人数	520 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		ささら踊り(5月12日)		ピアノコンサート(6月25日)		クラブ活動(6月10日～9月2日)					
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
4～6年生を対象に行ったクラブ活動では、7クラブを立ち上げ、そのうち「地域探検」「焼き物」「写真」の3クラブで、キャリア教育支援部の方を講師として指導をいただいた。 地域探検クラブでは、地域出掛けて実際に史跡を見たり講師に説明を聞いたりする中で、自分たちの住んでいる地域により興味を持ち、主体的に調べることができた。焼き物クラブでは、地域に伝わる洗馬焼きの歴史や特徴を学びながら、意欲的に作品を仕上げた。 このような活動を通して、知識を広げるだけでなく、地域の方との関わりや地域への愛着を深めることができた。											

学校の概要		学校名	朝日村 立朝日小	学校	校長	黒田 敏樹	児童生徒数	205 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	朝日小学校運営協議会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 大学准教授、社協、JA、商工会、児童館長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	人
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	4月22日、10月13日、2月中旬予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	教育委員会職員	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	地域学校協働活動推進員	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	鉢盛山より 大きな心で 瞳かがやく あさひっこ							
地域と共有された育てたい子どもの姿	大好き! 自分・学校・朝日村 ~自分の考えをもち 他者・村とかかわる子ども~							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○				
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	32 人
							参加者延べ人数	60 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
		ボランティアによる草刈り(5/28)		学校支援ボランティア説明会(7/5)		読み聞かせ(8/25)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
今年度から、文科型コミュニティ・スクールに移行した。昨年度まで教育活動や環境整備の支援をしてくれていた「あさひっこわくわくサポート隊」は、学校支援ボランティアとして組織化して活動することになった。そこで、7月に学校支援ボランティア説明会を行い、朝日小学校が目指す子どもの姿について皆で共有したり、ボランティアの活動手順や注意点を確認したりした。また、少人数グループに分かれて意見交換する時間を設け、自分がこれまで取り組んできたボランティア活動を紹介し合ったり、これから取り組もうとしている計画を発表したりした。今までは、他のボランティアの活動内容や思い、願いを互いに知らない部分もあったが、子どもや学校との多様な関わり方、やりがい、喜び等を知るよい機会となった。新しいアイデアがいくつも出され、参加者の皆が前向きな気持ちになれるとともに、村体育祭を小学生も参加しやすいような企画に変えるなど、実際に実現することができた。								

学校の概要		学校名	山形村 立山形小 学校	学校長	大池 昌弘	児童生徒数	453 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	山形村学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 児童館長 社会教育委員 子ども会育成会長 商工会長 社会福祉協議会事務局長		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)						
				地域コーディネーター	2 人	地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人					
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	5月・(12月・3月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	教育委員会職員						
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	教育相談員						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	なかよく かしく たくましく											
地域と共有された育てたい子どもの姿	ふるさと山形村を愛し、主体的に対応でき、お互いの多様性を尊重しあう子ども 体験や思いを語り、自分・友だち・ふるさと山形村を愛し、誇りに思う児童											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	170 人	参加者延べ人数 650 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
			山形っ子タイム(6月1日))クラブ活動 郷土料理(6月23日)			学習支援 裁縫(10月19日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
安全安心支援部と学習支援部が合同で実施している「山形っ子タイム」がある。「山形っ子タイム」は子どもたちの居場所作りを目的として、水曜日の放課後、全学年の希望者が参加できる。本年度は4月から10月まで17回計画された。途中、新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止となったこともあったが、多くの児童が楽しみにしている。体を動かしたい子どもは、校庭でサッカー、体育館でドッジボール、前庭で鬼ごっこ等をしている。児童会室と図書館では静かな雰囲気の中、読書をしたり、学習をしたりしている。ボランティアルームでは、友だちと本を見せあったり、ゲームをしたりしている。子どもたちは自分の好きな活動に取り組み、放課後の時間を過ごしている。 また、コロナ禍で中止していた学習支援中心の「おさらい教室」も11月から12月にかけて5回実施予定である。												

学校の概要		学校名	生坂村	立生坂小	学校	学校長	宮沢 芳明	児童生徒数	65 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表	○	PTA代表	○		ボランティアと学校の情報交換がある
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	生坂大好き「わくわく楽校」運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
			社会福祉協議会会長 地域サークル等会長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	6月12日(中止) 6月20日 2月20日 2月27日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		児童館・生涯学習施設館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		一人ひとりが輝く生坂っ子-自ら学び 共に生きる-								
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを持ち、友と対話して自分の考えを深めることができる子 自分や友のよさに気づき、互いに認めあうことができる子 自分の健康は自分で守り、挑戦することができる子 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	50 人	
								参加者延べ人数	30 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	○	国際理解		託児					
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○ぶどう農家の工夫:農家の工夫を学習する3年生が、地域のぶどう農園でぶどう作りの説明を聞きながら実際にぶどうの袋かけの体験や収穫の体験をさせてもらった。 <ul style="list-style-type: none"> ぶどうを目にすることはあっても、実際に何をしているのか知らない子どもが多かったが、袋かけの作業をすることでぶどう作りや生坂のぶどうについて興味・関心を持つことができた。 説明を聞きながら作業を行うことを通して、農家の方のぶどうに対する想いや苦労を感じることができたと同時に、美味しいぶどうを作るための工夫について自分なりの考えをもつなど、積極的な取り組みが見られた。 3年の時の活動が基になり生坂のぶどうについて興味をもったことで、5年生になって「生坂のぶどうについてもっと詳しく調べたい」という思いをもち、自分が知りたいことについてそれぞれがテーマを決めて調べる等、主体的な学習の取り組みにつながっている。 										

学校の概要		学校名	筑北村	立 筑北小	学校	学校長	宮 寄 聡	児童生徒数	139 名												
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																					
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある													
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)													
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある												
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある											
名称		筑北村小中合同学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 おはなしポケット代表・聖南中学校委員長・保育園委員・聖南中学校PTA会長・体育協会会長・社会福祉協議会会長・子ども支援グループ代表・交通安全協会支部長・社会教育委員会会長・生涯学習ボランティア代表・村議会議員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人											
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人											
会議開催数(予定)		5 回		今年度開催日(予定)		4月22日、5月19日、9月28日、1月23日、3月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民											
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)													
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																					
学校教育目標		ふるさと筑北村を愛し「つづける」「つなげる」「じしんをもってかがやく」																			
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶のできる子 ・自信を持ってどんなことにも挑戦できる子 ・地域に対して誇りを持って生活できる子 																			
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況																
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○														
2 学校運営への必要な支援について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○														
3 地域の実情や課題について		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○														
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 120 人														
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					参加者延べ人数 210 人														
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食				休み時間	
		清掃				ICT				学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)				遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育				国際理解				託児		○									
																					
		読み聞かせ(5月18日)				脱穀(10月3日)								ふるさとふれあいの集い(10月21日)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																					
【10月21日・ふるさとふれあいの集い】 ・地域の方(30人)を講師として校内と校庭を使用して12つの講座(わら細工・絵手紙・折り紙・紙飛行機・缶ぽっくり・めんこ・ぶんぶんごま・かざりキューブ・割りばし鉄砲・珍しいこ作り・やしよま・手あみ)を1時間半程度実施した。事前に筑北村小中合同学校運営委員会で内容を相談をし、講師を紹介していただいた。児童は、講師の方に教えていただきながら活動を楽しんだり、地域の伝統を学んだりすることができた。さらには地域の大人に憧れを持つことができた。学校職員も一緒に活動に参加し、講師の方の技術を見よう見まねで挑戦したり、普段接することの少ない他学年の児童の活動を見たりしたことで、児童の新たな一面を見つける機会となった。																					

学校の概要		学校名	麻績村 立麻績小		学校	学校長	佐々木 英明		児童生徒数	81 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	おみっこ応援団		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 JA代表 交通安全協会支部長 主任児童委員 村図書館代表 各種文化団体代表 (3団体)				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		2 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月17日 10月5日 1月24日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		前公民館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	「学び合い」「思い合い」「鍛え合い」 友と・教師と・地域と共に学び・支え・伸び合う学校										
地域と共有された育てたい子どもの姿	心豊かでたくましい麻績の子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3	地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		103 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○		4		ボランティア登録者人数		140 人
								参加者延べ人数		140 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解	○	託児	○		○		○	
学校・家庭・地域の協働した取組例											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
現在、麻績村では信州型コミュニティスクールとして、麻績小学校「おみっこ応援団」と、筑北中学校「チーム筑北」の二つの組織が存在している。しかし、小さな村で人材に限られていること、保小中一貫した教育を村全体で共有していること等から、本年度は、令和5年度4月までに小中のCSを一本化することを目指してそれぞれの運営委員会で話し合いが進めてきた。第2回おみっこ応援団運営委員会では、事務局から提案された原案をもとに、目指す子どもの姿や、これからの麻績村に必要なこと等を中心に話し合いが行われた。ICTを活用し、各グループで話し合われていることがタブレットやスクリーンでリアルタイムで見られるようにしたり、それぞれの提案をシェアリングしたりして、思いを共有した。運営委員の皆さんからは、「村の問題点がみえてきた」「これからの子どもたちを共に育てていきたい」「退職直後の60代や児童の親世代の村民にも関わってほしいが課題がある」「子どもたちに昔の遊びを受け継いでほしい」等の感想や意見が出された。これらの内容を筑北中学校「チーム筑北」とも共有し、来年度へ向けて体系作りを進めていきたい。											




学校の概要		学校名	安曇野市	立 穂高北小	学校	学校長	小松 幹	児童生徒数	660 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	穂高北小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
				地域住民・社会福祉協議会			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		2	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月31日 11月10日 2月28日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地域住民		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	○かがやく生命:一人ひとりの“いのち”を大切に 一人ひとりが“いのち(自分のもっている力)”を高め合う ○ひろがる笑顔:良さや違いを認め合い お互いに支え励まし合い喜び合い 笑顔を交わし合う									
地域と共有された育てたい子どもの姿	1 よく考える子 2 仲間を思いやる子 3 ともに高め合う子									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	30	人
								参加者延べ人数	300	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	特別支援学級:校外学習引率(6月3日)		5・6年生:家庭科ミシン学習支援(8月~11月)		4~6年生:クラブ活動支援(7月~10月)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>学習支援のひとつとして、5・6年生の家庭科授業のミシン学習の支援を毎年行っていた。今年度は、3名のボランティアの皆さんに手伝っていただきながら、5年生ではランチョンマットの製作、6年生ではナップサックの製作に励んでいる。裁縫に不慣れな児童やミシンの扱いに戸惑っている児童に寄り添いながら、丁寧に優しく手順を示していただいているので、児童たちは製作を楽しみ、最後まで粘り強く作品を仕上げる事ができる。また個々の活動になるため、一斉指導だけではわからない箇所について3人のボランティアの皆さんに直接聞くことができるので効率よく活動ができ、さらにけがをする児童もほとんどいない。家庭科の授業では、あちらこちらから会話が聞こえ、とても和やかな時間が流れている。以下は、各学年の児童と保護者の声である。</p> <p>○5学年:【児童】玉留めや縫い方がわからなかったけれど一緒にやってくれたのでよくわかった。初めて使うミシンが楽しくできた。</p> <p>○6学年:【児童】できたところをほめてくれるので、嬉しかった。わからないことがすぐに聞けてよかった。</p> <p>【保護者】きれいに仕上がっていて感心しました。学校の中で、便利に使っているようです。使うことが楽しみのようです。</p>										

学校の概要		学校名	安曇野市立 穂高南小 学校		学校長	山崎 光信		児童生徒数	596 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	穂高南小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人		
				・民生児童委員 ・社会福祉協議会					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	2	人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月31日 2月24日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
						具体的な役職(他をを選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	美しさあふれ ことばひびきあい 活気みなぎる学校											
地域と共有された育てたい子どもの姿	「かしこく 心ゆたかに たくましく」 生きる穂高南の子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	130	人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について							参加者延べ人数		50	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間				
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習				
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)				
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
	読み聞かせボランティア(6月27日)			5年脱穀(9月30日)			中庭草取り作業(9月10日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
・読み聞かせボランティアとして、月に数回クラスごと本の読み聞かせをしてくださっている。さらに読書旬間には「お話散歩道」の読み聞かせだけでなく、本の朗読をして子どもたちに本に興味を持ってもらおうとしてくださっている。コロナ禍ではあるが、感染警戒レベルが低い時期と重なり実施することができた。ボランティアの方と職員との話の中で、ボランティアの方も実施に前向きであることや、子どもの反応を楽しみにされていることがわかり、大変有り難く感じている。												

学校の概要		学校名	安曇野市 立 穂高西小 学校	学校長	松下 玲	児童生徒数	381 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人				
	穂高西小学校学校運営協議会 学校応援団代表 地域有識者 民生児童委員 校長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	3 人				
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	5月16日 9月22日 2月27日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他					
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		民生児童委員					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	○広い心で思いやるのある子 ○自ら気づき、進んでやる子 ○よく考え、粘り強い子										
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域にある宝(学習の素材など)に目を向け、それをきっかけに学ぶことで、また、地域の方と関わることで「地域が好きと言える子ども」「地域に誇りを持つ子ども」を育てたい。										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○						
2	学校運営への必要な支援について	○									
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	44 人					
					参加者延べ人数	250 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
		オオルリジミを復活させよう(6月7日)		全校田植え(5月17日)		クラブ活動(6月15日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>本校では「オオルリジミ」を復活させようという地域の活動に子どもたちが賛同し、数年前からオオルリジミが卵を産む「クララ」を校内に栽培したり、クララを活用した染物体験などに取り組んでいる。地域の方の熱意に触発され、子どもたちは「穂高西小学校にオオルリジミが来てくれたらいいな」という願いのもと、近くの公園に植えられたクララを見に行くようになった。実際にオオルリジミがいたことを確認したことで、さらに興味をわいてきているようだ。</p> <p>校長講話でも触れていただき、さらに興味をもった3年生は、オオルリジミの研究をしている大学研究者の方と一緒に蝶の模型作りをしたり、生態についてさらに詳しく学んだりすることができた。</p> <p>「地域の方と一緒に学ぶ」ことは子どもたちにとって興味関心を高めたり深めたりする上で非常に効果的であると感じる。「地域の方の思い」を知ることにより、自分が地域の一員であることを自覚し、地域をさらに好きになる機会になることがこの活動を通して明らかになった。</p> <p>今後もこのような活動を大切にしていきたい。</p>											

学校の概要		学校名	安曇野市立 豊科北小 学校		学校長	麻田 記良		児童生徒数	560 名														
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																							
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																	
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある																	
			市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																
学校運営協議会(コミュニティスクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある															
			○	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある															
名称		豊科北小学校学校運営協議会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員長 社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター 学校支援ボランティア代表				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)													
		地域コーディネーター				1		人															
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				2		人															
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月13日 11月8日 2~3月予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民													
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)															
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																							
学校教育目標		○求める ○きたえる ○思いやる																					
地域と共有された育てたい子どもの姿		○自ら深く考え、自ら行う子ども ○心身ともに健康で、ねばり強い子ども ○支え合い共に歩む、明るい子ども																					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																	
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○											
2		学校運営への必要な支援について				○																	
3		地域の実情や課題について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○											
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○											
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 39 人 参加者延べ人数 128 人											
地域学校協働活動の概要												登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		給食		休み時間	
												清掃		ICT		○ 学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
												土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
												人権教育		国際理解		託児							
												学校・家庭・地域の協働した取組例											
		6年地域体験フィールドワーク(5月31日)		3年せせらぎの生き物観察学習(6月23日)		6年生エプロン制作(6月28日)																	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																							
○3年生は、市文化課の方においでいただき、校庭西側に流れているせせらぎに棲んでいる生き物の観察学習を行った。子どもたちが捕まえた生き物が、ヨコエビ、コエビアカメンゴ、カワゲラ、ヒル、アマガエル、オニヤンマのヤゴであることを教えていただいたり、「落ち葉をヨコエビが食べ、そのヨコエビをヤゴが食べ、この不幸にして死んでしまったヤゴはアリが食べ、生き物は死んでも他の命になっていく。」というお話を聞いたりして、自然の生き物のつながりについて学びを深めることができた。																							
○6年生が、総合的な学習の時間に地域体験学習を行った。NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団のみなさんにご協力をいただき、法蔵寺や防災広場など校区内の4つのエリアを歩き、謎探しをした。「気づく」「疑問を持つ」「考える」の過程でワークシートに書き込んだり、Chromebookを持参し写真を撮ったりした。学校に戻り、各自の探してきた謎ベスト3をまとめ、チーム内で共有し、地域の謎に興味をもち、主体的に学ぼうとする姿が見られた。																							
○6年生の家庭科で、エプロンの製作を行った際、この学習で最も難しいミシンの扱いについて、寺所ひさご会の方に教えていただいた。優しく丁寧に、分かりやすく教えてくださったことで、すぐにできるようになった子どもたちは、寺所ひさご会の方への尊敬の念や感謝の気持ちをもつことができた。																							




学校の概要		学校名	安曇野市 立豊科南小 学校	学校長	會田 義昭	児童生徒数	717 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
		市町村教委	<input type="radio"/>	自治会代表	<input type="radio"/>	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	<input type="radio"/>	PTA代表	<input type="radio"/>	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	<input type="radio"/>	学校長・教頭以外の学校職員	<input type="radio"/>	ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	豊科南小学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	3 人		
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	5月27日 12月14日 2月15日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	根っこをのぼす ～学びの根っこ 心の根っこ 元気の根っこ～								
地域と共有された育てたい子どもの姿	① 学びの根っこ(知) ・自分の良さに気づく(肯定感)、「できる自分」(有能感)を感じる。 ② 心の根っこ(徳) ・いじめをしない、許さない。 ・すすんであいさつ、そうじをする。 ③ 元気の根っこ(体) ・積極的に学び、すすんで体を動かす。 ・自分の力で歩いて登校・下校する。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			<input type="radio"/>	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		<input type="radio"/>	
2	学校運営への必要な支援について			<input type="radio"/>					
3	地域の実情や課題について				2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		<input type="radio"/>	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 20 人	参加者延べ人数 80 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	<input type="radio"/>	読み聞かせ	<input type="radio"/>	児童会、生徒会	クラブ、部活動	<input type="radio"/>	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	<input type="radio"/>	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
学校・家庭・地域の協働した取組例									
	1年春の遠足(5月20日)		1年サツマイモの苗植え(6月8日)		4年脱穀(10月13日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>栽培活動は低学年の生活科や中学年以上の「総合的な学習の時間」の中核的な活動である。しかしながら、担当職員に専門的な知識が不足していたり、学年職員が女性ばかりで重いものを動かせなかったりすることもある。</p> <p>今年度は特に1学年の活動において、地域ボランティアとともに活動することが多かった。1学年ではサツマイモの栽培を行うが、畑の土作りや畝づくりなど準備段階からアドバイスや実際の作業をいただき、児童の活動の場ではお手本を示しながら、わかりやすく活動を紹介していただいた。また、集団の活動になじめない児童については、別の場所で寄り添っていただくこともあった。年間を通じて、除草や水やりなどの畑の管理もともにしていただき、職員や児童の負担を軽減した上で充実した活動になるようお支えいただいた。</p>									

学校の概要		学校名	安曇野市 立豊科東小 学校	校長	馬淵 勝己	児童生徒数	177 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	豊科東小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 人			
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	3 人			
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	5月26日、12月・2月(日時未定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民				
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	知・徳・体のバランスのとれた健全な発達									
地域と共有された育てたい子どもの姿	1 よく考え すすんで学び 行動する子ども 2 思いやりがあり 美しい心の子ども 3 がまん強く たくましい子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○			
3	地域の実情や課題について	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	44 人				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	5		参加者延べ人数	544 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解	○	託児	○		○		○	
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
	田植え(R4, 5, 17)		読み聞かせ(R4, 6, 3)		ミシン指導(R4,7, 14)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
5年生が米作りを地域の方に学んでいる。田植え、除草、水の管理、稲刈り、脱穀、しめ縄飾りづくり等、1年間にわたってご指導いただきお礼、子どもたちは米作りの楽しさと大変さを実感することができている。また、米作りの体験が社会の学習にも生かされている。										

学校の概要		学校名	安曇野市 立 堀金小	学校	学校長	内山 一好	児童生徒数	421 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	堀金小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員 社会福祉協議会		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 人			
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		3	人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	4/28(木)、10/24(月)、2/16(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	みつける きたえる 思いやる										
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から考え学ぶ子(友だちの思いを聴いて考えを深める。自分の考えをやすく伝える) ・ねばり強くがんばる子(自分のめあてに向かって努力する。元気を動かしきたえる) ・人やものにやさしくできる子(友だちのいいところを見つける。感謝して掃除をする。気持ちよい挨拶をする) 										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。						
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	50 人			
							参加者延べ人数	400 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
		5年水稻栽培指導(5月～10月)		持久走安全見守り(10月)		5・6年生拾ヶ堰クリーン大作戦(10月6日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
5・6年生による「拾ヶ堰クリーン大作戦」は今年で6年目となる。市環境課と水利組合に協力していただいている他、昨年度より公民館の呼びかけで地域の方にもボランティアとして参加をしていただいている。清掃活動がスムーズに進むよう事前に各団体に集まってもらい打ち合わせ会を実施し、それぞれの役割分担を決めた。当日は、児童や地域の人など計170人が参加し水路に捨てられた空き缶やペットボトルなどを回収し、軽トラ2台分のごみを回収した。子どもたちは歴史ある水路にたくさんのごみが捨てられている現状に驚いた。しかし、清掃活動を地域の方と一緒にやり、拾ヶ堰をきれいにする事ができたことで自分たちも地域の一員だという自覚を高め、その一員として郷土の宝である拾ヶ堰を自分たちの手できれいにしていこうという気持ちを強くすることができた。											

学校の概要		学校名	安曇野市 立三郷小	学校	学校長	西川 友人	児童生徒数	937 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	三郷小学校学校運営協議会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会福祉協議会地域福祉係職員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	4	人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	7月21日	11月25日	2月10日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民		
						具体的な役職(他をを選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	自ら学ぶ子(やる気) 心豊かな子ども(思いやり) 明るくたくましい子ども(健康)									
地域と共有された育てたい子どもの姿	全校の合言葉 ～「まなびあい」「ひびきあい」「みがきあい」～ ・わからないと言える子ども ・一緒にやろうと言える子ども ・友だちの声に耳を傾ける子ども ・納得するまで追究できる子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について		○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○			
3	地域の実情や課題について		○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	120	人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		○	4		参加者延べ人数	110	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		米づくり(アイガモ農法)4月～11月		大豆づくり 6月～10月		りんご学習 4月～11月				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
10年以上にわたって5年生に引きつがれてきた「アイガモ農法による米づくり」の活動。当時、保護者としてこの活動を中心になって支援していただいた応援団の方が、今でも、地域の様々な組織の方とつながって支援してくださっています。アイガモの世話をすることで、子どもたちは頻りに田んぼに足を運ぶようになり、自然と米の様子の変化に気づき、自分たちで課題を解決しようと取り組む姿が多く見られました。また、米一粒にこめられた多くの労力を知って食べ物への感謝の気持ちを持つことができました。日々の給食の様子を見ても、5年生は残食がほとんどない日が続いています。										

学校の概要		学校名	安曇野市 立明北小 学校	学校長	高野 恵理	児童生徒数	101 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	明北小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
				地域住民 社会福祉協議会職員		地域コーディネーター	0 人		
会議開催数(予定)		3 回	今年度開催日(予定)	7月11日 10月21日 2月27日(予定)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		明るく ゆたかに 生きる 子ども							
地域と共有された育てたい子どもの姿		<input type="checkbox"/> 自ら動き出す子ども <input type="checkbox"/> よく遊び、よく働き、よく学ぶ子ども <input type="checkbox"/> なかまを思いやる子ども <input type="checkbox"/> 自然や社会とかかわり、地域を愛する子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について	○							
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	24 人			
					参加者延べ人数	28 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		クラブ活動の指導(通年)		遠足・社会見学での引率(10月)		花壇の花植作業(7月12日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
○ クラブ活動における指導をしていただいたことで、専門的な知見を児童に指導していただくことができた。 囲碁、将棋クラブ 手芸クラブ パソコンクラブ 木彫りクラブ の4つのクラブでご指導をいただいた。 ○ 児童のやりたいことと、設置クラブは必ずしも一致はしていないが、専門的なことを教えていただくことができ、集中して取り組むことができた。									

学校の概要		学校名	安曇野市 立明南小	学校	学校長	竹内 幸浩	児童生徒数	220 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	明南小学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
				社会福祉協議会、元PTA会長、前PTA会長		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		2	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	①6月8日(水) ②9月15日(木) 新型コロナ感染拡大のため中止 ③2月21日(火) 予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
学校教育目標		夢をゆたかに 未来をにう子ども かしこく やさしく たくましく							
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの個性を大切に、伸ばしていける子ども ・「人とのつながり」を大切に、「明るい気持ちになれるあいさつ」ができる子ども ・自らすすんで、学習や諸活動に取り組む子ども 							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		40 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		参加者延べ人数		120 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
学校・家庭・地域の協働した取組例									
		読み聞かせ(9/8 通年)		箏クラブ(9/8 他に年6回)		登校時の低学年見守り支援(通年)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
○ 登校時の低学年見守り支援 1年生を中心に、年間を通してボランティアの方々に登校時の支援をしていただいている。登校後の児童の荷物や提出書類の整理、雨の日の登校後にぬれた雨具や衣類を干す作業などを、担任と協力しながら行っていただいている。また、その後も一緒に遊んだり、朝の会に参加したりしていただいているので、子どもたちも大変親しみを感じている。子どもたちは、地域の方々の見守りがあってこそ安全で楽しい学校生活を送れることを実感できている。また、ボランティアの方々も子どもたちの顔と名前を覚え、地域全体で子どもを見守り育ててくれている。									

学校の概要		学校名	池田町	立池田小	学校	学校長	工藤 美恵	児童生徒数	189 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○		自治会代表		○	
		公民館代表		○		PTA代表		○	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			○	
		○			学校長・教頭以外の学校職員			○	
池田町学びの郷活性化委員会 池田保小コミュニティ・スクール		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 学識経験者、主任児童委員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)			ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称					地域コーディネーター			1 人	
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			0 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月19日、11月29日、2月15日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
								地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		自ら学び共に考える子							
地域と共有された育てたい子どもの姿		「チャレンジしたい!」 「なかよしになりたい!」 「池田町がすき!」							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2 学校運営への必要な支援について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
3 地域の実情や課題について		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数 30 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			参加者延べ人数			27 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		清掃				ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育				国際理解		託児	
									
		米作り(4月～10月)		長野県版運動プログラム		防災のためのサバイバル講習会(11月7日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
・総合的な学習の時間の一環として、5・6年生が米作りに取り組んだ。学校の近くの田んぼを借り、種まき、田植え、稲刈り、脱穀等、一連の活動を体験した。池田町営農支援センターや池田町農業委員会の方をはじめ、お手伝いをしてくださる地域の方々と共に作業をすることを通して、お米ができるまでの作業の大変さや、作業後の満足感・達成感を味わうことができた。地域の方々と直接話し、教えていただき、共に働くことで、地域の方との関係を広め、より地域について関心をもつ機会となった。									

学校の概要		学校名	池田町 立会染小 学校	学校長	葎本 直樹	児童生徒数	224 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	<input type="radio"/>	会議の委員構成			<input type="radio"/>	ボランティアのリストがある		
		市町村教委	<input type="radio"/>	自治会代表	<input type="radio"/>	ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	<input type="radio"/>	公民館代表	<input type="radio"/>	PTA代表	<input type="radio"/>	ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	<input type="radio"/>	学校長・教頭以外の学校職員	<input type="radio"/>	ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	学びの郷活性化委員会(会染保小コミュニティスクール)		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人
			学識経験者 児童センター長 保育園長・主任				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	5月19日(木)	11月28日(月)	2月15日(水)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	その他	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	放課後子ども教室支援員	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	子どもがまんなか自らうごく会染の子ども							
地域と共有された育てたい子どもの姿	よく学ぶ子 よく遊ぶ子 よく働く子							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			<input type="radio"/>	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		<input type="radio"/>
2	学校運営への必要な支援について							
3	地域の実情や課題について			<input type="radio"/>	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		<input type="radio"/>
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	8 人
							参加者延べ人数	5 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	<input type="radio"/>	読み聞かせ	<input type="radio"/>	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	<input type="radio"/>	地域の伝統文化の継承に係る活動	<input type="radio"/>	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児			
学校・家庭・地域の協働した取組例								
	肥後守永尾光雄さんとの交流6・23		5年生田中学さんとの稲作(6月～10月)		4年生・6年生内鎌かんぴょう作り(8月)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
5年生育苗・田植え・稲刈り・はぜかけ・脱穀(内鎌地区 田中学さんから学ぶ) 肥後守40周年 匠 永尾光雄さんとの交流会 4年生・6年生内鎌かんぴょう作り(内鎌かんぴょう保存会のみなさん) 3年生桜泉峡あずきづくり(保存会のみなさん)								

学A1:AM19校の概要	学校名	松川村	立松川小	学校	学校長	細江 洋司	児童生徒数	455 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
	市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	松川村コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	2 人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月20日実施、(3学期予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	心をみがく									
地域と共有された育てたい子どもの姿	「学び続ける子、自分も友だちも大切にできる子～向上心・真心をみがく～」									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数	20 人		
							ボランティア登録者人数	70 人		
							参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	米粉を使った調理活動(7月8日)		裁縫(9月5日)		野菜収穫体験(9月7日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
生活科、総合などにおいて学年で足並みをそろえ、慣例行事の一環として行われていた活動が、今年度は、それぞれの学級で「やりたい」ことを見つけ、地域素材を活用しながら実践できている。研究部会を中心に様々な活動を繰り返し、それが広がりモデルとなりつつある。米粉を使った調理活動では、地域の方(村で米粉料理を販売している方)に年間通して長いスパンで子どもたちにかかわっていただいている。様々な活動へと発展していく際、ご自身の経験や夢をもとに、子どもたちにかかわってくださりありがたい。技を学ぶだけでなく、生き方や生き様に触れながら学ぶ機会となっている。繰り返しかかわることで、まねごとから始まる活動も本物になり、地域の方に支えていただきながら学び育つ姿が見られる。										

学校の概要		学校名	白馬村	立白馬南小	学校	学校長	吉沢 一夫	児童生徒数	103 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)								
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある								
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある								
名称		白馬南小学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 主任児童委員、商工会、観光協会、シニアクラブ、郵便局長、元・前・現PTA会長、農業法人代表、社会教育委員、前村議会議員、老人福祉施所長		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人			
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人				
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)		5月10日、11月25日、2月6日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		主任児童委員					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う ・はげみ合う ・むつまじく 											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ①・自らの目標や願いの達成に向け、主体的に追究する子・対話的・協働的な学びにより、広く深く思考して、自らの考え方を高める子・学ぶ喜びや達成感に支えられ、前向きに学び続ける子 ②・自らの高まりを目指して粘り強く学び、追究する子・目標に向かってあきらめず努力する子・ふるさと白馬を誇りに思い、将来の自己実現を目指す子 ③・他者に対し、温かく優しい思いやりの心をもって行動できる子・互いの違いを認め合い、自らの力を発揮しながら伸びる子・感謝の気持ちを表現することのできる子 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○						
2 学校運営への必要な支援について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。								
3 地域の実情や課題について		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○						
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		20 人				
5 教職員の任用に関する一般的な要望について							参加者延べ人数		10 人				
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
		人権教育	○	国際理解		託児							
													
		食用ホオズキ栽培指導(5月18日～)			米作り(5月～10月)			学区内のごみ拾い(6月22日)					
代表的な協働した活動の取組例													
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>・4年生中心に、総合的な学習の時間に食用ホオズキの栽培に取り組んでいる。学校の畑での栽培活動に際し、地域で実際にホオズキ栽培をしている「白馬サンサン会」の方々が児童への指導を直接してくださっている。栽培指導の中で、ホオズキの種類や、白馬がなぜホオズキ栽培に適しているかなど、児童の疑問にもその都度答えてくださっており、地域の特色について理解を深める一助となっている。また、サンサン会の畑へ行き、収穫作業や選別作業を手伝うことを通して、単なる学校の栽培活動への支援だけでなく、互いに利益のある関係作りにもつながっている。</p> <p>・冬期間のスキー学習に関わり、裏山スキー場のグレンデ整備やアルペン、クロス、ジャンプの技術指導などに多くのご支援をいただいている。</p>													

学校の概要		学校名	白馬村	立白馬北小	学校	学校長	松下 設吉	児童生徒数	291 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	白馬北小学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 社会教育委員、主任児童委員、子ども会育成会会長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
			地域コーディネーター	1	人	地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0	人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	4月27日	11月14日	2月22日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		社会教育委員		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	元気で 明るく 今をがんばる北城のこども									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も友だちも大切に子ども ・粘り強く、友だちと共に学び続ける子ども ・進んで体をきたえる子ども 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	46	人	
							参加者延べ人数	66	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	米作り 田植え(6/2)		家庭科裁縫の学習ボランティア(7/8)		いいあいさつの日(5/11)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
5年生が総合的な学習の時間に、地域の「(有)マイテカル」の皆さんにご協力をいただきながら米作りを学んでいる。学校近くの田んぼを地域の方からお借りして、田おこしや代かき、田植え、稲刈り、脱穀など年間を通じてマイテカルの皆さんや保護者の皆さんにご協力をいただいている。天候を予想しながら田植えや稲刈り等を行い、子どもたちは自然とともに米作りをする難しさを実感した。また、脱穀作業を初めて体験する子どももおり、手作業で行う活動の楽しさや大変さとともに、機械を用いた農業や社会科の学習に体験から学んだことをいかしている。										

学校の概要		学校名	小谷村 立 小谷小	学校	学校長	中村 恭之	児童生徒数	109 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	おたり学校園運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)						
						地域コーディネーター	1 人					
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人				
会議開催数(予定)	4 回	今年度開催日(予定)	5/27, 6/24, 11/8, 2/			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	一人一人がいさいさ輝く小谷っ子											
地域と共有された育てたい子どもの姿	○<教育課題>伝え合い、聴き合い、学び合う(協働の学び) ○<めざす子どもの姿>ともに学び、夢を拓く人(中3でめざす姿)											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数	100 人				
						ボランティア登録者人数		80 人				
						参加者延べ人数						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解		託児							
												
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  1,2年交通安全教室(4/20) </div> <div style="text-align: center;">  3年どんぐりの会による読み聞かせ(6/13) </div> <div style="text-align: center;">  小谷っ子タイムおやき作り(10/5) </div> </div>												
代表的な協働した活動の取組例									(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)			
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○毎年、小谷駐在所所長、小谷村役場総務課安全協会の皆様交通安全教室の講師をお願いしている。1,2年生は登下校時の歩行について交通事故に遭わないようにするための実地練習を行い、3~6年生は、自転車に関わる交通法規及びマナーについてDVDを鑑賞しながら重点をご指導いただいた。いずれも、児童の安全のための「思考力・判断力・表現力」を高めるために、自分で考えたり、友だちと対話を通して考えたりする活動を大切に交通安全教室をねらいとして実施した。この他、小谷駐在所所長、小谷村役場総務課安全協会の皆様は、隔月の登校指導でもポイント場所に立って、児童の安全を見守りご指導くださっている。また、ふれあい番所の皆様も、毎朝登校する徒歩通学児童や、登校バスの終点でバスを降りるバス通学児童の安全を見守ってくださっている。												




学校の概要		学校名	大町市立八坂小学校			学校長	大滝 仁		児童数	47 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
			○	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称		八坂学校運営協議会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入 民生児童委員協議会代表 保育園保護者代表 山村留学センター代表 一般公募		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人	
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1	人	
会議開催数(予定)		4	回	今年度開催日(予定) ①5/17 ②9/30 兼研修会 ③12/16 ④2/24		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		問いをもって学ぶ八坂の子										
地域と共有された育てたい子どもの姿		①学校理念「学び合いの里 八坂」と共に歩む ②目指す人間像 ～ 義務一貫教育9年間で育てる姿 ～ 「自分が好き」と言える子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					○
2	学校運営への必要な支援について					○						
3	地域の実情や課題について					○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					○	4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	82	人	
								参加者延べ人数	160	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		連学年遠足(4月28日)			郷土ふれあい体験学習(10月1日)			八坂ふれあい運動会(10月9日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
八坂小PTA・八坂公民館・八坂小学校の三者共催による「郷土ふれあい体験学習」は、地域講師から地域の文化を学ぶ機会として実施している。本年度は、「竹細工作り、おやき作り、わら細工作り、そば打ち・うす焼き作り、木工細工作り、木工クラフト作り」の各コーナーを設け、地域講師(計21名)から、竹でつぼう・弓矢作り、地元特産の灰焼きおやき作り、わらを使った正月飾り・ほうき作り、そば打ち体験等について親子で学んだ。本年度も、ICT機器を活用してオンラインで小学校と公民館を結んで、各コーナーの交流も行った。子どもたちが嬉々として体験学習を行う姿に触れ、地域講師の皆さんからも「子どもたちからたくさん元気をもらうことができた。」という感想が聞かれた。 このように地域の「人・もの・こと」と関わることを通して、児童は自分と自分を取り巻く人々を再認識し、自己有用感を向上させ、よりよく生きようとする姿が見られつつある。その一方、学校行事への支援活動は、地域ボランティアの皆さんの「学びの場」にもなっており、助け合いや励まし合いなどを通して互いの結びつきを深め、地域コミュニティを成長させる一役も担っている。												

学校の概要		学校名	大町市 立 大町東小 学校		学校長	宮澤 忠利		児童生徒数	135 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
			市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	大町東小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1	人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月12日(木) 9月5日(月) 12月20日(火) 2月28日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	きたえる 思いやる 求める										
地域と共有された育てたい子どもの姿	○力を合わせて、粘り強く本気でやり抜く子ども ○自分やまわりの人を大切にできる子ども ○友と学びながら、自分の考えを表現したいと思える子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数			35 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5			参加者延べ人数			52 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
○8月24日(水)より、大町東小学校放課後子ども教室を開設し、本校空き教室を利用して、希望児童18名が毎週水曜日に参加をしている。 ○5月の学校運営協議会において、放課後子ども教室を開設することを承認いただき、同月学校地域協働ボランティア打合せ会において、学校地域協働本部が主体となって運営をしていくこと提案し決定した。 ○開室に当たっては、教頭と各支援部部長が中心となって推進し、施設管理・子どもの流れ・活動内容について検討を重ねて準備を進めた。施設管理面で必要な下駄箱は建築業を営む民生児童委員が製作、長机は公民館から借用させていただき、地域の協力を得ることができた。 ○教室の指導責任者は元教員である学校運営協議会委員の方に委嘱をし、開室当初から学校運営協議会委員の皆様がサポートをしていただき、声掛けをした地域学校協働ボランティアの方の参加も得て、支援の輪が広がってきた。 ○参加している子どもたちは、教室が始まるとはじめに家庭学習を集中して取り組み、残りの時間を地域の方々と一緒に折り紙や紙飛行機づくりを楽しむ姿が見られ、水曜日の教室を楽しみにしている。											

学校の概要		学校名	大町市 立 大町西小 学校		学校長	中原 敏		児童生徒数	262 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	大町西小学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 ボランティア代表、主任児童委員、大町地区子ども育成会会長、桜を守る会代表、市民代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1		人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月2日 12月15日 2月28日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	自ら学ぶ・友と学ぶ・仁科の里に学ぶ											
地域と共有された育てたい子どもの姿	ふるさとについて学び、ふるさとに愛着を持ち、いつまでも大切にできる子ども。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	67	人
									参加者延べ人数		43	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解	○	託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
			下校見守りボランティア(4月～8月)			150周年記念運動会のドローン撮影(9月17日)			桜の枯れ枝の伐採(10月9日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
校舎が現在の地に移転した翌年、昭和6年に地域の方々の手によって校地内に植えられた100本の桜。春には見事な花を咲かせ、全校児童が桜を絵に表現したり、お花見給食を楽しんだりしているだけでなく、市内外からも多くの方が訪れる桜の名所となっており、桜は西小のシンボルとなっている。その桜が寿命を迎えつつあり、カビ類に覆われて弱った枝や、花をつけない枝などが多く確認されるようになってきている。その弱った枝が、雨風等によって折れて落ちてくれば大変危険であるため、歴代のPTA会長さんたちで組織する西小桜の木を守る会のみなさんと、学校支援ボランティアの環境支援部のみなさんと、桜の枯れ枝を伐採してください。また、桜を伐採するだけでなく、いつまでも桜が西小のシンボルであるようにと、新しい桜の苗木も計画的に植えてくださっている。本校は今年度開校150周年を迎え、子どもたちも生活科や総合的な学習の時間を中心に、150周年にちなんだ学習活動を進めているが、桜に関する学習活動がいくつも進められている。												

学校の概要		学校名	大町市 立 大町南小 学校		学校長	篠崎 元嗣		児童生徒数	264 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	大町南小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいますか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人		
				老人クラブ(寿会)代表 民生児童委員代表 育成会代表 保育園長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1	人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月 6日 9月 7日 12月 12日 2月 15日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		元公民館長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	よくまなぶ子 いつもこころに「みて きて」											
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域に学ぶ子ども しっかり聴く子ども すすんであいさつをする子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○	
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	50	人	
							参加者延べ人数		40	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	○	国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
大町南小学校は、松林に学校が取り囲まれています。この松林は本校のシンボルでもあります。今年で開校134周年となりますが、この間、南小に在籍した子どもたちや職員と「常盤」の皆様で脈々と受け継いできた大切な「松林」です。毎年「松林再生プロジェクト」として、植樹から育苗、松林に関連した数々の「学び」を展開し、子どもたちの「郷土愛」が一層育ってきています。今後も「松林」に関する活動を通して、常盤地区で育ち、南小で学んだことに誇りをもち、「自分が好きで、学校が好きで、常盤が好き」と言える子どもたちを育てていきたいと思えます。また、この松林の中を走る「松林マラソン」を年間で実施しています。地域でも、常盤少年駅伝大会が位置付いており、今年40回目の記念大会が行われます。地域の代表選手になれるように、子どもたちはこの松林の中で、体力を培っています。11月には校内の松林マラソン大会も行われます。地域の方に走り方を教わったり、コースを整備していただいたり、大会の運営をお手伝いいただいたりと地域、校内一体となって、松林マラソンの活動を盛り上げています。												




学校の概要		学校名	大町市 立 大町北小 学校	学校長	宮入 勝彦	児童生徒数	254 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	大町北小学校 学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 子ども育成会代表 主任児童委員 学校支援ボランティア代表 公民館長 地域有識者		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 1 人					
	会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月11日・10月28日・12月21日・2月8日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 地域住民 具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 学校支援コーディネーター					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	かしこく なかよく たくましく											
地域と共有された育てたい子どもの姿	学び続ける子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○							
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○							
3	地域の実情や課題について	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○							
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	30 人	ボランティア登録者人数	50 人					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					参加者延べ人数						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
保護者や地域の方々が「北小の子どもたちのために私たちが何が出来るかを、気軽に集まって、お茶でも飲んで話しませんか?」と、みんなで縁側に腰掛けて気軽に話をするようなスタンスで始まった『北小カフェ』(写真中)。参加者の口コミだけで、参加者が増加した。今年度も『コミュニティスクール 今後の『Action』! ~具体的な活動に向けて~』を基幹テーマとして、グループ別懇談などをしながら具体的な支援について模索している。先生たちからも率直な希望を聞かせて欲しいと、今年度は年間行事計画の中に学期に一度の『先生と北小カフェ』を位置付けて実施している。 大町市の旧市内4小学校は、令和8年度開校を目指して学校再編を控えている。今後、同一通学区になる予定の大町西小学校や大町東小学校、さらに来年度開校の大町中学校の学校支援関係の皆さんと学校支援のベクトルを共有できるように北小カフェへの参加を呼び掛けており、コミュニティスクールとしての再編も視野に入れて活動を始めている。												

学校の概要		学校名	松本市	立開智小	学校	学校長	玉水 智香子	児童生徒数	584 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表			○ PTA代表					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○					
名称		開智小学校コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)					
					主任民生児童委員			地域コーディネーター 3 人					
					学識経験者			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人					
					企業経営者								
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		7月 8日(金) 2月 3日(金)予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
								公民館職員(公民館長・公民館主事)					
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
								公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		愛 正 剛											
地域と共有された育てたい子どもの姿		・仲良く元気な子 ・自らの意思で学び続ける子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2		学校運営への必要な支援について			○								
3		地域の実情や課題について			○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数 4 人 参加者延べ人数 4 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		火縄銃出前授業(10月21日)		4学年「信濃の国」の学習(9月16日)		PTA交通安全指導(周年)							
代表的な協働した活動の取組例													
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>来年に控えている創立150周年に向け、4学年で総合的な学習の時間に深めている県歌「信濃の国」についての特別授業を本校体育館にて行った。開智小の学区内にお住いの後藤芳孝先生(元学校の先生で、元松本城管理事務所職員)と、旧開智学校職員の遠藤正教先生「信濃の国」と開智小学校校歌を作詞した浅井列さんについて講話をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開智小学校のすぐ近く(鷹匠町)の家で生まれた人であること。 ・開智小学校の先生・松本深志高校の先生・信州大学教育学部の先生もしていた人であること。 ・長野県の各地の学校の校歌を作っていた人であること。 ・「信濃の国」は、昔、田町小学校(今の城北公民館の場所にあった学校)の運動会で踊られていたこと。 <p>開智小学校とつながる話ばかりで、子ども達は親近感をもって話を聞いていた。いままで以上に、開智小学校校歌と県歌「信濃の国」に関心を寄せることができた。</p>													

学校の概要		学校名	松本市	立源池小	学校	学校長	原 修 司	児童生徒数	238 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○	
		学校長・教頭以外の学校職員		○		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	源池っ子応援団			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人
				<ul style="list-style-type: none"> ・民生主任児童委員 ・ボランティア代表 ・保育園長 ・児童センター館長 					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	第1回 5月27日 第2回 11月 8日 第3回 3月 7日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	人を愛して身を正し強い心で生きていく源池の子ども 愛・正・柔の心								
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもの心に寄り添った支援の充実と確かな学力をつけてほしい。 ・信頼関係のある安心できる学校であってほしい。 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○
2	学校運営への必要な支援について				○				
3	地域の実情や課題について				○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 40 人	参加者延べ人数 90 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		米作り(5月～11月)		クラブ活動(6月～10月)		見守り隊(毎朝)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
5年生が総合的な学習で、「米作り」に取り組んでいる。市街地にある本校では農地がほとんどなく米作りをしている人もほとんどいない。コーディネーターの公民館長さんに地域の米作り農家さんを探してもらい、代掻き、田植え、草取り、稲刈り、脱穀等一連の作業を学び米作りに取り組んだ。日頃、田園風景を見ることがない子どもたちが、学校の敷地内にある田んぼで米の生育を見ながら米作りを体験できることは大変貴重な学びである。社会科学習で最新の米作り学びながら、昔の米作り体験を通して農家の工夫や努力も学ぶことができた。最後は、収穫した米を使って家庭科でお米の炊き方も学びながら自分たちで作ったお米を味わうことができた。毎日食べているご飯が、多くの人の手や作業を経ていることを実感し、一粒を大切にすることを知った。育てることの大変さとともに、育てる楽しさや喜びも感じる事ができた。									

学校の概要		学校名	松本市立	立 筑摩小	学校	学校長	熊谷 賢一	児童生徒数	367 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	筑摩小学校CS運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
				地区育成会長・地区育成会総務部長・地域づくりセンター長・子どもプラザ館長・さくら保育園長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月23日 2月27日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		コーディネーター			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	やさしく かしく たくましく 本年度のあいことば「自分の考えで一歩ふみだす」										
地域と共有された育てたい子どもの姿	自分の考えをもつために「ことばの力」「論理的思考力」「情報活用力」を身につけよう 一歩ふみ出すために「対話力(きく力)」「協調力(つなぐ力)」「行動力(うごく力)を身につけよう										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 30 人 参加者延べ人数 200 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
			松本一本ねぎ栽培(5月～11月)			ECメイプル(通年)			米づくり(5月～10月)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
・松本一本ねぎは、神田地区発祥の信州伝統野菜です。給食にも登場し、火を通すと甘く、子どもたちにも人気です。松本一本ねぎを栽培する農家の方のご指導のもと、ねぎ畑の見学、ねぎの定植・ねぎの植え替え・ねぎの収穫・草取りを行った。また、地元の食品会社の協力で、自分たちで育てたねぎを使って、ぎょうざづくりにも挑戦している。こうした活動を通して、自分たちの育てたねぎに愛着をもち、地域の野菜を愛する心を育てると共に、松本の伝統的な野菜を若い世代につなげていきたいと考える栽培農家の方の思いに触れることができるようにしている。											

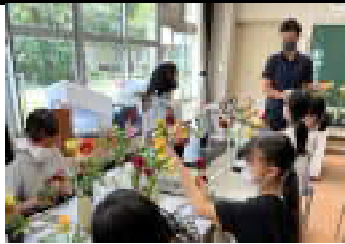
学校の概要		学校名	松本市立 並柳小 学校		校長	石澤 和人		児童生徒数	313 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		松本版コミュニティスクール並小運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		民生児童委員 栽培学習支援者代表 保育園長 中学校長						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月26日(木) 10月20日(木) 2月28日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		「行きも帰りも笑顔」 「先生、あのね」											
地域と共有された育てたい子どもの姿		「学ぶって楽しいね」 学びの楽しさや意義を知り、自ら学び続ける子ども 「わたしていいね あなたっていいね」 自分のよさを知り、自分も相手も大切にできる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 登録制ではない人			
								参加者延べ人数		99 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		特支学級太鼓学習引率補助(6/10)		学級懇談会時の託児活動(7/8)		朝のあいさつ運動(10/12)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
例年の活動の中の一つに「引率サポート」があり、本年度はコロナ禍ではあったが、感染拡大防止についてのレベルの見直しもあり、ご助力いただくことができた。本年度は、特支学級太鼓学習への引率補助や2年乗り物遠足への引率補助、6年2組総合的な学習の時間での校外活動への引率補助を行っていただいた。学校職員の引率だけでは、どうしても手薄になってしまう移動中の安全確保や介助を中心に、学習時のサポートも行っていたので、大事な経験を積むことのできる校外での学習をこうしたコロナ禍の状況の中でも安心して実施することができている。「校外での活動を行いたいのサポートをお願いできないでしょうか。」と相談をさせていただくと、すぐに人員の調整をしていただいているので、たいへん有難く感じている。さらに、実施することができなかったが、特支学級ふれあい教育展参加への引率補助などもお願いをしていた。こうしたサポートをいただくと、安全確保の面だけでなく、児童とCSボランティアの方とのつながりも生まれ、児童の様子についてさまざまな気づきを担任に教えていただき有難く思っている。													

学校の概要		学校名	松本市	立旭町小	学校	学校長	高野 毅	児童生徒数	354 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		旭町小学校学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 ・児童クラブや学童クラブ館長 ・保育園や幼稚園長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
		地域コーディネーター		2		人			
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人			
会議開催数(予定)		2		回		今年度開催日(予定)		①令和4年5月17日(火) ②令和5年1月30日(月)	
								中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
								公民館職員(公民館長・公民館主事)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
								公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		「他者と共に自ら学ぶ意欲を持ち、心身健やかな児童の育成」 『 やさしく、 かしく、 たくましく 』							
地域と共有された育てたい子どもの姿		・自分の考えや思いに自信をもち、自ら動き出す子ども ・周りの人やものと一緒に進んでかかわり、豊かな心を育む子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。
2		学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。
3		地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		ボランティア登録者人数		80 人
								参加者延べ人数	
								80 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		清掃				ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解				託児	
									
		お仕事ゼミ(7月19日)		さつまいもの栽培～苗植え～(6月10日)		あさひカフェ(毎週水曜日/休み時間)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
・昨年度から、地域と学校との交流拠点として、校内に「あさひカフェ」を立ち上げ、様々な遊びや触れ合いを通して、地域の方々子どもたちが交流を重ねてきている。新型コロナウイルスによる運営・時間などの制約があったが「あさひカフェ」を心待ちにしている子どもたちはたくさんいる。「あさひカフェ」のスタッフが工夫し準備してくれるいろいろな対局ゲームや達成感のある遊びには、子どもたちが普段味わうことがあまりない内容も盛り込まれている。「あさひカフェ」で迎えてくれるスタッフや地域の方・学生ボランティアたちと一緒に時間を過ごすことによって、友だちとのかかわりの中で生じる心のもやもやが晴れたり、不登校傾向の子どもが登校する楽しみが一つ増えたりする様子が見られた。また今年度は不登校支援に関わって、毎週金曜日に「静かなあさひカフェ」としての取り組みもスタートした。あさひカフェ店長のTさんや職員があさひカフェで不登校傾向の子どもの話を聞きながら、ゆったりとした時間を過ごしている。まだ、スタートしたばかりであるが、子どもたちの気持ちを解きほぐし、安心できる居場所になっている。									

学校の概要		学校名	松本市	立田川小	学校	校長	木村 令子	児童生徒数	272 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○		
		○		○		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称		田川っ子応援団			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		
		保育園長 児童センター館長 田川福祉ひろば担当者			地域コーディネーター		2 人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月13日(金) 2月7日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
								公民館職員(公民館長・公民館主事)		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
								公民館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		愛 やさしく 正 ただし 剛 たくましく								
地域と共有された育てたい子どもの姿		自己肯定感のもてる子 <重点目標> ①あいさつ 感謝 思いやり ②よく聞き 考え 伝え合う ③遊んで 動いて 体づくり								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		ボランティア登録者人数		18 人	
		○			4		参加者延べ人数		185 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会	
	清掃		○		ICT		○		学習ボランティア	
	土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
	人権教育		○		国際理解		○		託児	
学校・家庭・地域の協働した取組例							クラブ、部活動		給食	
	生き物自然観察クラブ支援(5月～9月)		4年 五平餅作り(10月4日)		全校 読み聞かせの会(通年 月1回)		総合的な学習の時間支援		給食	
							ボランティア登録者人数		18 人	
								参加者延べ人数		185 人
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
クラブ活動や総合的な学習の時間では、専門的な知識を有する地域の方に、いっしょに田川に行ってもらい、川のどんな場所にどんな生き物がいるのかを教えてください、実際に捕まえた生き物について様々なことを教えてください、とても充実した活動を行うことができました。また、活動を通して地域にある田川への愛着が高まり、川を大切にしようという気持ちにつながった。										




学校の概要		学校名	松本市立 鎌田小 学校		学校長	宮下 明浩		児童生徒数	903 名														
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																							
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																	
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある																	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある																	
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある																	
名称		鎌田小学校学校応援団運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		子ども会育成会会長 松本子どもを守る会 公民館主事 民生児童委員 児童センター館長		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)													
		地域コーディネーター		1		人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人													
会議開催数(予定)		3		回		今年度開催日(予定)		1回目…5月23日(月) ※書面開催 2回目…11月8日(火) ※感染症拡大防止のため中止 3回目…3月1日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)													
										公民館職員(公民館長・公民館主事)													
										具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)													
										鎌田公民館長													
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																							
学校教育目標		○もともめよう 自ら学ぶ子ども ○はげもう 粘り強くやりぬく子ども ○つながろう 考えを広めたり、深めたりする子ども																					
地域と共有された育てたい子どもの姿		○自分と相手を大切にすること・思いやりのある子・交通安全や健康などに気をつける子 ○相手に伝わるあいさつを交わせる子 ○一生懸命に取り組み、考えを伝えあえる子																					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																	
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○											
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○											
3		地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○											
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		20 人											
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○		4		参加者延べ人数		45 人											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間		○	
		清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習		○	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
		人権教育		○		国際理解		○		託児		○											
学校・家庭・地域の協働した取組例																							
		3学年 鎌田お宝探検(6月～7月)				4学年 松本一本ねぎの活動(春～秋)				全校 本の読み聞かせ(通年)													
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																							
・3学年は、総合的な学習の時間で「鎌田お宝探検」と題し、鎌田地区にある歴史的建造物、伝統文化などについて学習を進めてきている。一学期には、5月11日、12日に鎌田地区井川城方面、6月9日に鎌田地区両島方面、7月5日に鎌田地区高宮方面の探検に出掛け、地区内のお宝探しをおこなった。それぞれの日において、鎌田公民館長が講師となり、建造物や文化財などの歴史について教えていただいた。児童にとっては、普段生活している鎌田地区であるが知らないことが多かったり、住んでいる町会以外の場所へは行ったことがなかったりする中で、より広く鎌田地区を知り、自分たちが住んでいる鎌田を大切にしていこうという意識が芽生えてきている。																							

学校の概要		学校名	松本市	立開明小	学校	学校長	大槻 久	児童生徒数	593 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○		
				○		学校長・教頭以外の学校職員		○		
名称		開明小コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 児童センター館長 主任児童委員 公民館主事			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		
		地域コーディネーター		1		人				
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人				
会議開催数(予定)		3		回		今年度開催日(予定)		5月20日 10月14日 2月10日		
								中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
								公民館職員(公民館長・公民館主事)		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		正しく かしく たくましく								
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・顔を見てあいさつのできる子ども ・聞き合い、学び合える子ども ・じょうぶな体づくりを心がける子ども ・清掃などの奉仕活動に熱心に取り組める子ども 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	
2		学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	
3		地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数	
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		620		人	
		ボランティア登録者人数		100		人		参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会	
	清掃				ICT				学習ボランティア	
	土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動				子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
	人権教育				国際理解				託児	
	クラブ、部活動				給食				休み時間	
	総合的な学習の時間支援				コロナウイルス対策の消毒・清掃				放課後教科・体験学習	
	防災学習(避難訓練)				遠足・登山				キャリア教育(職場体験を含む)	
	学校・家庭・地域の協働した取組例				読み聞かせ(7/21)				松本一本ネギ植え替え(8/29)	
					花壇への球根植え(11/2)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○ 花壇への球根植え ・本校南門を入ったところにある花壇の中で、地域の方々が管理して花を咲かせてくださっている一角がある。普段から関わってくださっていることもあり、来春に向けて、その他の花壇にも球根を植えてくださることになった。 ・南庭の花壇の管理をしている1、2年生の中から、2年3組が代表して、ボランティアの方々と一緒にチューリップと水仙の球根を植えた。 ・ボランティアの方々が土を耕し、腐葉土を混ぜてから畝をつくる過程を見ていた児童から、「こうやってやるんだね」という声が聞かれた。児童は、一つ一つの球根を、丁寧に土の中に植えていった。 ・最後に、きれいな花を咲かせるために知らないところで動いてくださっていたお礼にと、学級で取り組んでいるダンスを披露し、温かな心の交流が生まれた。 ・児童から「来年、どんな花が咲くか、楽しみ」という声が聞かれた。										

学校の概要		学校名	松本 立 清水小 学校			学校長	伊藤 茂		児童生徒数	604 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		清水わくわく応援団				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
						東部公民館主事・第三地区公民館主任・東部交番所長・前民生児童委員・主任児童委員・あがた児童センター館長・県BBS連盟松本地区会元副会長		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月6日 11月17日 2月22日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		心豊かな子ども よく考える子ども たくましい子ども											
地域と共有された育てたい子どもの姿		ゆかしく 正しく たくましく											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 53 人		参加者延べ人数 146 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		菊作り(6,7月)				鍵盤ハーモニカの学習(6月)				クラブ活動(6~10月:4回)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
内容 児童に対する学習支援(菊作り) 場所 清水小学校南庭 対象 2学級の児童 支援していただいた方 地域の方々 成果や効果 菊作りについて、土作りから丁寧に指導いただいた。児童と一緒に取り組んでいただくことで、菊作りの仕方がよくわかるとともに、児童がボランティアの方への感謝の気持ちをもてるようになった。													




学校の概要		学校名	松本市	立島内小	学校	校長	今井 俊文	児童生徒数	773 名							
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について											
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)								
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○								
				○		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある								
名称		島内っ子応援団			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)								
		保育園長 民生児童員					地域コーディネーター		2 人							
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人							
会議開催数(予定)		2	回	今年度開催日(予定)		5月20日 2月24日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)								
								公民館職員(公民館長・公民館主事)								
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)								
								公民館長								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																
学校教育目標		たくましく歩もうとする子(自立) 共に生きようとする子(共生) 深く学ぼうとする子(探究)														
地域と共有された育てたい子どもの姿		笑顔あふれる学校 すこやかな子ども ・あいさつの声で心をつなぐ ・校舎や地域を大切に育てる心をはぐくむ ・思いやりの心をのばす														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況											
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○							
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○							
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)									
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		120 人							
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		ボランティア登録者人数		250 人							
							参加者延べ人数									
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		クラブ、部活動	給食	休み時間				
		清掃			ICT			学習ボランティア		○	総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)				
		人権教育		国際理解		託児										
								登下校の見守り(通年)		2年生 ヤギの世話(9月)		5年生 稲刈り脱穀体験(9・10月)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																
【2年生 ヤギの世話】 本校では、毎年2年生が地域の方からヤギをお借りして「動物の命の営みに触れ、命を慈しみ愛護の気持ちを育てる」ことを目的に飼育体験を行っている。学校でヤギをお預かりして1週間ほどしたところで、ヤギが体調を崩してしまい、子ども達は命を預かり育てることの厳しさを知った。ヤギを貸してくださった方も、子ども達の学びのためにと、一度ヤギを引き取り体調が戻ったところで再度ヤギを学校に戻してくださった。子ども達は改めて命の大切さを学ぶと共に、当番活動を通して、自分に任された仕事は、責任を持って行うことの大切さも学ぶ体験となった。																

学校の概要		学校名	松本市	立 中山小	学校	学校長	宮田 恭子	児童生徒数	98 名										
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																			
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について														
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある											
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある										
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		PTA代表		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある											
名称		中山っ子応援団			【その他の委員】※具体的な役職名を記入 主任児童委員、民生児童委員 地域作りセンター長、保育園長 児童センター長、地区図書館長 子ども育成会長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)											
		地域コーディネーター		1		人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)											
		0		人															
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月29日 10月28日 1月26日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)											
								公民館職員(公民館長・公民館主事)											
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)											
								公民館長											
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																			
学校教育目標		1 自ら考え表現する子ども 2 やさしい子ども 3 郷土「中山」に愛着をもつ子ども																	
地域と共有された育てたい子どもの姿		なかよく やさしく じぶんから まなぶ																	
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況														
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○											
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○											
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		○											
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		約100 人											
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		ボランティア登録者人数		約70 人											
						参加者延べ人数		約70 人											
地域学校協働活動の概要																			
										登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会	
										清掃				ICT		○		学習ボランティア	
										土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
人権教育				国際理解				託児											
クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間											
総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習											
防災学習(避難訓練)				遠足・登山				キャリア教育(職場体験を含む)											
学校・家庭・地域の協働した取組例																			
		読み聞かせ(2ヶ月に1回)		クラブ活動(5月～12月 全8回)		米作り(5月～10月)													
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																			
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																			
<p>「読み聞かせ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中山文庫お話の会」の方が来校し、季節や行事に関連した話を選んで読み聞かせてくださっている。 ・学級ごとに隔月に1回、生活科プレイルームで行い、1回の時間は1授業時間(45分)。図書館教育係が日程調整している。 ・子どもたちは、卓越した技術を持った方からお話を聞くことをとても楽しみにしている。 また、コロナ前には、スペシャル読み聞かせ会も年1回行っており、中山文庫お話の会の方が工夫して読み聞かせ会をしてくださっていた。 ・定期的に来校されることで学校との連携が密になり、伝えてくださった校外での子どもたちの様子を日々の指導にいかすことができている。 定期的に読み聞かせを行っていただいている方が、民生委員もやっているので、地域での情報も学校に教えてくれて本当に助かっている。 																			



学校の概要		学校名	松本市 立島立小	学校	学校長	齋藤 令子	児童生徒数	301 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	島立っ子応援団運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
			地域ボランティア			地域コーディネーター	1 人		
会議開催数(予定)	2 回	今年度開催日(予定)	6月17日 2月 2日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	自ら進んで学ぶ子ども 最後までやりぬく子ども 思いやりのある子ども 心も体も丈夫な子ども								
地域と共有された育てたい子どもの姿	人との関わりの中で自ら学び自己表現できる子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数		19 人
							ボランティア登録者人数		64 人
							参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		放課後学習教室(5/16)		読み聞かせ(6/30)		クラブ活動(6/24)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
年に、2回(5月:家庭訪問時、12月保護者懇談会時の午後)の放課後学習教室を実施した。学習支援ボランティアさん10名に依頼。5月は3日間、12月は5日間、一回45分行った。コロナ感染予防を図るため、学年ごとにグループを組み、各グループに2~3名入っていた。児童の自主学習の支援をお願いした。実施後、「難しい漢字が読めるようになってよかった。」「いろんな問題に通用するようなやり方を知ることができた。」といった児童のふり返りが見られるなど、学習に対して自信をつけた様子がうかがえた。ボランティアさんからは、「参加した子どもたちはみんな素直で明るく、3日間楽しく過ごさせていただきました。放課後残って勉強しようという気持ちが素晴らしく、ほのぼのとした気持ちで皆さんに感謝です。」という感想をいただいた。									

学校の概要		学校名	松本市立 山辺小 学校		学校長	青山康郎		児童生徒数	572 名						
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について															
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある									
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)									
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある									
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある									
名称	やまべっ子応援団		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 4 人						
			子ども育成会長 主任児童委員						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人						
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)		6月16日 11月18日 1月26日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)						
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況															
学校教育目標	共に生きる力を培う にこにこ(思いやりのある子ども) ぴちぴち(体をきたえ、やりぬく子ども) はきはき(考え、はっきり話せる子ども)														
地域と共有された育てたい子どもの姿	世界をひろげよう 子どもはみんなの宝物 ・地域の学び地域に貢献できる子ども ・関わりの中で豊かな心を育む子ども														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況									
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2	学校運営への必要な支援について				○										
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		40 人					
								ボランティア登録者人数		40 人					
								参加者延べ人数		40 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		○	児童会、生徒会		クラブ、部活動		○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		○	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)				遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解			託児									
	学校・家庭・地域の協働した取組例														
		ぶどう栽培・ジベレリン処理(5/23)		米作り・脱穀(9/26)		特別支援学級の野菜作り(5/17)									
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)															
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
<ul style="list-style-type: none"> ・やまべっ子応援団(JA山辺青年部)の皆様からの指導を受け、学校用のぶどう畑でデラウェアのジベレリン処理に取り組む。「ジベレリン液はぶどうを種なしにし、粒を大きくする薬品であること」を教わり、作業の仕方を学ぶ。子どもたちは、コップに注いだジベレリン溶液をデラウェア一房一房に丁寧に浸す。時間が経つにつれ手早く作業を進めることができた。 ・活動の振り返りから(感想)「ジベレリン液をふさまでつけるとき、ぶどうを下に向けてるのがとてもむずかしかった。コロナでできないと思ったが、できてよかった。つぶの大きなおいしいぶどうができるのが待ちどおしい。」「農家の方のたいへんさや苦労がよくわかった。」 ・この処理が不十分だと、種が入ったブドウになるとのことで、やり残しがないように、畑の中を何度も往復した。 															

学校の概要		学校名	松本市立 岡田小 学校		学校長	野口 成彦		児童生徒数	361 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		岡田小学校地域応援団 運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
								地域コーディネーター		1 人			
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月23日 2月7日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		笑顔あふれる おかだの子											
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域とのかかわりを通して、地域を愛し、「生きる力」を高めていく子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。							
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		15 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数				60 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		代かき(5月12日)				地域探検学習(9月15日)				全校縦割り遠足(10月14日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>本校では伝統行事として、「縦割り遠足」を毎年実施してきている。昨年度から、より地域に親しみを持つことも目的に加えて、岡田地区の「ウォークラリー」を行っている。6年生は、縦割り班のリーダーとしての役割を担うので、まず、自分たちの住む岡田地区について理解を深める学習活動を行った。校区探検を地域の方々と一緒に 行うことで、より地域のことを理解することにつなげたいと考え、コーディネーターの方に依頼し、地域の方々にご協力いただくことにした。校区探検当日、一緒に史跡を巡ったり、土地の使われ方について学んだりすることを通して、自分たちの住む地域への理解をさらに深めることができた。</p> <p>当日は、史跡について下級生に話す姿も見られた。また、当日はPTAや地域の方々にポイントに立っていただくなどの協力があり、安全面にも配慮した全校遠足を行うことができた。</p>													

学校の概要		学校名	松本市 立 芝沢小 学校		学校長	赤羽 秀明		児童生徒数	424 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		芝っ子応援団				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定) 第1回 6月9日 第2回 7月1日 (参観日に合わせての授業参観) 第3回 2月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		「学び きたえる やさしい子」 ① 自ら学ぶ子 ② 体を鍛える子 ③ 心豊かな子											
地域と共有された育てたい子どもの姿		① 自ら考えをもち、学ぶ力を高めよう子ども② 命を守り、体づくりに取組む子ども③ 友とともに心を磨き、行動する子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 65 人		参加者延べ人数 200 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間 ○	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習 ○		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		お話の会OHP(通年)				米作り(粃蒔き)(4月21日)				松本大学見学(11月11日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>・松本大学との連携では、今年度「ボランティア学生の受け入れ」「児童の大学見学」「職員研修」をおこなった。学生ボランティアは年間を通して学生が教室に入り学習の支援にあたっている。また、今年度は、休み時間中に児童対応等の支援を受けている。職員の研修を通じて、児童の大学見学・交流も進めてきている。</p> <p>・5学年の総合学習のコメ作りでは、地域のくれき野生産組合の方々より、田んぼを貸していただき、年間を通じて支援していただいている。写真は、脱穀の様子だが、千羽こき、足ふみ脱穀機、唐箕、ハーベスターといった色々な方法を体験することができた。例年、稲の種蒔から始まり、代掻き、田植え、稲刈り、収穫祭まで、年間を通じて、児童の学びを支えていただいている。今年度は収穫祭を実施しない予定。芝沢小学校の学区は、田園地帯で、稲作に関わる家庭があるものの全く経験のない児童も多くいる。こうした地域の方が熱心に関わっていただくことで、身近なものとして児童の学びが深まり、机上の学習では学べない生きた学習へとつながっている。どの活動でも児童は、熱心に地域の方のお話を聞き、活動に取組んだ。稲作の過程を知るだけでなく、成長の喜び、労働の大変さ、また、命の育むことへの感謝など、心に届く支援をしていただいた。</p>													

学校の概要		学校名	松本市立 芳川小 学校		学校長	松田真理		児童生徒数	781 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		芳川っ子サポーター運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
						・地域づくりセンター長 ・児童センター長 ・民生委員 ・保護司 ・主任児童委員 ・子ども育成会会長 ・PTA会長 ・前年度PTA会長		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月12日(木) 10月25日(金) 2月10日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		やさしさと強さと求める心の湧いてくる学校 「共生」「自立」「探究」											
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域の方々に温かく支えられ、見守られて育つ芳川の子どもの姿											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 70 人		参加者延べ人数 200 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		読み聞かせボランティア(毎週月曜日)				四ヶ堰学習(6月21日)				スクールファーム稲刈り(9月21日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
スクールファーム 【取組み】 ・総合的な学習の時間の中でスクールファームの栽培活動を、地域のサポーターの方々の協力をいただき行っている。3年生はトマト、4年生はホウキギビ、5年生は稲を栽培する。 ・3年生の収穫したトマトは加工用と出荷したり、それを用いて調理をしたりする。 ・4年生は収穫したホウキギビを使って、野溝箒の技法を講師を招き教えていただきながら、机上箒の製作を行う。 ・5年生は収穫したお米を販売し、得た収益をどのように使うかの学習につなげていく。 ・5年生が中心となってご協力いただいたサポーターの方々に向けて感謝の会を企画運営し、学習の成果を発表したり、支援していただいた方々に感謝の気持ちを伝えたりする。 【成果】 ・地域とのつながりを感じながら活動ができている。子どもたちが主体的に取り組む姿を見ることができる。													

学校の概要		学校名	松本市	立寿小	学校	学校長	市川 元彦	児童生徒数	674 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	寿小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
	寿保育園園長, 安全協会会長, 子ども育成会会長, 地域ボランティアの方						地域コーディネーター	1	人	
地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0		人						
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月9日, 10月28日(感染予防のため書面により実施), 2月7日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	明るい子ども 強い子ども 考える子ども									
地域と共有された育てたい子どもの姿	「子どもは寿の宝」として地域全体で子どもたちを育てていくとともに, 人のかかわり合いを通して感受性豊かな子どもを育てたいという願いのもと, 地域を愛する子, 地域を誇りに思う子, 地域の一員として地域を支えていく子の育成を目指していく。									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで, 情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		85 人
								参加者延べ人数		162 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会, 生徒会	クラブ, 部活動	○	給食	休み時間	○	
	清掃		ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解	託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	ここにこルーム 七夕飾り(7月15日)			里山体験学習 きのご鑑定(9月28日)			家庭科ミシン学習 整備(10月28日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し, 活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を, どこで, 誰と取り組み, どのような成果や効果があったか)										
5年生では, 2年ぶりに里山体験学習を実施した。地区の人たちが, 寿財産区で管理している里山を大切にしている思いに気づき, 自然に対する関心を高めること, 林業とはどのような仕事か, どのように自分たちの生活と関わっているのかを, 実際の体験を通して考えることがねらいである。 寿財産区・寿さと山くらぶ・寿公民館に支援いただき, 総合的な学習の時間, 社会科と横断的な学習として, 旧学有林のトレッキング, きのごや植物採集・鑑定, 樹木の伐採見学, 間伐材を利用したのネームプレートづくりに取り組んだ。 事前学習を含め, 自分たちの地域を知るとともに, 国土や林業について, 体験を通して理解を深めた。										

学校の概要		学校名	松本市 立 明善小 学校			学校長	田中 智之		児童生徒数	401 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		明善っ子応援団				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		公民館主事 地域住民代表 支援団体代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)	
		地域コーディネーター		1		人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月24日 2月2日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		一人一人が輝く明善校(つよく かしく あたたく)									
地域と共有された育てたい子どもの姿		○明るく元気なあいさつができる子 ○安全意識を常にもった行動をする子 ○地域のよさを知り明善の地を愛する子									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		15 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○						参加者延べ人数		68 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会	
		清掃		○		ICT		○		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		○		国際理解		○		託児	
											
		美ヶ原高原登山補助(8月26日)				ささら踊り学習(9月30日)				稲刈り補助(10月4日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>学区内にある内田地区は、昔、官牧が置かれ、たくさんの馬が飼育されていた。その馬を送り出す際に踊られていた「ササラ踊り」は、市の重要無形民俗文化財に指定されている。昨年に引き続きこの踊りを「運動会」で披露したいと願った3年生の子どもたちは、内田ササラ踊り保存会の方々や内田地区公民館長から踊りを教えていただくとともに、地域の人々が培ってきた歴史について学ぶことによって、これまで以上に地域を知り、地域とつながることができた。この出会いをきっかけとして、子どもたちの興味は、地域にある重要文化財「馬場家住宅」に向かい始めている。</p>											



学校の概要		学校名	松本市	立今井小	学校	学校長	坂口 克夫	児童生徒数	148 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	今井っ子なかよし会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)						0 人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月23日(月) 12月1日(木) 3月3日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	互いの違いを理解し 良さを認めながら 心豊かに たくましく生きる子どもの育成									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な立場の人々を理解し、思いやりのある優しい子ども ・自分のことを大切にできる子ども ・人と関わって、意欲的に前向きに行動できる子ども ・地域のことを知り、地域に育ったことを起こりに、自分の人生を切り開いて行くことができる子ども 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		50 人
								ボランティア登録者人数		40 人
								参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	今井四郎兼平をたどる遠足(6月3日)		りんごの観察(7月21日)		今井の水をめぐる歴史を学ぶ(9月26日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
今井が誇る郷土の英雄である今井四郎兼平。毎年6年生が「兼平太鼓」(和太鼓)を中心とした活動を行い、音楽会をはじめ地域の夏祭りや文化祭などで披露している。今井地区には兼平をめぐる伝承や伝説の地が多く残っており、6年生は毎年今井四郎兼平の足跡や史跡をたどる遠足を行っている。地域の三村幸一さんを中心講師にお迎えし、歴史学習と関連付けながら今井四郎兼平の人となりや当時の状況などを説明いただき実際に史跡を見学し地域への思い、今も脈々と続く歴史の営みの流れを実感する機会となっている。子ども達は三村さんからお話をお聞きする中で、自分達の地区で大事にされている神社の由来を知ったり、実際にお祭りで舞う舞の意味を考えたりしている様子が見られた。また、兼平の形見石、義仲公が植えたと思われる桜を見て、歴史上の人物が確かにそこに生きていたことを実感した様子であった。また、自分達が受け継いでいる「兼平太鼓」への思いを深めていた。このように地域の方に実際にお話しをお聞きすることができる機会は大変貴重であり、とてもありがたい。これからもこのような活動を大事に考え、地域の方の想いと児童とを繋いでいきたいと思う。										

学校の概要		学校名	松本市立 菅野小学校		学校長	井坪 秀明		児童生徒数	589 名																								
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																																	
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																											
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある																									
				市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある																							
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある																							
名称		菅野小学校コミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人																							
				地域づくりセンター長 子ども育成会長 主任児童委員				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人																							
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		①5月27日(金) ②11月8日(火) ③1月27日(金)				中心のコーディネーターの立場(リストより選択) 公民館職員(公民館長・公民館主事)																							
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				公民館長																							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																																	
学校教育目標		しっかり学ぶかしい子 美しくやさしい心の子 くじけずがんばりぬく子 じょうぶでたくましい子																															
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ◆地域とのつながりを実感しふるさと菅野を愛する子ども ◆自分からあいさつができコミュニケーションがとれる子ども ◆考える力をもち元気でたくましい子ども 																															
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																											
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 学校運営への必要な支援について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○																					
3 地域の実情や課題について		○		4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○																					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		3		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)																									
								4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 175 人		参加者延べ人数 約480 人																					
地域学校協働活動の概要 												登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食				休み時間			
												清掃				ICT				学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃				放課後教科・体験学習	
												土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)				遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
												人権教育				国際理解				託児													
学校・家庭・地域の協働した取組例		6年生「畑を借りて松本一本ねぎ栽培」(5月10日)		「おはなしがの」による読み聞かせ(9月15日)		1年生「スカイパークへ秋探し」同行支援(11月2日)																											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																																	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																																	
<p>本校には、読み聞かせのボランティア「おはなしがの」というサークルがある。20年前に発足し、登録者は19名。今年度は5月20日の1年生から順番に回を重ね、2月2日の2年生まで活動を予定。朝の全校読書の時間(8:30~8:45)に1・2年生は年間4回ずつ、3~6年生は3回ずつ、教室で読み聞かせをしていた。当番になった方が、季節や学年に応じた紙芝居や絵本を持参し、情感たっぷりに読んでくださる。子どもたちはこの時間を楽しみにしている。</p> <p>11月の読書旬間中には「特別なお話の部屋」と題して、全校向けに読み聞かせをしてくださる。今年も全校が一堂に会することはできないが、オンラインで同じ読み物の楽しさを共有し、読書への意欲を高めることが期待される。</p> <p>地域の方にご来校いただき、普段の子どもたちの様子を見て、読み聞かせを通して感じたこと等ご意見いただく機会は貴重である。クラスの仲間とも読み聞かせでつながり、話を聞いて考える態度を養い、学校生活に潤いをもたらす活動である。</p>																																	




学校の概要		学校名	松本市	立 二子小	学校	校長	大和 正秀	児童生徒数	227 名							
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について											
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある								
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)								
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○								
				○		学校長・教頭以外の学校職員		○								
二子の子育て応援団		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		2 人							
名称							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人							
会議開催数(予定)		2	回	今年度開催日(予定)	①5月30日(月) ②2月21日(火)…予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)							
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																
学校教育目標		【勇気】心の豊かな思いやりのある子ども 【やる気】自分から気づき、考え、生み出していく意欲にみちた子ども 【根気】根気強く、やりとげる力を持った子ども 【元気】進んでたくましく体をきたえる子ども														
地域と共有された育てたい子どもの姿		・元気なあいさつができる子ども ・よりよい人間関係をはぐくむ子ども ・地域とのつながりを大切にする子ども														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況											
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○									
2 学校運営への必要な支援について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。											
3 地域の実情や課題について					3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)											
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		60 人							
5 教職員の任用に関する一般的な要望について							参加者延べ人数		50 人							
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
		清掃			ICT			学習ボランティア		○	総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)		
		人権教育		国際理解		託児										
																
		クラブ活動(9月22日)		交通安全教室(9月30日)		読み聞かせ(新型コロナの影響で現在まで未実施)										
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																
【外部講師によるクラブ指導】 ・今年度は「フラワーアレンジメント」「ビーズ手芸」「卓球」「陶芸」「サッカー」「バスケットボール」の6つのクラブを指導していただいている。 ・クラブ活動は、9月～11月の木曜日の6校時に5回実施(6回計画したが、新型コロナの影響で1回は見合わせ)。 ・特別な材料や用具などの準備を講師の方々にしていただくことがあり、大変ありがたい。 ・それぞれの分野の専門性に秀でた講師の方々に教えていただくことができるので、児童にとっては例年とても楽しみな時間となっている。																

学校の概要		学校名	松本市 立 本郷小 学校	学校長	唐澤 信好	児童生徒数	341 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換がある				
		公民館代表		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○ 学校長・教頭以外の学校職員				
名称	「本郷小学校応援団」運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が 学校職員以外 にいるか(それぞれの人数を記入)				
				民生児童委員 子ども育成会 地域づくりセンター長 保育園長 幼稚園長 公民館主事 安全協会支部長 児童センター長 読み聞かせボランティア代表		地域コーディネーター 1 人				
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月11日 2月3日				
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				
						公民館職員(公民館長・公民館主事)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
						公民館長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		なかよく つよく おおらかに								
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自他を認め合える子ども ・ねばり強く取り組む子ども ・ふるさと本郷を大切にしている子ども 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
3 地域の実情や課題について				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4		協働活動に参加したボランティアの人数				
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						ボランティア登録者人数 32 人 参加者延べ人数 117 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	遠足・登山	○	防災学習(避難訓練)		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		水辺の観察会(8月26日)		美ヶ原登山(7月8日)		夏休み職員自主研修(8月1日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
【夏休み職員自主研修】～学校職員と学校運営委員との合同研修会～										
1 研修内容 「なぜ本郷小学校に美術室があるの?」～浅間温泉は長野県の戦後美術界の復興の震源地です～										
2 参加者 学校職員 本郷小学校運営委員										
3 講師 東御市梅野記念絵画館館長 大竹 永明										
4 協働した活動 地域について、共に学び合うことができた。										
5 成果 (1)先生方は、地域の宝に興味を持ち、地域に出て行き見学した。 (2)地域の方々も、学校職員について理解を深めることができた。 (3)職員と学校運営委員がつながりお互いに連携・協働しようとする意欲を高めることができた。										

学校の概要		学校名	松本市	立 四賀小	学校	学校長	荻部 あゆみ	児童生徒数	124 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○	
				○		学校長・教頭以外の学校職員		○	
名称		四賀小応援団運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 連合町会長、農業団体代表、福祉施設代表、読み聞かせボランティア代表、保育園長、障がい者施設代表、主任児童委員、地域づくりセンター長、文化財保護委員長、社会福祉協議会代表、自然保護団体			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)	
		地域コーディネーター		1		人			
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1		人			
会議開催数(予定)		2		回		今年度開催日(予定)		5月19日(木) 2月21日(火)	
								中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
								公民館職員(公民館長・公民館主事)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
								公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		花となかま笑顔の学校							
地域と共有された育てたい子どもの姿		自ら考え行動する力 自分も人も大事にする力 粘り強く挑戦する力							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		○
2		学校運営への必要な支援について			○		2		○
3		地域の実情や課題について			○		3		○
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		○
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		5		○
		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。							
		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
		協働活動に参加したボランティアの人数			72		人		人
		ボランティア登録者人数			30		人		人
		参加者延べ人数							
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会
	清掃				ICT				クラブ、部活動
	土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動				給食
	人権教育				国際理解				休み時間
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
									
	【3年】福祉ひろば交流(6月～1月)		【6年】大菊の輪台付(10月)		【5年】いきいき田んぼ活動(5～10月)				
代表的な協働した活動の取組例									
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
3年生は、1年間通して四賀地区福祉ひろばの方々といっしょに活動する機会を設定している。夏と秋は、学校花壇整備の活動で一緒に汗を流したり、秋から冬にかけては、福祉ひろばが企画した健康教室に参加して、歌やダンスの発表をしたり、じゃんけん肩たたきをしたりするなど、地域の参加者の皆さんと直接ふれ合う活動をした。また、花壇整備でお世話になっている方を、収穫祭(やきいも会)に招待するなど、地域の方と活動を共有することができた。地域の方々からは、「子どもたちの姿を見ると、元気が出る。」「とてもよく働く子どもたちで感心した。」と感想をいただいた。子どもたちも、「草取りのコツを教えてもらってきれいになってよかった。」と、普段よりも集中して活動に取り組む姿が見られた。また、発表の場面では、どんなことをすると喜んでもらえるかを考えたり、お年寄りとの活動の場面では、しゃがんで顔を見て、ゆっくり話したりするなど、様々な活動の中で、相手のことを考えて活動する姿を見せていた。									


学校の概要		学校名	松本市	立 梓川小	学校	学校長	田中 寛人	児童生徒数	760 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○		ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表						ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		PTA代表		○	ボランティアと学校の情報交換会がある
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の 学校職員		○				ボランティアの方を対象とした研修会がある
名称	あずさっ子応援隊			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター	2	人	
									地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)	0	人	
会議 開催数 (予定)	2	回	今年度 開催日 (予定)	5月19日→中止 2月9日			中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(他をを選択し た場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	梓川の大地に根ざして 豊かに自立する子どもの育成 あずさっ子 かしく なかよく たくましく											
地域と共有され たい子どもの姿	○よく考え、進んで学ぶ子ども⇒「かしく」 ○思いやりがあり、助け合う子ども⇒「なかよく」 ○体をきたえ、たくましい子ども⇒「たくましく」											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。		○				
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。		○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの 人数		ボランティア 登録者人数	65	人		
								参加者延べ 人数	300	人		
地域学校 協働活動 の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間					
	清掃		ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃	放課後教科・ 体験学習			
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動	子ども食堂(こども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場 体験を含む)			
	人権教育		国際理解	託児								
学校・家庭・ 地域の協働した 取組例												
	リンゴ栽培 総合的な学習支援(6~10月)			習字の学習ボランティア(7月)			学習ボランティア(7月~)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
総合的な学習の支援の取り組みについて ・3年生ではリンゴの栽培を総合的な学習の時間に行っている。 ・リンゴ栽培は学校の敷地内で、リンゴ農園を経営されている保護者を講師として招き、毎年指導をお願いしている。6月の摘果では、自分たちが普段よく見るリンゴが実は摘果など多くの手間をかけて作られているなど農家の方の苦勞を知ることができた。また、10月の収穫では、こういった苦勞を自分たちで体験したからこそ、収穫できる喜びを多く感じる事ができた。 ・年間を通しての講師の方がいてくださることで、子どもたちが困り感を持った時に話を聞くことができたり、プロの技を実際に自分たちの目で見る事ができたりすることができ大変ありがたかった。												

学校の概要		学校名	松本市	立波田小	学校	学校長	三輪 千子	児童生徒数	829 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		波田小コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)					
					子ども育成会長 学校支援ボランティア 青少年補導委員 地区長会連合代表 主任民生児童委員 波田体育協会代表 地域高齢者代表			地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人					
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月16日 2月16日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 公民館職員(公民館長・公民館主事)					
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		「ま」学び合おう:かしい子 「つ」続けよう:きたえる子 「か」輝こう:あかるい子 「ぜ」全員で											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に学び、体験を通して学習することで、興味関心を広げ、意欲的に学ぶ姿勢を育む。 ・自分が生まれ育った地域への思いを深め、地域への誇りと愛情を育む。 ・地域の方と語り合ったり触れ合ったりすることで、進んで相手とコミュニケーションをとる態度を育む。 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		80 人					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数		180 人					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例								下校指導(4月)		七夕人形作り(7月)		放課後の見守り(11月)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>本校では、今年度8月より、経済産業省の実証授業「未来の教室」事業に取り組んでいる。これは、教育課程(日課、行事、授業など)や教職員の業務内容を見直し、子どもたちが生き生きと学校生活を送れるように、また、学校だけでなく家庭や地域で遊ぶ時間を確保しゆとりある生活が送れる魅力ある学校づくりを目的とした事業である。その取り組みの一つとして、11月から、交通事故防止、安全安心の確保の観点から、遠くから通学する児童が明るいうちに帰宅できるように、下校時刻を早めることとした。その際、放課後、家庭の事情で学校に残る児童の見守り(学習や遊びの補助)を「子ども見守り隊」や「コミュニティースクール」など、地域の方にご支援をいただいている。</p> <p>始まったばかりの取組のため、成果や効果についてはまだ検証できないが、地域の皆様が、児童と積極的に関わってくださることで、児童の地域を愛する思いがより高まるのではないかと期待している。</p>													

学校の概要		学校名	松本市	立安曇小中	学校	学校長	山口 昇一	児童生徒数	小29 中18	名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の 学校職員				ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		松本市立安曇小中学校学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 子ども育成会会長			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
								地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)		人			
会議 開催数 (予定)		3 回		今年度 開催日 (予定)		5月19日(木) 2学期中に1回 1月30日(月)		中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		公民館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		【学校教育目標】清らの心とひとり立ちできる人間 【具現のための指導重点】①子どもが主体となって学ぶ学校 ②多様性を包み込む学校・学級づくり											
地域と共有され たい子どもの姿		【目指す児童・生徒の姿】「知・仁・勇」にあやかり(尾崎喜八書) ○「清らの心」…わかまえ(知)、思いやり(仁)、いさぎよい(勇) 心もち、 ○「ひとり立ち」…かしこく(知)、わけへだてをせず(仁)、つよい(勇) 人であれ。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。			○				
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。			○				
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの 人数			ボランティア 登録者人数 0 人				
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ 人数			30 人				
地域学校 協働活動 の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の 時間支援		コロナウイルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習	
		土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動		子ども食堂(子ども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場 体験を含む)	
		人権教育 ○		国際理解 ○		託児							
学校・家庭・地域 の協働した取組例								小中合同 上高地清掃遠足(10/17)		小学校クラブ 白骨温泉の球状石灰岩のコケとり(10/16)		中2 徳澤ロッジでの職場体験(10/20)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
安曇小中学校は山間地にある小規模併設校である。本年度4月より正式に「小規模特認校」制度を導入し、上高地をはじめ安曇地区の豊かな自然環境の中で、小規模少人数の特性を生かし、一人ひとりの個性を尊重しながら、元気にのびのびと学習に取り組んでいる。地域は学校と子どもたちをとても大切にしてくださり、学校の教育活動を全面的におしみなく応援してくださっている。そんな安心環境の中で、小中学校とも上高地をはじめ安曇地区全体を学習材として、地域のひと・もの・ことに触れる中から探求的な学びを展開している。本年度は小中併設校の良さを生かし、楽しみながら、日頃からお世話になっている上高地への恩返しの意味を込めて38年ぶりに上高地清掃遠足をおこなった。中学校2年生が中心となり、小学校時代から学んできたことを後輩や小学生にガイドをしながら巡る河童橋周辺の散策コースをつくった。この遠足に際し、夏休みに職員研修を兼ねた上高地の下見、中学校2年生による上高地の下見を実施。中信地区環境教育ネットワークの中林さん、環境省上高地支部の小森さん、上高地財団の加藤さん、上高地ボランティアレンジャーの方々等、数多くの方々のご協力により実施した。当日は小雨の降る天候となったため、清掃部分はカットし、散策のみをおこなった。中学校2年生の班長はそれぞれ独自の散策ルートや内容を考える中から、改めて上高地の良さに触れるとともに、小学生と中学生がごく自然に親しみ楽しむ姿が見られる散策となった。													

学校の概要		学校名	松本市	立大野川小	学校	校長	柳澤 充人	児童生徒数	20 名											
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																				
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について															
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある												
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)												
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある											
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○												
		○		○		学校長・教頭以外の学校職員		○												
大野川っ子応援団運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人											
名称		ブリッジの会代表 乗鞍女将さんの会代表 同窓会長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人											
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月13日 2月8日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)												
								公民館職員(公民館長・公民館主事)												
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)												
								公民館長												
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																				
学校教育目標		志高清練 ・大野川の雄大で厳しい自然に負けないように志を高く持ち、清らかで豊かな心を練り上げよう																		
地域と共有された育てたい子どもの姿		・やさしい子ども ・たくましい子ども ・かしこい子ども																		
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況															
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○											
2 学校運営への必要な支援について		○																		
3 地域の実情や課題について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○											
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○											
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		18 人											
								ボランティア登録者人数												
								参加者延べ人数												
								10 人												
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		休み時間					
	清掃		○		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○	
	人権教育		○		国際理解		○		託児		○									
学校・家庭・地域の協働した取組例																				
	地域消防団と防災訓練(4月21日)				地域の方と外来種植物除去作業(5月26日)				地域講師によるアルプホルン指導(9月10日)											
	代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																			
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																				
<ul style="list-style-type: none"> ・将来、乗鞍、沢渡、白骨地域を担っていく子どもたちが、生まれ育った地域に誇りと愛着を持ち、地域の伝統や特色について学び、成長していけるよう、学校と地域との連携のあり方、特色ある学校づくりに向けて1学期にコミュニティスクール運営委員会を通して協議した。 ・音楽の授業ではアルプホルンの地域講師を招いて演奏法を学び、山岳地域の伝統楽器に親しむとともに音楽会で全校や保護者に演奏を披露した。 ・児童達の中にこの地域ならではの良さや特色に気づき、更に学びたい意欲や地域の自然を守り、地域について発信し盛り上げていきたい気持ちが高まってきた。 																				

学校の概要		学校名	松本市	立奈川小	学校	学校長	坪田 利彦	児童生徒数	10 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	奈川小中学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月20日(金) 9月16日(金) (2月20日(月))			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	夢を追い(知) 心豊かに(徳) たくましく(体)											
地域と共有された育てたい子どもの姿	小中連携により15の自立をめざす 自己決定し、願いの実現に向けて粘り強く取り組む子 郷土奈川を想い愛着を持つ子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 50 人 参加者延べ人数 30 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		ふるさと学習(5月20日)		わらび採り(5月25日)		どうもこしの栽培(6月21日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
ふるさと学習 奈川小中学校の「ふるさと学習」は、「地域めぐり」「地域の匠に木工作品づくりを学ぶ」「奈川の発電所見学」を1年ごとに行っており、小学校では、今年「地域めぐり」を行った。奈川公民館長の忠地愛男さんをコーディネーターとして、事前打ち合わせを行い、当日は公用車で「奈川渡ダム」「奈川木工所」を見学した。奈川渡ダムでは、ふだんは公開していない地下に入れてもらい発電専用機等を見学させてもらい、高学年児童からは「ダムの構造を知ることができてとても勉強になった」という感想が聞かれた。低学年の児童も、3つのダムのことを知ることができてよかったと言っていた。奈川木工所では、いろいろな形やサイズに切った木を見せてもらい、機械を使ってカットする場面も見学できた。「少しもずれずに木を切っていてすごいと思った」という感想が聞かれた。2つの見学先で、小学生なりの新しい知見が得られたようである。見学を通して得られた発見や知識が、より、奈川への思いを膨らめていくのだと感じる。説明して下さった施設の方に対しての、感謝の気持ちも育まれ、思い出に残る活動になった。												

学校の概要		学校名	信州大学教育学部附属松本小 学校		学校長	宮下 昭夫		児童生徒数	432 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
			市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	附属松本小学校学校 育英会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター		2 人
	・元PTA会長								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			その他		
			①4月25日(月) ②6月22日(水)※書面議決 ③8月19日(金) ④9月26日(月)			具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			元PTA会長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	活気ある子ども 集中する子ども 仲の良い子ども										
地域と共有された育てたい子どもの姿	たくましく 心豊かな地球市民を育む 附属小学校で学んだ子ども達が、いずれ自分たちが育った松本に戻り、地域のために活躍できる人材を育てる										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について					○				○	
3	地域の実情や課題について					○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて						3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		人
									参加者延べ人数		100 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	ヤギの持ち主さん宅訪問(10月4日)		読み聞かせ(10月25日)		伝統工芸 練り切り体験(11月29日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
クラスの中核活動としてヤギ飼育をしている3年生。お借りしているヤギの持ち主であるAさんは、ご自宅で農業を営んでいる。日頃から様々なことで、親身になって助けてくれるAさんの人柄に感謝している子どもたち。Aさんとのつながりをさらに深め、合わせて感謝の気持ちを伝えたいという願いを膨らめた子どもたちは、Aさん宅訪問を計画した。Aさんの暮らしに触れた子供たちは、更にAさんへの魅力を感じると共に、お借りしているヤギをより大切にしたいという思いを膨らめることができた。											

学校の概要		学校名	木祖村立木祖中学校		学校長	手塚 俊彦		児童生徒数	57 名									
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組みについて																		
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について												
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成				ボランティアのリストがある								
		市町村教委		○		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)								
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○				公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある								
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある								
名称	木祖村コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人							
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人							
会議開催数(予定)	2 回		今年度開催日(予定)	6月13日(月) 2月28日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				公民館職員(公民館長・公民館主事)								
						具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)				公民館長								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																		
学校教育目標		生命を大切にし 自ら伸びようとする生徒																
地域と共有された育てたい子どもの姿		<input type="checkbox"/> ふるさとを愛し、他と協調しながら物事を進めることができる生徒(思いやる心) <input type="checkbox"/> 自らを律し、たくましく生活するための心身の健康と体力を備えた生徒(鍛える心) <input type="checkbox"/> 自ら課題をもって粘り強く追究し、進んで表現することができる生徒(自ら学ぶ心)																
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況												
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○						
2 学校運営への必要な支援について		○				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○						
3 地域の実情や課題について		○				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○						
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4		協働活動に参加したボランティアの人数				ボランティア登録者人数 35 人						
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				5		参加者延べ人数				200 人						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○		読み聞かせ	○		児童会、生徒会	○		クラブ、部活動	○		給食	○		休み時間	○	
	清掃	○		ICT	○		学習ボランティア	○		総合的な学習の時間支援	○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	○		放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習	○		地域の伝統文化の継承に係る活動	○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○		防災学習(避難訓練)	○		遠足・登山	○		キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育	○		国際理解	○		託児	○			○			○			○	
	学校・家庭・地域の協働した取組例																	
代表的な協働した活動の取組例																		
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																		
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																		
<p>(左) 村内にある11の事業所の方を招き、キャリア学習を実施した。各企業のブースを訪問しながら、我が村が多くの方の努力や熱意で成り立っていることを学んだ。</p> <p>(中) 「おおとりの時間」(総合的な学習の時間の25時間分)に、「お六櫓を作ろう」(写真)、「藪原祭りを知ろう」、「人・ものとの結びつきを深めよう」の3つのテーマに別れ、全校縦割りグループ学習を行っている。毎時間、各グループで地域の講師の方々に来校いただきながら取り組んでいる。お六櫓を作る道具や、藪原祭りで使う屋台や獅子等も、実物を拝借させていただくなど、『ホンモノ(人ものこと)』とかかわる(校長の願い)貴重な場となっている。学習の成果は文化祭で発表されるが、観る側の関心も高い。</p> <p>(右) 水曜日下校後の午後、90分程度の時間枠で、『地域で学ぶ、地域に学ぶ』をテーマに生徒が希望する講座(英会話、軽音楽、地域散策、企業見学・体験、絵手紙、郷土料理など)で体験学習を行っている。</p>																		

学校の概要		学校名	木曾町 立 日義小中 学校		学校長	丸山 美恵		児童生徒数	146 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
				市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		日義CS(コミュニティスクール)		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 学校評議員、民生児童委員 社会教育委員、少年補導委員 日義地区育成会長、日義教育事務所係長				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		4月27日・10月13日・2月7日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地域連携委員長 元日義自治協議会長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		じょうぶで思いやりがあり自ら学ぶ子ども											
地域と共有された育てたい子どもの姿		じょうぶで柔らかな心と身体をもち、仲間と共に意欲的に学び続け、思いやりの心で行動する子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○							
2 学校運営への必要な支援について		○		3 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○							
3 地域の実情や課題について		○		4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
4 地域の実情や課題について		○		5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 49 人 参加者延べ人数 約100 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食 ○		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習 ○		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練) ○		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育 ○		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		里山学習(6月10日)				大工さんから学ぶ「ものづくり」(8月23日)				文化祭ワークショップ(10月1日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
【大工さんから学ぶ「ものづくり」】 中学校技術科の授業で、地元の大工さんに来ていただき木工の授業を行った。近年、大工さんが減少していることを受け、大工のことを少しでも知ってもらおう機会となった。授業では、大工さんの仕事についてのお話を聞いたり、のこぎりびきやかんながけなどの技を見せていただいたりした。また、大工さんに教わりながら墨付け、のこぎりびき、かんながけを生徒が体験することができた。見た目以上に難しいかんながけでは、きれいに削れるまで挑戦する姿も見られ、とてもよい体験になった。後半には、簡単な椅子も手伝ってもらいながら製作し、大工さんの思いを感じたり、木のよさを感じたりする貴重な体験となった。 (以下、生徒の感想) ・大工さんに手伝ってもらいながらきれいに作れたのでよかったです、貴重な体験ができたのでよかったです。・かんなを体験しました。大工さんはうまく削っていたけれど、僕はあまりうまく削れなかったもので、大工さんはすごいと思いました。・椅子をつくるのは難しかったけど作りあげることができてよかったです。難しかったからこそ、大工さんとの交流も深められて嬉しかったです。													

学校の概要		学校名	木曾町 立 木曾町中 学校	学校長	奥原 竜司	児童生徒数	154 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○		自治会代表	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○		PTA代表	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員	
名称		『町中コミュニティスクール』兼『学校評議会』		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
		・校区小学校・高等学校の学校長		地域コーディネーター		1 人	
		・社会教育委員		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		第1回 6月3日 第2回 9月30日(書面での実施) 第3回 2月27日	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		郷土を愛し、未来を拓く子どもたち					
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、自ら考え、自分の持ち味をいかすよう、自分の力を精一杯発揮できる生徒 ・「ふるさと木曾」に学び、「ふるさと木曾」で学び、「ふるさと木曾」に生きる生徒 					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		4		ボランティア登録者人数 0 人 参加者延べ人数 53 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		放課後教科・体験学習	
						キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		職場体験学習(7月5日～7日)		ふれあい交流会(9月26日)		地域講師による3年放課後学習会(火・木実施)	
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
ふれあい交流会(写真中央)では、地域の方々を講師として学校に招き、全校が各講座を選び体験学習をしている。今年度は、染め物・木工箸・押し花・レジン、ビーズアクセサリー作り・革細工・ハーバリウム・絵手紙・折り紙・茶道の講座で地域の方々が講師になっていただき活動した。この活動を通して、地域文化の再発見と地域の方々との交流を深めている。そして、生徒は地域の一員であることを再認識し、ふるさとを愛する心を育てている。また、地域の方々に生徒の姿を知っていただくよい機会となっている。							

学校の概要		学校名	木曾町	立開田中	学校	学校長	寺嶋 純一	児童生徒数	21 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	開田高原コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月3日(金) 2月17日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		開田教育事務所地域教育係長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	御嶽を仰ぎ自ら高める									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<input type="checkbox"/> 教科の基礎的・基本的な知識及び技能を身につけている生徒 <input type="checkbox"/> 課題に対して、他の考えを理解しながら、自分の考えをもち表現することのできる生徒 <input type="checkbox"/> ふるさと開田高原を愛し、他と協働しながらよりよい生活を創ることのできる生徒									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	31 人	
							参加者延べ人数	20 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	新型コロナウイルス対策の消毒・清掃		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		
	人権教育	○	国際理解		託児			キャリア教育(職場体験を含む)		
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	職業インタビュー(7/28)			地域の木工授業(8/25)			地域に伝わるコチャ節の指導(10/13)			
	代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>・地域に伝わるコチャ節の指導では、開田地域に昔から伝わる、民謡コチャ節を「開田八人衆」と呼ばれる、地域の伝承者の方々に来ていただき、全校生徒に指導していただいた。教えていただいたコチャ節は、木曾郡音楽会にて、全校生徒で合唱発表を行い、他の学校の皆さんに聞いていただいた。コチャ節を歌った生徒の感想からは、「開田に古くから伝わる嫁入り歌、コチャ節、を知ることができ、全校みんなで歌えて良かった。その歌詞や哀愁漂う曲調から、嫁入りするときの昔の人の気持ちを知ることができた。」などがあり、開田地域の伝統を知り、引き継いでいきたいという気持ちが感じられた。</p>										

学校の概要		学校名	上松町 立 上松中 学校	学校長	秋山 昇	児童生徒数	87 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	あげまつコミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
			地域住民、教育委員、社会教育委員、学校評議員、児童養護施設長		地域コーディネーター	1	人	
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月11日 11月8日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	公民館職員(公民館長・公民館主事)		
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	「自ら学ぶ」							
地域と共有された育てたい子どもの姿	郷土上松町を愛し、自ら学ぶ子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について		○					
3	地域の実情や課題について		○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 参加者延べ人数 150 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	ICT	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解	託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例								
	「上松町制100周年・上中プロジェクト」(5～11月)		「職場体験学習」(11月1、2日)		えごま栽培(5～11月)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
「上松町制100周年・上中プロジェクト」(総合的な学習の時間「ひのきの時間」) ・今年度(令和4年度)の「ひのきの時間」(年間約30時間)では、上松町が町制100周年で様々な記念事業を計画していることに連携し、中学校では「上松町制100周年・上中プロジェクト」として、中学生が100周年の町を盛り上げようと活動を行った。全校生徒が縦割りの6グループを作り、地域の方や役場の方の力を借りながら活動を進めた。 ・活動例として、伝統芸能グループは地元の伝統芸能の団体である上若連の皆さんに獅子舞、笛、太鼓を習った。また、戦国武将グループは、郷土の歴史に詳しい地域の方と一緒に上松町ゆかりの戦国武将について調べた。各グループは、11月3日の町制100周年記念行事において、地域の方や保護者を前に練習や活動の成果を発表した。 ・地域の方に教えていただきながら活動をしたり、発表について評価をいただいたりすることを通して、生徒は地域を知り、地域に親しみとともに、自分たちの活動により地域の方に喜んでもらえたという充実感を得ることができた。								

学校の概要		学校名	大桑村	立大桑中	学校	校長	高山 俊彦	児童生徒数	53 名						
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について															
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について										
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		オオクワガタコミュニティスクール委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 児童委員, 社会教育委員, 体育協会会長, 文化教育委員, 歴代PTA会長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	4 人				
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人											
会議開催数(予定)		3 回	今年度開催日(予定)	・6月2日、11月22日(書面開催)、2月3日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民						
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況															
学校教育目標		三智を磨き、自己の生き方を切り拓く													
地域と共有された育てたい子どもの姿		多様化する社会に適応する「生きる力」を身につけた子どもたち													
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況										
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○						
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○						
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数			70 人						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	参加者延べ人数	28 人			ボランティア登録者人数	70 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		○	クラブ、部活動		給食		休み時間			
	清掃		ICT		学習ボランティア		○	総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)			
	人権教育		国際理解		託児										
学校・家庭・地域の協働した取組例										friendly講座・狩猟(6/29)		総合的な学習の時間「大桑村の桑学習」(6/3)		資源物回収(8/20)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)															
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
○friendly講座 ・地域の方を講師に地域から学ぶ「体験的な学習…friendly講座」の実施において、運営委員の皆様、講師の皆様のご尽力により7講座を開講し、生徒たちは地域の伝統や文化・人に触れることを通して、大桑村の「人・こと・もの」の良さ、知る・学ぶ楽しさを体感することができた。(今年度は保護者が講師として参加するなど、保護者の参画意識も高まってきている) ・学校では対応できない実際の文化活動や専門の技能、地域の方の思いや営みに活動を通して実際に触れることで学ぶことができた。															

学校の概要		学校名	南木曾町立 南木曾中 学校		学校長	上田 宏志		児童生徒数	120 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		南木曾小・中学校コミュニティスクール地域応援団運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人			
		・社会教育委員代表 ・商工会長						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月25日 未定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		①郷土を愛し、自他のよさに目を向けられる生徒 ②自分の考えを持ち、互いの考えを認め成長しあえる生徒 ③心と体を使って学習・活動・奉仕できる生徒											
地域と共有された育てたい子どもの姿		①南木曾町の歴史・文化・産業を学び、これからの町の未来を創造できる子ども。 ②南木曾町に愛着を持ち、町の外からでも、思いを馳せることのできる子ども。 ③南木曾町で生活したことに誇りを持ち、多方面で活躍できる子ども。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 29 人		参加者延べ人数 17 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		木造建築担い手事業(6月20日)		フラワーアレンジメント教室(9月28日)		林業体験学習(10月21日)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<ul style="list-style-type: none"> ・林業体験学習は、木曾地方事務所 林務課、南木曾町山林委員会、南木曾町林業研究クラブ、南木曾町役場産業観光農林課、南木曾町森林組合の各団体と連携し、毎年1年生が取り組んでいる体験学習である。南木曾町は昔から林業が盛んな土地である。身の回りの森林を保護・整備する活動に参加したり、実際に活動を行っている方のお話を聞いたりすることを通して、林業という産業への理解を深めることを目的として実施した。 ・事前に役場の方に来校していただき、「木曾五木」のことや、間伐・枝払いなどを行う理由などについてお話を伺った。 ・当日は国有林まで移動し、事前に学習した枝払いや間伐を指導を受けながら取り組んだ。 ・なかなか経験できない貴重な体験となった。南木曾町は「山」や「森」が近い土地であり、「木」も身近な存在である。今回の体験が、職業選択の際の参考にになればと考える。 													

学校の概要		学校名	塩尻市辰野町中学校組合 立 両小野中 学校			学校長	上條 勝利		児童生徒数	65 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
			市町村教委 ○ 自治会代表 ○			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール) ○			公民館代表 ○ PTA代表 ○			ボランティアと学校の情報交換会がある							
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員 ○ 学校長・教頭以外の学校職員 ○			ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター 1 人				
両小野学園運営協議会 両小野学園地域教育協議会			民生児童委員 保育園 園長 両小野地区振興会 正副会長			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			1 人				
会議開催数(予定)		10 回		今年度開催日(予定)		学運協...4/22 8/19(中止) 12/16 2/24 地教協...4/26 2月中 学運協事務局会... 4/13 7/29 12月初旬 2月初旬		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		総合コーディネーター					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		夢をもち、未来を拓き、たくましく生きる、心豊かな子どもの育成											
地域と共有された育てたい子どもの姿		ふるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、「たのめの里」に貢献できることも ～輝く「あいさつ」・響きあう「歌声」・深まる「学び合い」～											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 50 人		参加者延べ人数 30 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5									
地域学校協働活動の概要													
登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動		給食		休み時間			
清掃 ○		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習 ○			
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○			
人権教育		国際理解		託児									
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		アントレプレナー学習(4月～)				植林作業(5/20)				ブリリアント活動(8月～10月)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>アントレプレナー学習では、全校縦割りで「地域対策」「地域PR」「地域の文化」「地域の自然」の4グループに分かれ、探究的な学習を行っている。本校で大切にしている「やる気」「挑戦」「自信」の3本柱を大事にし、グランドデザインに謳われている「たのめの里の未来を思う」心を育む学習になるよう、生徒は地域の課題を自分事としてとらえ、地域の活性化を願い多くの方と関わり学習を進めている。</p> <p>春には全校で地元の紅葉山で植林活動や整備作業を地域の方の指導をいただき行っている。また、今年度は、秋に行われる紅葉山周辺での「土真ん中ウオーク」というイベントの始まりや、地域の名所について講演を行い、地域を盛り上げようと努力されている方の思いに触れた。</p> <p>生徒が輝く学習をとの願いから始まったブリリアント活動では、夏休み中1日のロングブリリアント講座、水曜日の放課後5回のショートブリリアント講座を開催した。茶道・フラワーアレンジメント・ランプづくり・WEBデザインの4講座に地域の方を講師にお迎えすることで、生徒が学校ではできない学びを体験し、また地域の方と交流することができた。</p>													

学校の概要	学校名	塩尻市	立塩尻中	学校	校長	佐倉 俊	児童生徒数	335 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	塩尻中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 同窓会正副会長 主任児童委員 市議会議員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1 人
会議開催数(予定)	4 回	今年度開催日(予定)	4月20日 7月13日 12月12日 2月8日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員		
				具体的な役職(その他を選択した場合に立場・役職を記入)		学校支援コーディネーター		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	理想に向かってともにによりよく生きよう							
地域と共有された育てたい子どもの姿	多様な人と協働しながら主体的に活動できる子ども 心身ともに健やかで、自己表現に向け学び続ける子ども ふるさと(地域)の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着を持ち、地域の未来を拓き、語れる子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○				
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 30 人 参加者延べ人数 300 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
地域ふれあい学習(5/30～10/17 計10回)		放課後学習会(水曜日 年間23回)			部活動支援(大会参加・練習時の楽器運搬支援6/23・7/16他)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
【地域ふれあい学習】 総合的な学習の時間に、地域の方を講師に招き、「地域ふれあい学習」を実施した。今年度は阿禮太鼓、箏、生け花、郷土の歴史、短歌、トールペイント、合唱ゴスペル、塩尻中オリジナルレシビ、ギター、日本舞踊、福祉、アクティブブック・ダイアログ、書道、農業体験、ダンス、地域の魅力発信の合計16講座を開設した。5月から10月まで、各分野の専門家である地域講師から、地域の歴史や特産物を使った料理、日本の伝統文化等について学び、意欲的に学習に取り組む様子が見られた。学年学級の枠を越えて、仲間と活動を楽しみ、学校文化祭の発表ステージや作品展示で学習の成果を発表した。互いの発表から、地域の歴史や特色、伝統文化などについて、改めて知り、知識や興味関心を広げることができた。また、コロナ禍で地域の方々を学校文化祭へ招待しづらい状況が続いているが、公民館文化祭での展示発表を通し、学校の活動や学習の様子を地域へ発信することができた。								

学校の概要		学校名	塩尻市立塩尻西部中学校	学校長	小林 真	児童生徒数	215 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	塩尻西部中学校 学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 ・校区内小学校 学校運営協議会長 ・地区主任児童委員・民生児童委員代表 ・社会教育委員 ・前学校支援コーディネーター		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人					
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1 人					
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	4月25日	7月19日	12月19日	2月28日					
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員						
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校支援コーディネーター						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	観(学び合う) 錬(磨き合う) 恕(触れ合う)											
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健やかでたくましい子ども(自尊感情の育成、タフに生き抜く力、社会力・人間力の育成) ・夢を持ち、夢の実現に向け努力する子ども(自ら学ぶ力・学び続ける力の育成、キャリア教育推進) ・人とのつながりを大切に、様々な人と協働して活動ができる子ども(チームワーク、協調性、協働性、社会力の育成) ・自ら考え、適切に判断し、行動できる子ども(課題発見力、課題解決力、想像力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自主性、自立心、自律心の育成) 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○							
2	学校運営への必要な支援について	○										
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○							
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○							
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 41 人	参加者延べ人数 132 人						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		草刈りボランティア(6月4日)		1学年ふるさとぶどう学(7月1日)		3学年ふるさと学習(7月6日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
1学年では、総合的な学習の時間に「ふるさとぶどう学」に取り組んでいる。以前から校内にあるぶどう園でのぶどう栽培には取り組んできていたが、今年度は外郭団体や地域教育協議会とも連携し、コ・クリエーションプログラムを立ち上げるなど、内容を更新した。ぶどう栽培に携わる方々のお話を聞き、ぶどうにかける熱意を知ることから、「塩尻産のぶどうのファンを増やす」というテーマを設定し、さまざまな活動に取り組んでいる。9月には、栽培したぶどうを使ったぶどうジャムをよりアピールできるようなラベルデザインのアイデアを考えた。また、栽培と並行して、ぶどう栽培の過程で廃棄されるぶどうの枝や、ワイン造りの過程で廃棄されるぶどうの絞りかすなど、今まで利用されなかったものを活用した製品作りについてアイデアを出し、実現可能性の高そうなものは何か考えた。今後は、地域の事業所に試作品を作ってもらい、それを多くの人に買ってもらうためにどのようにアピールするかについて追究していく予定。												

学校の概要		学校名	塩尻市	立丘中	学校	校長	黒沢 幸喜	児童生徒数	487 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	丘中学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)					
							地域コーディネーター	1	人			
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1	人		
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	4月15日 7月27日 12月14日 2月13日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
								教育委員会職員				
								学校支援コーディネーター(具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入))				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	真理を求め 真実に生きる											
地域と共有された育てたい子どもの姿	①夢をもち、夢の実現に努力する生徒 ②思いやりの気持ちを大切にする生徒 ③地域に貢献できる生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4			協働活動に参加したボランティアの人数				
									ボランティア登録者人数	50	人	
									参加者延べ人数	65	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	○
	清掃	○	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		花の苗植え(H4.6.7)			地域連携協働室(H4.5.11)			校内の消毒(H4.8.31)				
代表的な協働した活動の取組例												
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
・花の苗を地域ボランティアの方に運んでいただき、校内にあるプランターや花壇に生徒と一緒に植えていただいた。生徒はこの活動を通して、地域の方と会話したり、一緒に活動したりする良さ、楽しさに気づくことができた。												

学校の概要		学校名	塩尻市 立 広陵中 学校			学校長	小松 亨		児童生徒数	566 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	広陵中学校学校運営協議会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会教育委員 地域教育協議会会長 保護司 主任児童委員 同窓会長				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				1 人
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)		4月15日 7月13日 12月16日 2月9日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	世界を見つめ、心豊かにたくましく生きる生徒										
地域と共有された育てたい子どもの姿	心身共に健やかでたくましい子ども 夢を持ち、実現に向け努力する子ども 自分の言葉で語れる子ども 人とのつながりを大切に、様々な人と協働して活動できる子ども 自ら考え、適切に判断し、行動できる子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 47 人 参加者延べ人数 42 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
		エゴマ栽培(6月～10月)		カリオンタイム(5月～10月)		ボランティアによる読み聞かせ(11月)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
カリオンタイム 2・3年生が、総合的な学習の時間に講座別に地域講師の方から学ぶ活動。本年度は、「箏」「生け花」「地域の歴史」「短歌」「せん茶道」「和菓子」「トールペインティング」「ダンススポーツ」「地域の祭り・商業(和太鼓)」「室内レク」「ゴスペル」「福祉・ボランティア」「農業交流」「ハンドベル」「プログラミング」「将棋」「目指せ弁論大会」の計17講座を開催した。各講座とも講師の先生に毎時間丁寧にご指導いただき、「カリオンタイムだけは参加する」という不登校傾向の生徒の姿も見られた。文化祭では7講座がステージ発表を行った。全校生徒を前に自信をもって発表する姿から、充実した学びを積み重ねてきた様子が伝わってきた。残りの講座は展示発表を行い、実物の展示や活動の様子をまとめた模造紙の掲示等で学習の成果を発信した。本校の文化祭の中にカリオンタイムが位置付いており、地域との学びを共有できる貴重な時間となっている。「地域の歴史」講座の生徒は、「自分の住んでいる地域に縄文時代から人々が住んでいるのが不思議だった。また、塩尻が交通の要所で、貴重な「塩」と関わっていることを知ることができた。地域のことについてもっと知りたくなりました」と感想を述べた。生徒たちは、講師の先生や友から活動に向かう姿勢や人間性についても学ぶとともに、地域への愛着を持つことができた。											

学校の概要		学校名	生坂村	立 生坂中	学校	学校長	青森 隆俊	児童生徒数	36 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
		市町村教委		○	自治会代表		○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○	PTA代表		○	ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	学校長・教頭以外の学校職員		○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	生坂大好き「わくわく楽校」運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人		
				社会福祉協議会長 地域サークル等会長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人		
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	6月12日	6月20日	2月20日	2月27日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		児童館・生涯学習施設館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	豊かな心を養い、粘り強く自分を鍛えて、自ら学ぶ生徒 小規模校である本校の特徴を生かして 『自ら学びを生み出す生徒』											
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分の進路実現に向けて、学習に向けて、学習に粘り強く取り組む生徒。 相手の立場になって行動できる思いやりのある生徒。 失敗を恐れず、自信を持って行動する生徒。 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数		40 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5			参加者延べ人数		15 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間					
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習					
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)			
	人権教育	国際理解	託児									
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		生坂龍翔太鼓練習(5月～10月)		部活動中信大会(6/25)		生坂村村内奉仕作業(10/18)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>地域に伝わる龍翔太鼓の演奏方法や動き等を地域の方から20回ほど指導していただき、文化祭でその成果を発表した。例年のように地域の伝統的な活動を、地域の指導者に教えていただくことで、地域の方に感謝の気持ちをもつとともに、地域に貢献していることを実感することができた。</p> <p>文化祭で太鼓の演奏を聴いた村長や指導者から「地域の伝統文化を中学生が引き継いでいってくれることに感謝している」という言葉をいただくことができた。また、教職員も生徒とともに地域に関わる活動に取り組むことで、地域への理解を深めることができています。</p> <p>今後も更に地域とつながりを持てる活動を進めていきたい。</p>												

学校の概要		学校名	筑北村 立 聖南中 学校			学校長	清沢 剛		児童生徒数	68 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		筑北村小中合同学校運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人			
		村交通安全協会支部長 村体育協会会長 生涯学習ボランティア代表 村議会議員 村社会福祉協議会会長						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		5 回		今年度開催日(予定)		4月22日 5月19日 9月28日 1月23日 3月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		質実剛健にして、道を拓く											
地域と共有された育てたい子どもの姿		○筑北村を愛する子ども ・心豊かな子ども ・たくましく生きる子ども ・自ら考え学ぶ子ども ・心身共に健康な子ども ・社会の変化に柔軟に対応できる子ども ・じぶんの思いを言葉で伝え、人とつながることができる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 120 人		参加者延べ人数 91 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		○ 給食		○ 休み時間	
		清掃		ICT		○ 学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
		写生会(6月8日)		読み聞かせ(5月11日他年6回)		学校総合・あずまやタイム(年間を通して)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
一昨年度より始まった課題別の縦割りの学級総合(あずまやタイム)。本年度より年間を通して取り組むこととした。歴史、文化、村おこしの3つをテーマに、内容ごとに6グループに分かれて探究的な地域学習を行っている。善光寺街道に取り組み歴史グループは、地域のイベントに案内役として参加したり、実際に村内の善光寺街道を訪ねたりして、善光寺街道について理解を深めた。また、文化グループでは、地粉を使ったうどんのよさを広めるためのメニューを考えるうどんチーム、村の健康課題を意識した料理や村のよさを知ってもらうメニューづくりをする料理チーム、伝統文化の太鼓や焼き物のグループが地域の方に教えていただきながら取り組んだ。村おこしグループは移住者の方を講師に空き家や村の課題について学んだ。また、小学校の移転に伴って、使われなくなった公園の整備をして、保育園の子供たちとの交流を計画するなど、自分たちができることにも取り組んでいる。ワークショップ型の発表会を行う中で、自分事として取り組んだことを紹介し合い、村の課題なども全校で共有して、今後の学習に向けて考えるよい機会となっている。また、ICT機器を活用して調査や発表を行い、プレゼンテーションの力も少しずつ向上している。													

学校の概要		学校名	麻績村	立 筑北中	学校	学校長	白井 伸明	児童生徒数	63 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	チーム筑北			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人
				各支援部長(総務部、学習支援部、キャリア教育部、図書館支援部、スポーツ・文化活動支援部)、主任児童委員、社会福祉協議会事務局長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	・4月20日(水) ・10月19日(水) ・2月22日(水)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		心豊かに逞しく								
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域の担い手として、21世紀の社会を逞しく生き抜く自立した生徒								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		22 人
								ボランティア登録者人数		218 人
								参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育	国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		年間を通しての読み語り(6月1日)		学習ボランティア(7月11日)		職場体験学習(10月12日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
筑北中学校では、1~3年生が、総合的な学習の時間を活用し、ふるさと学習「ふるさとプロジェクト」に取り組みます。ねらいは、「ふるさとを愛し、世界に羽ばたく生徒」を育むことです。1年生は地域を知る学習、2年生は地域で働く学習、3年生は地域活性化案を考える学習に取り組み、それぞれのテーマに沿った学習を通し、生徒の探究する力を育むとともに、「生きる力」の育成につなげたいと考えています。10月に行った職場体験学習では2年生が麻績村内の職場での就労体験を行い、働くことの意義ややりがいなどについて体験を通して学ぶことができました。										


学校の概要		学校名	安曇野市 立 穂高東中 学校			学校長	松尾 修		児童生徒数	460 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	穂高東中学校学校運営協議会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 民生児童委員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人		
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		2 人			
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月9日 3月1日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		自ら学ぶ 共に学ぶ 人から学ぶ										
地域と共有された育てたい子どもの姿		(1) 自他の良さを認め、人を思いやり、互いに学び合える生徒 (2) 自分で筋道を立てて考え、考えたことを行動に移せる生徒 (3) 地域に学ぶ活動を通して、穂高の良さを理解し、誇りに思える生徒										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	30 人	
								参加者延べ人数		900 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		地域のかっこいい大人と出会う会(5月27日)			地域と連携した防災学習(9月12日)			ふるさと穂高に学ぶ総合学習(全学年通年木曜日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
【地域と連携した防災学習】												
<p>穂高東中学校は昨年度、学校教育目標を変えた。その中の一つに「人から学ぶ」がある。</p> <p>東中生の学習の内容を学校がすべて決めるのではなく、いわゆる“先生”を東中の職員に限定するのではなく、学習の場も学校内にとどめない。学校関係者以外の人と授業内容を考え、地域の皆様が先生となり、地域に出て学習する機会を意図的に設けている。地域の皆様には、中学生と実際に接していただいて「今の東中生のリアル(現実)」を知っていただく機会となっている。東中生には、地域で生活している大人のかっこいい生き方に触れたり、こんな所にも良い大人がいることに気付いたりして欲しい。「ふるさと穂高に学ぶ」をテーマに全学年でおこなっている総合的な学習の時間と、この「地域と連携した防災学習」がその象徴的な取り組みである。</p>												




学校の概要		学校名	安曇野市 立 穂高西中 学校		学校長	濱野 久		児童生徒数	372 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
			市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
			○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称			穂高西中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)				
									地域コーディネーター		人		
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		2 人		
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月31日(火)、2月(日時未定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			地域住民		
									具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		誠なる人:心を磨く(徳) 明らかなる人:知恵を磨く(知) 健やかなる人:心身を磨く(体)											
地域と共有された育てたい子どもの姿		○自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決できる子ども ○地域の方との関わりや体験から学んだことをもとに、情報を整理・分析して、友と共有し、まとめ・表現することができる子ども ○友や地域の方との関わりの中で、自己の良さに気づき、その良さに自信をもち、自分の将来に生かしていこうとできる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3		地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		38 人	
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○				参加者延べ人数		336 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		ボランティアによる花壇の整備(通年)		ありあけタイムの筆ペン講座(1・2学期)		地域と連携した防災学習(2学期)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の講師の方々から学ぶ「ありあけタイム」の活動を、3学年の生徒を対象に、1学期から2学期にかけて、1回85分の活動で10回行うことができました。 ・今年度の「ありあけタイム」は、写真・けん玉・科学実験・茶道・フィットネス・筆ペン・刺繍の全8講座に3学年生徒たちが分かれ、地域の講師の方々からご指導をいただいた。 ・「ありあけタイム」の活動で、各講座の講師の方から専門的な知識や技能・技術をご指導いただき、地域の方々とのコミュニケーションがより一層深まる機会となった。活動の成果について、本校の文化祭「ありあけ祭」で講座ごとに発表し、全校の生徒や保護者にも内容を理解してもらう機会となった。 ・「ありあけタイム」終了後は、ご指導いただいた地域の講師の方々に生徒自ら、お礼状を書き、感謝の気持ちをお伝えすることができた。 													

学校の概要		学校名	安曇野市 立 豊科北中 学校		学校長	内川 雅信		児童生徒数	353 名									
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																		
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について												
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある												
			市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある											
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある											
名称	豊科北中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		人							
				豊科郷土博物館 社協豊科支所					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		3 人							
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)		5月30日 10月28日 3月予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民								
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)										
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																		
学校教育目標		・教わるものから自ら学ぶものへ ・ひとつを続けてほんものへ ・心をひらいて深い交わりへ																
地域と共有された育てたい子どもの姿		・仲間と学び合い、互いを高め合う子ども ・相手を思いやり、自分も他人も大切にできる子ども ・自ら考え主体的に行動できる子ども																
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況												
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○								
2		学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○								
3		地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○								
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 56 人 参加者延べ人数 1260 人								
5		教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5												
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		○	給食		○	休み時間		○			
	清掃			ICT			学習ボランティア		○	総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		○	放課後教科・体験学習		○
	土日・長期休業教科・体験学習			地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○	防災学習(避難訓練)		○	遠足・登山		○	キャリア教育(職場体験を含む)		○
	人権教育			国際理解			託児											
代表的な協働した活動の取組例																		
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																		
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																		
○ 全学年で総合的な学習の時間に地域について学ぶ活動を行っている。1学年は福祉・自然・歴史の視点から学級単位の活動として、2学年は個人の追究テーマに沿ってグループ単位での活動として、3学年は昨年度までの積み上げをもとにふるさとの魅力発信、自然体験、空き家対策、美化活動について学級単位で活動を行っている。市役所、郷土博物館、民間企業、社会福祉協議会、地域協力者等々様々な立場から地域学習に関わっていただいている。その誰もが、豊科の良さを知り体得することで、さらにふるさとを愛する子どもたちになって欲しいと願っている。子どもたちにも、郷土愛が深まっていることが感じられる。																		
○ 昨年度から始めた北中一斉草刈りデーの取組ですが、昨年度は近隣地区の住民の参加が多くありましたが、今年度は幅広く学区全体から住民の方の参加がありました。来年度は更に協力者が増えそうな勢いです。																		

学校の概要		学校名	安曇野市	立豊科南中	学校	学校長	原田 邦彦	児童生徒数	300 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	豊科南中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会福祉協議会豊科支所長 放課後学習室指導員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	2	人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月17日 10月17日 1月23日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	教わるものから学ぶものへ ひとつを続けてほんものへ 心をひらいて深い交わりへ									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学ぶ生徒 ・明るい挨拶ができる生徒 ・自信をもって歌声を響かせる生徒 ・校舎への感謝の気持ちを込めて清掃する生徒 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	20 人	
								参加者延べ人数	228 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃	ICT	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育	国際理解	託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例										
			放課後学習室(6月～2月)			生徒会あいさつ活動(6月8日)			こども病院祭参加(10月9日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
本校と隣接している県立こども病院で例年こども病院祭が行われている。新型コロナウイルス感染症拡大のため、ここ数年中止となっていたが、今年度、3年ぶりの開催された。イベントでは、病院職員で構成されている「ちくるま音楽隊」によるステージ発表があり、お誘いを受けた本校吹奏楽部がコラボレーションし、演奏発表を行った。その様子は病院内の各病室にもライブ配信され、病院際参加者だけでなく、入院している子どもたちや病院関係者にも演奏を届けることができた。コロナ禍で、隣接していながら交流活動は実現できていなかったが、今回の子ども際参加を通して地域連携の一つの取り組みとなった。										

学校の概要		学校名	安曇野市	立 堀金中	学校	学校長	堀金 猛	児童生徒数	276 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	堀金中学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人		
				民生主任児童委員 社会福祉協議会コーディネーター			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		3	人		
会議開催数(予定)	9	回	今年度開催日(予定)	4月28日	5月30日	6月27日	8月29日	9月26日	10月31日	11月28日	1月30日	2月27日
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他						
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		民生主任児童委員						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	みんなで心通い合う学び舎づくり - 自立と共生をめざして -											
地域と共有された育てたい子どもの姿	・自立…自分で生きていける子ども ・共生…集団で努力する子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		20	人		
						ボランティア登録者人数		300		人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		安曇野マラソン(6/5)			キャリアフェスティバル(7/20)			トマト収穫(8/19)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p><キャリアフェスティバル> 生徒が、堀金地区の各営業所と直接または、Zoomのブレイクアウトルームによって、仕事の様子を見聞きたり、働く意味などについて対話することにより、今よりも「堀金地域を知り」、「地域とふれあい」、「働く大人の姿や考えにふれ」ながら、自分の考える「働く意味」を再構築し、「堀金が自分にとってかけがえのない場所である」等と感じられるような「地域の未来を考える」の場をした。自ら必要感を持って事業所の方と対話したり、主体的に事業所の方や地域の方とふれあったりすることができるよう、実行委員会を組織し、運営した。</p> <p><トマト収穫作業> 本校では生徒会の伝統的行事として、「トマト収穫作業」を行っている。ほかにも「銀杏拾い」「葉草採集」といった堀金ならではの活動が継続して行われている。「トマト収穫作業」は、事前に地元企業の専門家に指導していただき、活動の意義を理解させている。作業当日も、企業の方に指導していただき、全校生徒が意欲的に活動に取り組んでいる。自らの手で生徒会費をねん出し、文化祭などの生徒会活動の活性化を図れるため、生徒たちの生徒会活動への関心・意欲を高めることができている。</p>												

学校の概要		学校名	安曇野市 立三郷中	学校	学校長	杵掛 隆	児童生徒数	470 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	三郷中学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 社会福祉協議会代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
	会議開催数(予定)		3 回	今年度開催日(予定)	5月30日(月) 11月2日(水) 3月4日(金)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	豊かな心を持ち 辛抱強く自分を鍛え 自ら学ぶ生徒になろう								
地域と共有された育てたい子どもの姿	ちがいを尊重し、自己肯定感をもとに伸びる子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		51 人	
						ボランティア登録者人数		520 人	
						参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	ICT	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	国際理解	託児						
									
1学年三郷セルフ歴史学習(6月17日)			1学年三郷セルフ自然学習(7月1日)			地区生徒会・地域学習会(7月7日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
5月に予定していた地域学習会は、感染拡大防止のため中止となっていました。本日、6校時に行われました。16名の講師をお招きして各地区の歴史、風習、地形、遺跡などについてお話をいただきました。生徒やPTA役員の皆さんからは、「知らないことばかりを聞くことができとてもありがたかったです」「今の地域があるのは、過去に地域を創り支えてきてくれた人たちのおかげであるとわかりました」といった感想がありました。自分の住んでいる地域について知る事の喜びが伝わってくる地域学習会となりました。(2022年7月7日の三郷中学校ホームページより)									
「今日は地域学習会で、とんでもないことを知りました。それは何かというと、なんと学校の標高と、自分の住んでいるところの標高差が、20mあったということです。これは、二階建ての家が3個分です。歩いていても、何も変なところはなかったのですが、学校の方へ向かうのは、そう言えばきつかったなというのを思い出し、20mも上っていたからかーと納得しました。この下りは、さらに穂高の方まで続いて、下がっているらしいです。」(生徒の生活記録より)									

学校の概要		学校名	安曇野市	立明科中	学校	学校長	阿部 悦夫	児童生徒数	163 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	明科中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 安曇野市社会福祉協議会地域コーディネーター			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	2	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月3日(金)、9月16日(金)、2月24日(金)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	感動する心、つなげる心、やり抜く心								
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれ、楽しく安心して学ぶ子ども ・いつでもどこでも誰にでもあいさつできる子ども ・無言清掃や「明科キレイにし隊」の活動を継続する子ども ・明科中の伝統としての合唱に取り組んでいく子ども 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	20	人
							参加者延べ人数	40	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃	○	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		○
	人権教育		国際理解	託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例									
		第1回明科キレイにし隊(6/8)		朝の自主練習見守り隊(6月～)		職場体験実習(10/19・20)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>2年生の職場体験実習は、コロナ禍でこの2年間実施を見送ってきた経緯がある。今年、3年ぶりに実施するに当たっては、受け入れ先事業所が確保できるかどうかが大変不安であった。そこで、まず商工会議所に相談したところ、商工会議所から加盟各事業所に受け入れの可否を打診、その結果を学校に提供していただくことができた。その後、担当から依頼をして、最終的に37事業所で生徒71名を受け入れていただくことができた。</p> <p>実習中は業務に忙しい中で時間と人手を割いて親身に指導をしていただいた。2年間のブランクを感じさせない充実した職場体験実習ができ、生徒たちにとってかけがえのない2日間となった。実習後は生徒たちとの交流が生まれたことを喜んでいただけた。また今回、新しい事業所の開拓もできて地域とのパイプ作りに役立った。</p> <p>職場体験実習の実施を通じて、学校が地域に支えられていることのありがたさを改めて感じる事ができた。この経験をもとに、生徒たちがより深く地域と結びついた活動ができるよう努力していきたい。</p>									

学校の概要		学校名	池田町 立 高瀬中 学校	学校長	竹内 秀昌	児童生徒数	212 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員	
信州池田町学びの郷活性化委員会(高瀬中学校学校運営協議会)		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
名称		町議会振興文教委員		町スポーツ協会会長		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
人権擁護委員							
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月19日 11月28日 2月15日	
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		社会教育委員長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		自ら拓き 共に生きる生徒					
地域と共有された育てたい子どもの姿		(自ら拓き) ・自分の思いや生き方を問い続ける ・自分で考え、決めて、どんどんチャレンジ (共に生きる) ・地域の自然、文化、人などに関心を持ち、積極的に関わる ・多くの人と出会い、つながり、違いを楽しむ					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○					
3 地域の実情や課題について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 73 人 参加者延べ人数 85 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		エアコンフィルタ清掃(6月11日)		マシン作業見守り隊(7月5日)		ものづくりと池田町・働くこと(7月5日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
一部の職種を除き、60程度の町内の企業等が受け入れ本校の職場体験学習は実施される。体験学習を控えた2年生に対して、地元ものづくり企業の経営者をお招きし、町内にもものづくり企業が存在している歴史的背景や、働くことの意味ややりがい、企業からみた学校で学ぶことの価値(中学校で学ぶべきことなど)、企業が求める人などをテーマに講話とワークショップを実施していただいた。 「A当たり前のことを、B馬鹿にしないで、Cちゃんとやる」という社会生活のABCというお話を伺い、授業や部活動などで日常的に学んでいることの延長上に、企業が求める人物像があることに生徒たちは気づいていった。そして、職場体験学習への意欲が高まり、充実した職場体験学習となった。 また、お招きした経営者の方から、他の企業の経営者を紹介していただいたり、生徒のキャリア学習に関わる情報提供をしていただいたりして、その後のキャリア学習に広がっていった。							



学校の概要		学校名	松川村 立 松川中 学校	学校長	赤羽 勲夫	児童生徒数	234 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○		自治会代表	
		公民館代表		○		PTA代表	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	
		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアと学校の情報交換会がある	
松川村コミュニティ・スクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称				地域コーディネーター		3 人	
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月20日、11月、2月	
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		ともに学び 自己更新する					
地域と共有された育てたい子どもの姿		松川村に根差した学習や体験活動を通して、松川村のよさを理解し、これからの人生を前向きに生きようとする。					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 30 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 100 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		○		地域伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		防災学習(避難訓練)	
		人権教育		国際理解		託児	
							
		ちひろボランティア(8月)		ふれあい教室～琴講座～(10月)		校外行事の際の安全見守り(6月)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>コロナ禍で活動を縮小していたちひろ美術館との協働活動を、3年ぶりに行うことができました。「ちひろボランティア」として、希望生徒約60人が参加しました。「読み聞かせ」班は、絵本の読み聞かせを練習し、夏休みに美術館で来館者に向けて実際に行いました。「探検シート班」は、館内を取材して、美術館内の見どころや美術館にかかわるクイズなどを載せたシートの作成を行い、来館者に配付しました。来館者からも大変好評で、参加した生徒は貴重な体験をすることができました。また、職場体験学習や「ふれあい教室」、リンゴ摘花、ちひろ公園の定植なども、地域の方の協力により実施することができました。地域の伝統的な産業や伝統などを体験することで、生徒は、地域の一員であることを自覚したり、ふるさと松川村のよさを感じたりしています。</p> <p>このほかにも、英語・漢字検定などの試験監督、校外行事の際の交通安全の見守りなど、多岐にわたる場面で、ボランティアの方にかかわっていただいています。学校にとっても、生徒にとっても、教職員にとっても、地域にとっても意義のある「持続可能なWin・Winの関係」をめざして活動していきたいと考えています。</p>							

学校の概要		学校名	白馬村	立白馬中	学校	学校長	浅原 昭久	児童生徒数	225 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	白馬中CS運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
				地域住民 中学校学校支援ボランティア代表			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1	人
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	4月22日、9月26日、11月14日、2月1日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	たのしうれし 白馬 われら									
地域と共有された育てたい子どもの姿	一人一人の命と健康を守って、学びを保障することで、将来的な「社会的自立」ができる子どもたち「20年後の白馬・地球に貢献できる人、担い手となる」									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	25	人
							参加者延べ人数	93	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	国際理解	○	託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		SDGsミーティング(6月2日)			白馬未来図(10月21日、25日)			唐松岳登山ボランティア(8月25日)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
学校運営協議会主催による「白馬未来図」の実施(10月21日、25日 於:白馬中学校) 令和4年度の学校運営のスローガン「未来へつなぐ」に向けて、20年後の白馬の未来を語る会を運営協議会のメンバー4名と8月に就任した白馬村首長をゲストに迎え、シンポジウム及び座談会を行った。座談会では、4つのテーマ「観光・教育・不動産・SDGs」に分かれ、自分の問いを発信し、未来について考える機会とした。 成果1)未来図実施後のアンケートで、「今までより白馬を知り、白馬村の未来について考えるきっかけとなった。」という問いに、全校生徒の91%がとても思う、おおむね思うと回答。 成果2)地域の担い手として、地域行事におけるボランティア活動に多くの生徒が進んで参加をし、交流した。(5月、7月、9月) 成果3)未来の白馬を視点に、SDGsを推進している27名の講師を招き、21のブースを開設して生徒と交流する「SDGsミーティング」を実施。(6月)										

学校の概要		学校名	小谷村立 小谷中学校	学校長	出口 哲朗	児童生徒数	53 名								
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について															
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について											
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある									
		市町村教委		○ 自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)									
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		おたり学校園運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人					
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人					
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		第1回 令和4年5月30日 第2回 令和4年11月8日 第3回 (令和5年2月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員					
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況															
学校教育目標		「日々新たなるべし 志を立てよ 美しくあれ」													
地域と共有された育てたい子どもの姿		【めざす生徒像】ともに学び、夢を拓くひと ○ 筋道を立てて考え、気づいたことを自分の言葉で伝えられる生徒 ○ 自分らしさを生かして、自信をもって行動できる生徒 ○ 小谷を愛し、小谷に貢献しようとする生徒													
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況											
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○							
2 学校運営への必要な支援について		○													
3 地域の実情や課題について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。									
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)									
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 96 人 参加者延べ人数 82 人							
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間			
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習 ○			
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児									
学校・家庭・地域の協働した取組例															
		塩の道祭り(R4.5.3)				茅葺き体験学習(R4.7.12)				ノルディックスキー記録会(R4.2.23)					
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
・「塩の道ウォーク」では、小谷村で主催する「塩の道祭り」に全校生徒がそれぞれ役割を担って、地域の方々と協力してイベント運営に参加した。1・2年生は、祭りの準備段階で郷土に伝わる歩荷、暫女の衣装を地域の方から着付け指導を受け、村民謡保存会の方々から民謡「小谷甚句」の謡と踊りを継承して、当日祭りのエキストラとして参加した。3年生は、当日の運営スタッフの一員として役割を任せ、祭りの実行委員会と協力して、祭りに参加される地域や村外の方のおもてなしなどを通じて交流した。この活動を通じて、地域で大切にしている郷土の祭りや文化の伝承について、地域の方と直接触れ合いながら、自らの手で学び取り、主体的に地域に貢献しようとする意欲や態度が培われた。															

学校の概要		学校名	大町市	立八坂中	学校	校長	片山 ますみ	児童生徒数	21 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	八坂学校運営協議会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
			民生児童委員協議会代表 保育園保護者会代表 山村留学センター代表 一般公募(元八坂小学校教頭)					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1 人
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	①5/17(火) ②9/29(木):研修 ③12/16(金) ④2/24(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	問いをもって学ぶ八坂の子								
地域と共有された育てたい子どもの姿	「自分が好き」と言える子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について		○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3	地域の実情や課題について		○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		82 人	ボランティア登録者人数
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		○	4		参加者延べ人数		75 人	参加者延べ人数
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○
	人権教育		国際理解		託児				○
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		ガードレール磨き<5/24(火)>		やさか人間塾<通年>		やさかふれあい運動会<10/9(日)>			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
総合的な学習の時間を「やさか人間塾」として通年で縦割りグループでの課題追究を行っている。令和4年度は「自然」「文化」「歴史」「産業」の4グループを開設している。各グループの主な追究テーマは以下の通りである。「自然」:八坂の動植物・環境などについて、「文化」:八坂の食文化について、「歴史」:八坂の養蚕について、「産業」:八坂の特産品の開発など。地域の方を講師に招いて実習をしたり、地域に出て行って調査活動を行ったりしている。写真は文化祭「やまびこ祭」で各講座がポスターセッションをして、取り組みを紹介している様子である。保護者やお世話になった地域の方々、小学校5・6年生に向けて、これまでの活動や学習したことなどを堂々と発表する姿が見られた。今後は、個人個人が取り組みをパワーポイントのまわめて、学習成果の発表会も実施する予定である。今年度は1・2年生が学校を中心に宿泊学習「自然教室」を実施し、やさか人間塾でお世話になった方から八坂の秘境スポットを紹介していただき、現地見学に出かけるなど新しい学びが広がってきている。									

学校の概要		学校名	大町市立第一中学校			学校長	塚田 秀		児童生徒数	199 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		第一中学校学校運営協議会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 地区子ども会育成会長 有識者 支援ボランティア代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 1 人			
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		5月25日、9月12日、12月15日、2月14日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		元市会議員、元教育委員					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		自立した学び手となる											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・筋道立てて考え、自分の考えを適切に伝える生徒 ・吟味と検討を繰り返しながら学ぶ生徒 ・自分のよさを生かして、人の役に立とうとする生徒 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
3 地域の実情や課題について				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				38 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について				5		参加者延べ人数				13 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		峻嶺の日(5/31)		2年職体フェス(7/14,15)		CSカルチャースクール(7/25~29)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>地域学校協働本部である第一中学校支援隊の総務部の方が中心になって、7月25日から29日の5日間、CSカルチャースクールを行った。これは、様々な技を持っている地域の方を講師に迎え、折りたたみ椅子を製作する木工、伝筆、糸かけ曼茶羅、フラワーアレンジメントワークショップ、食育料理教室など、10の講座を開講した。</p> <p>第一中学校の教室や特別教室などを会場にして、本校の生徒はもちろん、小学生や地域の方々、教職員も希望する講座に分かれて、もの作りや、調理、運動を楽しんだ。</p> <p>ここ2年間は、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、実施を見送られていたが、3年ぶりに開催することができた。もの作りなどを通して、地域の方と知り合う機会になるとともに、地域の方に第一中学校を身近に感じていただく機会となった。</p>													

学校の概要		学校名	大町市	立 仁科台中	学校	校長	興 幸雄	児童生徒数	332 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		人
大町市立仁科台中学校学校運営協議会		交流している保育園の園長先生と老人福祉施設の所長さん					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1	人
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	4月30日(月)、9月12日(月)、12月15日(木)、2月14日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	元校長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	自立した学び手となる								
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・筋道立てて考え、自分の考えを適切に伝える生徒 ・吟味と検討を繰り返しながら学ぶ生徒 ・自分のよさを生かして、人の役に立とうとする生徒 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について	○							
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	12	人		
						参加者延べ人数	20	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育	国際理解	託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		3年SDGs学習会(7/1)		2年職業講座(9/2)		仁科学級農園の唐辛子収穫(11/4)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>○学校支援キャリア教育部にご協力をいただき、2学年職業講話の講師を13名手配していただいた。生徒は、12講座から2講座を選択し、講師の先生方からお話をお聞きした。コロナの影響で、全体会を行うことができなかったが、生徒の感想には以下のように成果が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来を他の人に決められたら後悔するかもしれないから、進路などこれからの事は自分で決めていきたい。 ・好きなことや興味のあることも引き出しを増やして、自分の役に立てたいと思う。 ・「表裏なくきちんとできることが大切」と言われ、周りのことに心配りが出来るようにしたいと思いました。 ・僕は将来このような職業に就くかわからないけど、人を安心させるために、大変な勉強をたくさんして試験を受けて、全力で人と向き合っていける人になりたいと思いました。 <p>○学校支援環境整備推進部の皆さん、社会福祉協議会の皆さんと、本校特別支援学級の生徒が共同で七味唐辛子の栽培をしており、継続的なかかわりを持っている。「七味で大町を元気に」という希望を抱きながら、生徒たちは意欲的に活動している。</p>									

学校の概要		学校名	松本市	立清水中	学校	校長	山口 真一	児童生徒数	353 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある			
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	清流コミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月13日 10月28日 2月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	四本の柱 すなおさ 若々しさ たくましさ ゆかしさ								
地域と共有された育てたい子どもの姿	しっかり「自律」・・・自分で考え、判断し、決定できること。 みんなで「協働」・・・複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を併せて活動すること。 ずっと大事に「怒の心」・・・怒=思いやり								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	12 人
								参加者延べ人数	41 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山
	人権教育		国際理解	託児					キャリア教育(職場体験を含む)
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
本校では、松本県ヶ丘高校探究科と信州大学学生の協力により、中高大連携の取り組みを行っています。県ヶ丘高校と信州大学学生ボランティアの協力による夏休み中の自主学習会の開催や、信州大学学生ボランティアによる1年を通じた授業での学習支援などが、日常的に行われています。									
9月15日(木)には、県ヶ丘高校探究科から学生ボランティア16名を招き、効果的なプレゼンテーションについてアドバイスをもらう機会を設けました。本校では、総合的な学習の時間に学んだ内容について、「清流総合学習発表会」で発表するために、全校生徒が各自プレゼン資料を用意し、発表し合っています。2学年では、各自の調査について他者に理解してもらうための、より効果的なプレゼンテーションを目指し、この機会を設定しました。ボランティアに参加してくれた学生の中には、自分が過去に行ったプレゼンテーションの資料を持参し、実際にプレゼンをしてくれるケースもあり、生徒はその出来映えに驚かされていました。この時の学びをもとに資料や伝え方を練り直し、「清流総合学習発表会」では自信をもって発表を行っている姿がありました。									




学校の概要		学校名	松本市	立 鎌田中	学校	学校長	小松 直彦	児童生徒数	479 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○		○		
		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある		
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○		
		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	しらかば運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
				地域づくりセンター代表、民生児童委員、保護司、地域の有識者			地域コーディネーター		1 人	
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)		第1回運営委員会 5月2日(月) 第2回運営委員会 9月12日(月)→中止 第3回運営委員会 令和5年1月20日(金)予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
								公民館職員(公民館長・公民館主事)		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
								公民館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		「自主自立」								
地域と共有された育てたい子どもの姿		身近な地域の「ひと・もの・こと」と関わりながら自ら課題を見つけ、探究的な活動を通して主体的かつ協働的に課題解決しようとする子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数		0 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4			参加者延べ人数		20 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		遠足・登山	○		
	人権教育		国際理解	託児				キャリア教育(職場体験を含む)		
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	身近な川の実態調査①(7/13)		身近な川の実態調査②(9/14)		パラスポーツに親しむ(6/15)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○KMDタイム(総合的な学習の時間)を学級単位で行い、地域講師を招き学習を深めている。 ・身近な川の実態調査 奈良井川管理事務所の肩を講師に招き、自分たちの身近な川の様子についてお話を聞き、現地で水質や生物等について調査した。普段何気なく見ている身近な川への興味関心がわき、どのように川が管理されているのか、災害時の備えはどうなっているのかなどを考えるきっかけができた。 ・パラスポーツに親しむ(車いすバスケットボール、ボッチャ 等)【特別支援学級】 パラリンピックをきっかけに、障害者スポーツについて学んだ。車いすバスケットボールの第一人者を講師に迎え、一緒に楽しんだ。観たり聴いたりするだけでなく、自分たちで実際に行うことで、よりパラスポーツや障がいへの理解を深め、普段の生活での実践につなげる意欲をもつことができた。										

学校の概要		学校名	松本市立 丸ノ内中 学校		学校長	宮下 昌史		児童生徒数	252 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				ボランティアのリストがある			
				市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		○		PTA代表		○	
				地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の 学校職員				ボランティアと学校の情報交換会がある	
名称	丸中コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいます(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人
								地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)			人
会議 開催数 (予定)	2	回	今年度 開催日 (予定)	5月20日(金) 2月3日(金)				中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
								具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	自治の精神 —豊かな心でたくましく、自他ともにによりよく生きよう— 律する心 磨く心 思いやる心 予測不能な未来を生きるために必要な力 ◇自律する力 ◇表現する力 ◇想像する力										
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	仲間、教師、地域との「かかわり」を通して、「自分づくり」を進める生徒										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。			
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの 人数		ボランティア 登録者人数	人
								参加者延べ 人数		26	人
地域学校 協働活 動の概 要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動		給食		休み時間	
	清掃		ICT	学習ボランティア		総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習	
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動	子ども食堂(こども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場 体験を含む)	
	人権教育		国際理解	託児							
	学校・家庭・ 地域の協 働した取 組例										
	城西公園花壇 植え替え作業(6月7日)			乗鞍岳登山 (7月8日)			地域の方による環境整備(9月16日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
緑化福祉委員会19名が、ボランティア30人の方々とともに、松本手まりや山など5つのテーマでデザインされた城西公園花壇の植え替え作業を行った。松本を訪れた観光客の方々が、日日草、向日葵、ペゴニア、マリーゴールドなどの約2500ポットでつくった花壇を見て、松本をきれいな街だと思ってほしいと願いながら行った。地域の方々と一緒に作業したことで、地域貢献できたことをさらに実感することができた。											

学校の概要		学校名	松本市 立 旭町中 学校	学校長	三尾 浩幸	児童生徒数	321 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		ボランティアのリストがある	
				市町村教委		○	
				自治会代表		○	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○	
				PTA代表		○	
				公民館代表		○	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	
				学校長・教頭以外の学校職員		○	
旭町中学校コミュニティスクール		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称				地域コーディネーター		3 人	
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人	
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月2日 3月3日	
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
				具体的な役職(他をを選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		「剛 愛 総」 - たくましく やさしく かしこく -					
地域と共有された育てたい子どもの姿		○豊かな心と公正な判断力に支えられ、様々な欲望や誘惑に打ち勝って、より人間らしい生き方を求めていくたくましい生徒 ○自分の命を大切にすること、それと同じように私たちの周りにある全てのものに命を感じ、思いやることのできる生徒 ○謙虚な姿勢で人の言葉に耳を傾け、自分の目で見、自分の頭で考えて落ち着いて行動できる生徒					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 0 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		参加者延べ人数		30 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		フィールドワーク事前講演会(10月17日)		平和学習フィールドワーク(10月24日)		平和学習フィールドワーク(10月24日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
本校では、3年間を通して総合的な学習で平和学習に取り組んでいる。1学年は身近な地域、2学年では長野県内、3学年では日本国内(広島)へと範囲を広げている。 1学年では、地域にある戦争遺跡を個人やグループで巡って、実地から学ぶ「フィールドワーク」を通して平和について考え、自分の意見をまとめる活動を、地域の講師と共に取り組んできた。この活動から、生徒は戦争を身近なものとして感じ、平和について主体的に考えようとする態度が醸成されている。また、実際の戦争体験者が少なくなっている中で、身近な地域で起きた戦争について語り継ぎ、平和を担う人材として自覚する大切な機会となっている。							





学校の概要		学校名	松本市	立 信明中	学校	学校長	津野 尚彦	児童生徒数	326 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある
名称	信明コミュニティスクール運営委員会『おらがしんめい』			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
				学校医					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月12日	7月12日	1月23日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	健やかでたくましい心身をもった生徒 自ら求め、進んで行う生徒 他を理解し、思いやりの心をもった生徒									
地域と共有された育てたい子どもの姿	・不登校の減少 ・学力の向上 ・自己肯定感を高め、社会的自立の力の育成									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	15 人	
								参加者延べ人数	30 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動		給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		地域出前講座(2年7/5,1年7/7,3年7/14)		まつもと一本ねぎの栽培(3年総合5月から)		地域一斉清掃(10/17)雨天中止				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
地域出前講座 「簡単手作り料理」「ニュースポーツ(ボッチャ、ワンバウンドふらばーボール)」「竹細工(振動風車)」「オリジナルアルバム作り」「マスキングテープを使った小物作り」「抽象画を描こう」等、学年別に5～6講座を開設し、体験活動に取り組んだ。CS運営委員会コーディネーターの公民館長が、地域住民及び市の関係機関と調整し講師を選定してくださった。地域の方との関わりを通して普段できない体験活動に楽しんで取り組むことができ、地域の方からも中学生と触れ合うことの喜びの声が聞かれた。学校としても、公民館や地域講師の方々との連携が深められ、今後の様々な活動への可能性を高めている。										

学校の概要		学校名	松本市	立松島中	学校	学校長	阪口 和彦	児童生徒数	398 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○					
		公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○			
						ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		つくも草コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 子ども育成会長、町会連合会長、高齢者クラブ連合会長、主任児童委員、市議員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
		地域コーディネーター		2		人					
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人					
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月12日 10月14日 2月7日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
								公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
								公民館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		がまん 気づき 思いやり									
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・友と一緒に学ぶ楽しさを実感する生徒 ・自己の高まりを実感し、自己実現しようとする生徒 ・相手意識に立った態度や言葉遣いができる生徒 ・求めて学び、自分の考えをまとめ伝えられる生徒 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		40 人		
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		ボランティア登録者人数		40 人		
							参加者延べ人数		40 人		
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		○	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○	
		人権教育		国際理解		託児					
		松本大学の学生と防災学習打合(6月7日)		3年総合【アメリカンフラワー】(9月9日)		松中生と語る会(10月14日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>○「自然災害時に中学生にできることは何か」との課題意識を生徒会3役が中心になり追究してきた。また、地域では「地域づくりセンター機能強化モデル事業」として防災を切り口とした町会活動に取り組んでいる。今年度は、地域づくりセンターの職員の方にコーディネートいただき、松本大学の尻無浜教授と防災士の資格を持つ大学生と防災学習のプログラムを検討してきた。昨年度の、避難所運営ゲーム(HUG)の経験を生かし、今年度は、指定避難所になっている松島中学校へ避難されてくる方を想定し、様々な状況にどう対応することができるか、高齢者の避難や避難所での生活について、自分たちに避難所で何ができるかを考える力を養うとともに、他者に対しての思いやりのある優しい心を育むことにつながればと期待している。(11月21日実施)</p> <p>○今年度、3年ぶりに松中生と語る会を開催した。CS運営委員と民生委員の方に参加していただき、各学級の代表者と懇談会を行った。自分らの学校生活の様子や日頃考えていること、自分たちの将来について等、生徒から生の声を伝えたり、地域の方から中学生に寄せる期待等についてお話をいただいた。自分たちの生活は地域の方に支えられているんだということを実感するとともに、地域の期待に答えられる中学生の姿について考えた。また、地域の方には学校の様子をご理解いただく機会になった。</p>											




学校の概要		学校名	松本市	立開成中	学校	学校長	中川 由香里	児童生徒数	377 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある
名称	開成中コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
				地域住民、ボランティア代表					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	令和4年5月12日(木)実施 令和5年2月10日(金)予定			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	豊かな心を求め めあてを持って ねばり強くやり抜く生徒									
地域と共有された育てたい子どもの姿	目標に向かい、主体的に行動できる生徒 課題を見つけ、主体的に取り組む生徒 優しい声かけや親切な行動ができる生徒									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について									
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 24 人 参加者延べ人数 27 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		防災学習(4月28日)		読み聞かせ(6月24日)		生け花を飾る(毎月)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
例年、防災学習の一環として3学年が避難所設営体験を体育館で行っている。本校は地域の指定避難所になっており、災害時には地域住民を受け入れることになる。そんなことも視野に入れて、段ボールベッドや簡易トイレの設営をしたり、避難所のレイアウトをどのように配置すればよいか体験したりするなど、庄内地区公民館の方々のご指導のもと行っている。今年度はコロナのために実施が延期になっているが、今後行う予定で調整している。これまでの取り組みとしては、4月28日にフィールドワークとして実際に地域に出て危険箇所を確認し、防災マップを作成するなどの事前学習を行った。現場を実際に目で見て確認し、主体的に取り組む生徒の姿が多く見られ、防災への意識を高めることができた。今後行われる避難所設営体験を通して、更に防災意識が高まることを願っている。										

学校の概要		学校名	松本市 立 山辺中 学校			学校長	本木 善子		児童生徒数	334 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		山辺中学校コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		民生児童委員 地域の少年野球指導者 公民館主事						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		第1回 5月24日 第2回 10月21日 第3回 2月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		入山辺公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		笑顔と 潤いと 求める心の あふれる学校 安心の学びで深く学び合い、郷土を愛する山辺中学校											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・相手を思いやる心で行動できる生徒 ・自ら課題を見つけ解決しようとする生徒 ・地域で学ぶことに誇りをもった生徒 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 5 人		参加者延べ人数 90 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		○ 給食		休み時間	
		清掃		ICT		○ 学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		○ 国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		ぶどう笠掛け作業(6. 30)				入山辺花植作業(7. 9)				ドリーム大学着付け学科(10. 1)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>・本年度コロナ禍の2年目、本校最大の地域との協働の場である山辺ドリーム大学の実施について、昨年度の実績と反省を生かし、どう行おうかを検討した。感染リスクの高い活動は本年度も中止、参加人数を減らすために2・3年生のみの活動とすることにし、部屋の割振り、活動内容など、様々な配慮を行った。本年度はぜひ総合発表会での修了式を行いたいとの願いから、計画の段階から発表に向け、発表資料や写真の蓄積、代案の準備をして活動に望んできた。「香道」「着付け」「スクエアダンス」はステージ発表も行い、経験のない在校生達も3年前まで行ってきた形の一端を感じることができた。1学年は2年目となる「ふるさと再発見」の活動を継続。CSコーディネーターにも来校いただき、ご指導をいただきながら活動の形ができてきた。発表までの道筋を見据え、活動内容を工夫し、対応を考えながら活動を積み重ねることで、昨年度からまた一歩前進した本年度の活動を達成することができ、生徒達の意欲的な学びにつながった。またいつの日か地域の方々と一緒に学べる、そんなドリーム大学の復活を願うばかりである。全校ぶどう作業や職場体験も形を変えながら実施、朝学習支援も行う予定である。これらの活動から学び、感染レベルをにらみながら、経験と工夫で地域との関わりを切らさぬよう活動していきたい。</p>													

学校の概要		学校名	松本市立 高綱中 学校		学校長	清水 伸行		児童生徒数	327 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		チーム若鷹運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人			
		大学教授 地域づくりセンター長 同窓会長						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月19日(木) 2月9日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長					
学校教育目標		自主:自分から進んで深く考える生徒 友愛:みんな仲良く、心から感じ合う生徒 剛健:ねばり強く、たくましく求め続ける生徒											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<input type="radio"/> 自分の思いを表現し、伝える生徒 <input type="radio"/> 自分の頭で考え、自ら判断し行動する生徒 <input type="radio"/> 他者も自分も大切に考え、行動できる生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 0 人			
								参加者延べ人数		19 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		○ 給食		○ 休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		2年職業講話(7月5日)				陶芸指導(8月初旬)				和田地区文化祭(11月5日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
2学年のキャリア学習の一環として地域講師による職業講話を行いました。講師7名は担当地区のコーディネーターを通じて3地区の各公民館からご紹介いただきました。介護福祉施設、郵便局、博物館、動物病院など、さまざまなジャンルの事業所から講師の方をお迎えしました。講話ではその職に就いたきっかけ、やりがいや苦労などについて、パワーポイントを使用したり、実物を見せたりしながらお話していただきました。講師の先生方には2回同じ内容でお話しいただき、生徒は2つの違う講座に参加して講話をお聞きしました。													
本年度はなんとか職場体験を行いたいとの願いを掲げてその実現を目指しましたが、受け入れていただける事業所が充分ではなく、今年も過去2年に引き続き職場体験を断念しました。しかし、地域の外部講師の皆様が熱意を持って講座に取り組んでくださり、生徒の職業について意識を高めることができました。													




学校の概要		学校名	松本市	立 菅野中	学校	学校長	田中 耕史	児童生徒数	443 名																
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある																	
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある																	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員				ボランティアの方を対象とした研修会がある																	
名称		菅野の子育て応援団			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 交番所長、安全協会部長、保護司同窓会長、JA職員、ボランティア代表主任児童委員、子ども育成会長、町会連合会長、交通安全協会支部長、歴代PTA正副会長会長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)																	
		地域コーディネーター		2		人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)																	
会議開催数(予定)		2		回		今年度開催日(予定)		第1回:5月26日(木) 第2回:2月 9日(木)																	
								中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)																	
								公民館職員(公民館長・公民館主事)																	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)																	
								公民館長																	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																									
学校教育目標		「希望に生きる心」「ねばり強い心」「素朴で清い心」																							
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 希望を持って追究し、創造する生徒 ねばり強く実践する生徒 素朴で清々しく、たくましい生徒 																							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況																				
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○															
2		学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○															
3		地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○															
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数	149 人															
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		参加者延べ人数		900 人																
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間			
		清掃				ICT				学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援				コロナウイルス対策の消毒・清掃				放課後教科・体験学習		○	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動				子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山				キャリア教育(職場体験を含む)		○	
		人権教育				国際理解				託児															
																									
		読み聞かせ(6/16)				公民館夏祭り(8/19)				職場体験学習(10/27・28)															
代表的な協働した活動の取組例																									
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																									
<p>・公民館に登録されている2つの「読み聞かせボランティア」のグループの方々に来校いただき、読書旬間の一環として読み聞かせをしていただいた。全クラスに1名ずつ、計13人のボランティアの方に入っていただいた。時間としては朝読書の15分間という短い時間だったが、地域の方に生徒の様子を知っていただく良い機会にもなった。1年生から3年生まで、生徒たちは食い入るようにボランティアの方が掲げる絵本を見ている姿があり、その日の日記にも「面白かった」「感動した」等の感想が書かれていた。本校で長年続けて行われている伝統的な行事の一つになっており、校長室にも歴代の読み聞かせボランティアの方々の写真が飾られている。今後も公民館と連絡を取り合いながら、地域との協働行事として末永く大切に行っていきたいと考えている。</p>																									
																									
今年度お世話になったボランティアの方々 →																									

学校の概要		学校名	松本市立 立 筑摩野中 学校			学校長	瀧澤 公也		児童生徒数	698 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		CSふたむら運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人			
		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども育成会長 ・民生委員児童委員協議会長 ・同窓会長 ・学校医代表 ・退職校長会代表 ・学校応援団代表 						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月12日(中止) 10月17日 2月21日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		深く考え 逞しく生きる ―思学・剛健の精神― 合言葉「誇りの持てる筑中にする」											
地域と共有された育てたい子どもの姿		生徒が願う姿…優しい生徒・人のために動ける生徒・自ら行動できる生徒・気遣いができる思いやりがる生徒・頼られる生徒 職員が願う姿…人や物を大事にする生徒・思いやりや優しさがある生徒・自信がある生徒・自治力がある生徒 地域が願う姿…協議中											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 17 人			
								参加者延べ人数		200 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		○ 学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児		特別支援学級生活単元		○			
													
		寿地区有償ボランティア(7/24)		芳川野溝箒復活プロジェクト(8/25)				ラボちくまの(9/14)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<ul style="list-style-type: none"> ・寿地区有償ボランティア…寿公民館が主催する地域住民の困りごとへ支援をする「ことぶきサポート」の活動に有償ボランティアとして参加し、高齢者の家の草取りを行った。生徒の地域貢献、自己有用感の高まりにつながった。 ・野溝箒復活プロジェクト…芳川地域づくりセンターが主催する野溝箒復活プロジェクトへ科学技術部が参加し、箒もろこしの栽培、畑の草取り等を行った。今後地域住民の指導のもと、野溝箒を作る予定。生徒の地域貢献、自己肯定感、自己有用感の高まりにつながった。科学技術部の活動内容も充実した。 ・支援ボランティアによる活動…①「ラボちくまの」: 体幹やアジリティ等をテーマに、生徒を募集し理学療法士が行う体づくり教室(週1回)②学舎ちくまの: 生徒を募集し3人の支援員と学力向上推進教員による放課後学習教室(週1回)③農業ボランティア: 特別支援学級の野菜作りの支援(年2~3回)④ちくわの会: 学級ごとに行う読み聞かせ(年2回) これらの活動は生徒の個に応じたきめ細かい指導を行うことが可能となっている。 													

学校の概要		学校名	松本市	立明善中	学校	学校長	幅 誠一郎	児童生徒数	221 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		1. 明善コミュニティスクールプロジェクト 2. 地域との連携会議			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 1. 明善コミュニティスクールプロジェクト担当(生徒指導主事) 2. 地域との連携担当(教務主任)		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人				
会議開催数(予定)		4	回	今年度開催日(予定) 1 明善コミュニティスクールプロジェクト(年2回) 4月22日、2月10日 2 地域との連携会議(年2回) 4月下旬、2月上旬		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		誠意・善意・創意に満ちた 心身ともにたくましい人間の育成											
地域と共有された育てたい子どもの姿		『学校・地域に誇りを持ち、自分の可能性を信じ努力する生徒』											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○						
2 学校運営への必要な支援について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○						
3 地域の実情や課題について		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○						
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 20 人		参加者延べ人数 52 人				
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○											
地域学校協働活動の概要		○ 登下校の見守り		○ 読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		給食		休み時間	
		○ 清掃		○ ICT		○ 学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
		○ 土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		○ 人権教育		○ 国際理解		○ 託児							
													
		地域のお祭り(7月30日)		地域の文化祭(10月23日)		内田地区文化祭内田小唄(11月6日)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
内田地区文化祭・内田地区福祉ひろばまつりでは、前日準備からの当日にかけて、福祉ひろば準備、子ども文化祭・ステージ発表係展示室係などのボランティアに多くの生徒が参加した。文化祭の最後には、内田地区に伝わる伝統芸能である「ささら踊り」で、地区の方々といっしょに「内田小唄」を歌って祭りを盛り上げた。参加した生徒からは、「地区に貢献できて良かった。内田小唄を歌うのは、ちょっと恥ずかしかったけど、楽しかった。」という声が聞かれた。地域の方からは、「これからの内田地区を担っていただく中学生のみなさんと、地域との交流をはかることができて良かった。」など、感謝の言葉を多くいただいた。													

学校の概要		学校名	松本市立 女鳥羽中 学校		学校長	栢木 藤雄		児童生徒数	331 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある				
				市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある				
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	女鳥羽中学校応援団運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人	
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月17日	10月11日	3月3日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	「学ぶ心」「思いやる心」「鍛える心」を磨き、自立する生徒 ～自問を核とした学校づくり～											
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心をもってモノ・人・事に関わりようとする生徒 ・見たり、感じたり、考えたりしたことを表現し伝え合う生徒 ・自己との対話を基盤に、仲間・地域・自分のよさを大切にしている生徒 ・目標をもち、今より高い自分をめざして活動に粘り強く取り組む生徒 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	80 人	
										参加者延べ人数	50 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		強歩大会 (10月12日)			女鳥羽地域ボランティア活動 (11月)			地域の方による読み聞かせ (11月)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
10月12日に行われた第72回強歩大会は、本校の創立当時から行われている伝統的な体育行事である。学区内の男子は7.2km、女子は6.3kmのコースを、30分～1時間程度かけて走り、精神力と体力の向上を図ることを目的としている。過去には現行の距離よりも2～3倍の距離を走り、学校において一大イベントであったが、安全面や行事の精選等を考慮し、実施の見直しを図った経緯もある。しかし、本校卒業生を中心とする地域の方の強歩大会における思いは強く、実施に当たり大きな支援をいただいている。今年度も学区内の岡田公民館と本郷公民館の呼びかけにより地域の皆さん10名、安全協会3名、PTA10名、計20名以上の方々々に支えていただき、滞りなく実施できた。また、準備の段階においてもPTA有志の方々にはコースの除草や危険な樹木の選定等を行っていただいた。生徒は強歩大会が滞りなく実施できた背景には地域の皆さんをはじめとする様々な方々のサポートがあることを知り、地域の方々に感謝の思いをもつだけでなく、中学生として地域の役に立つ活動をしたという思いをもつことができた。そのような思いをもって、女鳥羽地域ボランティア活動では意欲的に取り組む姿が見られた。												

学校の概要	学校名	松本市山形村朝日村中学校組合立鉢盛中 学校			学校長	中川 満英		児童生徒数	415 名											
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																				
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について														
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある											
			市町村教委			○			自治会代表			○			ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○			公民館代表			○			PTA代表			○			ボランティアと学校の情報交換会がある		
			地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進 員			○			学校長・教頭以外の 学校職員			○			ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		CSほちもり		[その他の委員]*具体的な役職名を記入								学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター		3		人		
												地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)						人		
会議 開催数 (予定)		2		今年度 開催日 (予定)		[1回目]令和4年5月26日(木)		[2回目]令和5年1月30日(月)		中心のコーディネーター の立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)								
										具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		コミュニティスクール統括 コーディネーター								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																				
学校教育目標		「思誠愛」 自ら考え追求する生徒(思索)・誠実に努力し、たくましくやり通す生徒(誠実)・厳しく磨き合い、優しく支え合う生徒(友愛)																		
地域と共有されたい子どもの姿		「地域とつながり 地域に学び 地域に参画」 「地域とともにある学校」として、上記学校目標の具現を目指す。とりわけ、地域に出て活動を通して、「互いの違いを受入、支え合い、共に生きようとする姿」「地域を愛し、地域に貢献する姿」を育てる。																		
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況														
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○								
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○								
3		地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○								
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 29 人 参加者延べ人数 152 人								
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○		4												
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間						
		清掃				ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃						
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山				
		人権教育				国際理解				託児						キャリア教育(職場体験を含む)				
代表的な協働した活動の取組例																				
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																				
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に生徒がどのように参加していくかが大きな課題となっており、地域で困っていること、中学生に協力してほしいことを地域から直接生徒に呼びかけることを提案したところ、賛同して下さる自治体があった。直接出演していただく形式で制作した動画を、生徒会がお昼に放送している「ほちもりまっとステーション」で生徒がコメントを入れながら放映したところ、部活動、個人あわせて20名程度の参加となった。地域の課題を地域の方から顔が見える形で生徒に訴えかけることが、生徒の「地域をよりよくしたい、ふるさとを大切にしたい」という気持ちにつながった。今後も地域の方の顔が見える広報を進めていきたい。 ・2学年の職場体験学習導入部分として、身近な地域で仕事をしている方のお話を聞く時間がある。講師の選定にあたっては地域コーディネーターだからこそその人脈を活かして、毎年度いろいろなバックグラウンドをお持ちの方をご紹介いただき、貴重な話を聞く機会となっている(写真は山形村在住のアーボリスト・樹医の方)。 ・3学年総合的な学習の時間「白峰タイム」では今年度も地域に学ぶ体験的な活動を継続している。コロナ禍で外部との交流がままならない時期だったが、社協や教育委員会のご理解ご協力のもと地域のお年寄りの方や交流を希望している施設を紹介していただき、生徒の質問を聞く場を設けていただいたり、地域の見学をさせていただいたり、地域の方とポッチャで交流したりと、活発に活動することができた。各施設や地域の方からも中学生との交流が楽しかった、またぜひ交流したいという感想をたくさんいただいた。このつながりを今後も大切にしていきたい。 																				

学校の概要		学校名	松本市	立会田中	学校	学校長	宮澤 陽子	児童生徒数	55 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○				
		公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		
						ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	会中応援団			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
				地域住民、ボランティア代表					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月13日	2月2日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	自主の精神を持った心豊かな人間 真…よく見つめる生徒 練…よく鍛える生徒 怒…自他を育む生徒									
地域と共有された育てたい子どもの姿	・自らに問いかけ、考え、決めて行動する人になろう ・礼儀や思いやりを忘れずに、他人に尽くせる人になろう									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	10 人	
								参加者延べ人数	25 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	
	人権教育	○	国際理解		託児				○	
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	車座集会(5月13日)			読み聞かせ(5月20日)			桑の実の収穫体験(6月17日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
四賀地区には、養蚕が盛んだったころの名残で多くの桑の木が残っているが、収穫や加工に手間がかかることから、収穫しないままの桑の実が多数ある現状を地域の方との車座集会で知ったパノラマタイム(総合的な学習の時間)桑の実グループの生徒たちは、この状況をどうにかしたいという願いをもった。生徒は、給食で「桑の実ジャム」の存在を知り、有志や商工会が桑の実ジャムを四賀の特産品として販売していること、桑の実を南農高校へ出荷し加工していることを調べた。小瓶が高価なため、地元の人はほとんど買わない現状や人件費を抑えるため桑の実の洗浄を福祉養護施設の方が行っていることを商工会の方から聞いた。また、活動の中心となっている地域の方からは「四賀は広い上に各地区の桑の実には個性がある。収穫時期が数日ずれるだけで実がぼたぼた落ちてしまう。」と聞き自分たちにできることはないか考え、商工会の協力をいただきながら桑の木巡りを経て収穫体験をした。桑の実を収穫した生徒たちは「自然からただでもらえた桑の実が商品になることに、自分たちも手伝えるのはわくわくする。四賀の新しい特産品としてPRできれば、四賀の魅力も伝えられそう」「まだまだ手つかずの桑の実が落ちてしまうのはもったいない。使いきれずにいることは四賀にとってマイナスだと思う」と感想や課題をもった。										

学校の概要		学校名	松本市	立 梓川中	学校	学校長	松本 隆	児童生徒数	460 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		あずさっ子応援隊運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)					
					教務主任 地域少年スポーツ教室会長 JA代表			地域コーディネーター 2 人					
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人					
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月19日 2月9日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 公民館職員(公民館長・公民館主事)					
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		強く 優しく 思慮深く											
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域の多様な委員、個人の協力によって、梓川小中学校と連携し、一体となって生徒・児童の育成に取り組む。※昨年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、会は中止											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 20 人					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数		400 人					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		りんご摘果作業(5/17)		加工トマト収穫作業(8/17)		すいすい水曜学習会(毎週水曜日)							
代表的な協働した活動の取組例													
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
○ すいすい水曜学習会(R2年度より実施) ・毎週水曜日に梓川中学校内で地域の大学(信州大学・松本大学)と梓川公民館の協力を得て、大学生と学力向上支援教員と学校支援ボランティアによる中学生への学習支援。定期テストなどで成果を確認する。													

学校の概要		学校名	松本市	立波田中	学校	学校長	藤松 輝州	児童生徒数	433 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	「白樺の学舎応援団」運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人		
				こども育成会会長、町会連合会代表 商工会会長、民生児童委員副会長 スポーツ協会会長、地域住民					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月22日、11月1日、2月15日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	やかたづくり										
地域と共有された育てたい子どもの姿	・やさしさ …あいさつができる生徒、自分や他人を大切にする生徒 ・かしこさ …学びを創造する生徒、聴いて学び合う生徒 ・たくましさ…目標をもって努力する生徒、自治する生徒										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数			63 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5	参加者延べ人数			70 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	○	託児	○		○		○	
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
		職場体験学習(7/25~29)		町キレ・あいさつ運動(8/23 毎月実施)		商工会と白樺の植樹(9/23)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
コロナ禍で、職場体験学習の実施が難しいが、地域の方は「できるだけ中学校に協力したい」という思いを持っている。キャリアスタートウィーク(CSW)としての5日間実施はできない中、多くの事業所に2日間の受け入れをしていただいた。 特に、波田のスイカ農家の方は、収穫の時期を中学生のために待ってくださり、中学生が体験できるように調整してくれている。そのような思いを受け、生徒は「波田のスイカ」にまた誇りを高め、大変な作業であっても笑顔で体験を行っている。 体験に参加した中学生は、「波田のスイカは自慢の食べ物だけど、農家さんが苦勞して、丹精込めて作っていることが伝わってきたので、そのような思いも発信できたらいい」という感想を持った。キャリア教育の一環として、地域の方々が中学生を育ててくれている活動という側面が強い。											

学校の概要		学校名	松本市	立安曇小中	学校	学校長	山口 昇一	児童生徒数	小29 中18	名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	松本市立安曇小中学校学校運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人		
					子ども育成会会長				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月19日(木) 2学期中に1回 1月30日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	【学校教育目標】清らの心とひとり立ちできる人間 【具現のための指導重点】①子どもが主体となって学ぶ学校 ②多様性を包み込む学校・学級づくり											
地域と共有された育てたい子どもの姿	【目指す児童・生徒の姿】「知・仁・勇」にあやかり(尾崎喜八書) ○「清らの心」…わかまえ(知)、思いやり(仁)、いさぎよい(勇) 心を持ち、 ○「ひとり立ち」…かしく(知)、わけへだてをせず(仁)、つよい(勇) 人であれ。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	0 人		
								参加者延べ人数	30 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解	○	託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	<p>小中合同 上高地清掃遠足(10/17)</p> <p>小学校クラブ 白骨温泉の球状石灰岩のコケとり(10/16)</p> <p>中2 徳澤ロッジでの職場体験(10/20)</p>											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>安曇小中学校は山間地にある小規模併設校である。本年度4月より正式に「小規模特認校」制度を導入し、上高地をはじめ安曇地区の豊かな自然環境の中で、小規模少人数の特性を生かし、一人ひとりの個性を尊重しながら、元気にのびのびと学習に取り組んでいる。地域は学校と子どもたちをととても大切にしてくださり、学校の教育活動を全面的におしみなく応援してくださっている。そんな安心環境の中で、小中学校とも上高地をはじめ安曇地区全体を学習材として、地域のひと・もの・ことに触れる中から探求的な学びを展開している。本年度は小中併設校の良さを生かし、楽しみながら、日頃からお世話になっている上高地への恩返しの意味を込めて38年ぶりに上高地清掃遠足をおこなった。中学校2年生が中心となり、小学校時代から学んできたことを後輩や小学生にガイドをしながら巡る河童橋周辺の散策コースをつくった。この遠足に際し、夏休みに職員研修を兼ねた上高地の下見、中学校2年生による上高地の下見を実施。中信地区環境教育ネットワークの中林さん、環境省上高地支部の小森さん、上高地財団の加藤さん、上高地ボランティアレンジャーの方々等、数多くの方々のご協力により実施した。当日は小雨の降る天候となったため、清掃部分はカットし、散策のみをおこなった。中学校2年生の班長はそれぞれ独自の散策ルートや内容を考える中から、改めて上高地の良さに触れるとともに、小学生と中学生がごく自然に親しみ楽しむ姿が見られる散策となった。</p>												

学校の概要		学校名	松本市	立大野川中	学校	校長	柳澤 充人	児童生徒数		名											
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																					
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について															
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成				○		ボランティアのリストがある									
		市町村教委		自治会代表		○		○				ボランティアの団体がある(組織化されている)									
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○				ボランティアと学校の情報交換会がある									
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○				ボランティアの方を対象とした研修会がある									
名称		大野川つ子応援団運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人							
						ブリッジの会代表 乗鞍女将さんの会代表 同窓会長						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人							
会議開催数(予定)		2		回		今年度開催日(予定)		5月13日		2月8日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)							
												具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																					
学校教育目標		志高清練 ・大野川の雄大で厳しい自然に負けないように志を高く持ち、清らかで豊かな心を練り上げよう																			
地域と共有された育てたい子どもの姿		・やさしい子ども ・たくましい子ども ・かしこい子ども																			
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況															
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○									
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○									
3		地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○									
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		18		人							
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○		4		参加者延べ人数		10		人							
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間							
		清掃		○		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習				
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山	○		キャリア教育(職場体験を含む)
		人権教育		○		国際理解		○		託児		○									
																					
		地域の方といっしょにわらび採り(6月1日)				乗鞍PR活動に向けた写真講座(6月24日)				卒業生の生き方に学ぶ会(8月25日)											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																					
<ul style="list-style-type: none"> ・将来、乗鞍、沢渡、白骨地域を担っていく子どもたちが、生まれ育った地域に誇りと愛着を持ち、地域の伝統や特色について学び、成長していけるよう、学校と地域との連携のあり方、特色ある学校づくりに向けて、年度始めにコミュニティスクール運営委員会を通して協議した。 ・総合的な学習の時間には写真撮影の専門家を地域講師として招き、乗鞍の自然の豊かさを発信する際の効果的な写真の撮り方を学んだ。 ・生徒達は写真撮影を通して地域の良さを改めて認識するとともに、世代を越えて地域の方とつながりを持ち、一緒に地域を盛り上げていきたい、良さを発信したいという気持ちが高まった。 																					

学校の概要		学校名	松本市	立 奈川中	学校	学校長	坪田 利彦	児童生徒数	9 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	奈川小中学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)						人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月20日(金) 9月16日(金) (2月20日(月))			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	夢を追い(知) 心豊かに(徳) たくましく(体)											
地域と共有された育てたい子どもの姿	小中連携により15の自立をめざす 自己決定し、願いの実現に向けて粘り強く取り組む子 郷土奈川を想い愛着を持つ子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 50 人	参加者延べ人数 30 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		そばの二番粉を活用した製品開発(5月16日～)		わらび採り(5月25日)		ふるさと学習(6月13日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
(総合的な学習の時間)「そばの2番粉を活用した製品開発」 (株)ふるさと奈川に、そば作りの様子を見に行った時に、社長さんから「皮を取ったそばを、石臼で挽く際にそば粉と分別される『二番粉』を活用して製品を作りたいと思っているので協力してほしい」と依頼を受け、総合的な学習のテーマに「そばの2番粉を活用した製品開発」を据え、全校で学習していくことになった。2番粉を使った調理を考え、一人一人二番粉を使ってできそうな料理を考え、「シュークリーム」「コロッケ」「饅頭」「ホットケーキ」「チュロス」等をつくってみた。結果として、「製品化」できるところまではうまくいかなかった。ふるさと奈川の方や、松本大学の准教授からお話を聞く中で何が足りなかったのか考えることができた。その中で「チュロス」については、松本大学と協働してレシピを練り直し、大学の方でつくってみて、松本大学の文化祭で大学生が販売してくれることになった。「ふるさと奈川」という地域密着の企業、松本大学と協働して追求する経験は、生徒たちの思考力や忍耐強く考える力を高めることにつながった。また、一つの製品を作ること、アイデアからそれを製品にしていく過程でどのようなことが必要か考えていく活動は、生徒たちに大きな刺激を与え、貴重な経験となっている。												

学校の概要		学校名	信州大学教育学部附属松本中 学校	学校長	宮下 昭夫	児童生徒数	460 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	附属松本中学校後援会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 後援会会長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	通常年2回 本年度は令和5年3月6日のみの予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	保護者(PTA)		
						具体的な役職(他をを選択した場合は立場・役職を記入)	元PTA会長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	たくましく心豊かな地球市民								
地域と共有された育てたい子どもの姿	附属松本中学校では、「たくましく心豊かな地球市民」を育むために、幼小中12年間を貫く教育課程の開発に取り組んでいる。私たちは、子どものよさである『3つの力』(自己表現力, 課題探究力, 社会参画力)を共通の視点に、自分の『思いや願い, 問い』に発する様々な活動の中で、『3つの力』を発揮しながら、とことん遊びや学びにうちこみ、探究していく子どもを支えていきたいと考えている。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○	
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4		協働活動に参加したボランティアの人数	0 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		参加者延べ人数	約50 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	○	ICT	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
学校・家庭・地域の協働した取組例									
	遊歩道の整備(5月24日)		井戸の実態調査(8月24日)		井戸の自主清掃(11月8日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間では、各学級の要請に応じて支援をしていた。 ・2枚目の写真は2学年の総合的な学習の時間の様子である。 ・この学級の生徒は、松本市に点在する井戸はどのように管理されているのだろうかという課題をもった。 ・生徒は広報誌やホームページ等から情報収集を行っていたが、実際に管理している方にお話を伺いたいという願いをもった。 ・そこで、実際に井戸を管理している行政の方やボランティアの方、観光客の方へのインタビューの機会を設定し、多角的に情報を収集した。 ・生徒はこのインタビュー調査等で得た情報を整理・分析し、持続可能な方法として自分たちが役立てそうなことを検討している。 ・総合的な学習の時間においては、実社会とのつながりを見いだしながら課題を設定する機会としてたいへんお世話になっている。 									

学校の概要		学校名	大町市立美麻小中学校		学校長	山岸 澄雄		児童生徒数	98 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
			市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		美麻学校運営協議会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入 育てる会職員(山村留学運営団体) 市役所支所長 社会教育団体代表 民生・児童委員 市内地域外住民 地域住民 (尚、役職での当て職が選考基準ではな				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
										地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1	人	
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)		4月22日 12月9日 2月17日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		心と体をひらいて学ぶ美麻の子											
地域と共有された育てたい子どもの姿		ふるさと美麻を愛し、語り、想いを深める児童生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○		
2	学校運営への必要な支援について				○								
3	地域の実情や課題について				○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	55	人		
								参加者延べ人数		250	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育		国際理解	○	託児	○							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		土壁づくりのための竹取り(6/17)				お山の学校(9/16)				放課後子ども教室(10/14)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
全校の児童生徒に向けて募集をし、放課後子ども教室の美麻版放課後子どもチャレンジ教室として、今年は5月よりスタートした。この教室は、美麻スクールパートナーズが主体となって活動するもので、学校の各教室や学校周辺の野山も利用して、野山の探検、化学実験、木工工作、コミュニケーションなどを月替わりメニューで月3回、地域の方が講師となって開催する事業である。子どもたちは、参加希望アンケートを行い小学生から中学生まで、講座によって人数は違うが、毎月10名程度の希望者がある。活動では、多くの地域ボランティアによるサポーターが付き、安全確保をしている中、子どもたちの主体的な関わりとともにサポーターも子どもたちとの活動を楽しんでいる。この取り組みは授業にもつながっていくケースがある。													

学校の概要		学校名	塩尻市立 榎川小中 学校	学校長	山本 秀樹	児童生徒数	96 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の 学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	塩尻市榎川地区学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいます(それぞ れの人数を記入)						
				榎川体育協会会長 民生主任児童委員 榎川保育園長		地域コーディネーター	1 人					
会議開催数(予定)		4	回	今年度開催日(予定)	4月11日(月) 7月8日(金) 12月8日(木) 2月10日(金)	中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)						
						学校職員(教頭及び教頭以外の職員)						
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	学校支援コーディネーター					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		榎川から未来にはばたく ～輝く夢を携えて 気魄に燃えて～										
地域と共有された育てたい子どもの姿		○温かい人間関係を築くことができる子ども ○心身共にたくましく、自立し、未来を拓く子ども ○ふるさと(地域)の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着を持ち、地域の未来を拓き、語れる子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○				
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	60 人				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		参加者延べ人数	150 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		「ふるさと漆器学習」(6月～12月)		放課後課外活動「なららクラブ」(10月)		「江戸ウイン」(7/23. 24 11/4. 5)						
代表的な協働した活動の取組例												
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
【内容】『江戸ウイン』9年生が地域を盛り上げたいと願い、ハロウィンと江戸をかけ、「和装(家庭科の授業で製作した甚平・浴衣を含む)」をして来訪者(観光客)や地域の子どもたちにガイドやガチャをして楽しんでもらいながら地域をPRするイベント												
【どこで】奈良井宿												
【誰と取り組んだか】奈良井観光協会 塩尻市観光協会 奈良井宿のお店 地域ボランティア(家庭科の浴衣・甚平の製作)												
【成果や効果】 ①どうしたら地域を盛り上げられるか、どのような活動ができるか生徒自ら考え、協力してイベントを創りだす力が育った。②効果的なPRの方法について、奈良井観光協会や市観光協会、お店の方の意見を聞いたり、甚平や浴衣の制作を地域ボランティアの方に支援していただいたりしたこと、地域の方々の考えや願い、支援して下さる温かな思いにふれ、自分の生き方を見つめるキャリア教育にもつながった。③イベントを創り上げる中で、榎川の魅力を見つめたり、地域の方々との交流をしたりすることで、ふるさとへの愛着を深める機会となった。												

学校の概要		学校名	長野県木曾養護		学校	学校長	土井田 知広		児童生徒数	29 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
			市町村教委		自治会代表	○	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表	○	PTA代表		○	ボランティアと学校の情報交換会がある			
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	学校評議員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人	
				<ul style="list-style-type: none"> 木曾圏域障がい者総合支援センター長 木曾圏域自立支援協議会当事者部会長 木曾町保健センター保健師 地域代表(木曾養護学校協働会会長) 地域企業代表 					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月27日(月)2月7日(火)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		地域につながり、社会に参加・貢献する児童生徒									
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 自ら取り組む児童 自分の力を発揮できる生徒 社会参加に向けて前向きに取り組む生徒 生活意欲を持ち自ら取り組もうとする児童生徒 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	人
								参加者延べ人数		人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
		木曾養護学校協力会作業(5月28日)		ゆうゆうクラブSUP体験(7月7日他)			木曾節保存会と音楽(10月13日他)				
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
○木曾養護学校協力会作業											
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が中心となり木曾養護学校協働会が開校と同時に発足して以来、年に一度率先して環境美化活動に貢献いただいている。児童生徒も参加している。今年度は、感染防止対策として一緒に作業することは避け、協力会の皆さんが植栽の選定作業を行った場所を中学部生徒が葉や枝を片付ける形をとって実施した。 ○児童生徒にとって <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々が学校を大切に思ってくださいの気持ちに触れながら、共に作業をする経験ができた。 ○教職員にとって <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の学校に対する温かい気持ちに触れ、地域と共に歩んでいくことの大切さを改めて実感できた。 ・地域の方々に、今年度の様子や児童生徒の顔を知っていただく機会になった。 											

学校の概要		学校名	長野県安曇養護		学校	学校長	松嶋 則行		児童生徒数	205 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	学校評議員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		人		
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)			6月21日、2月9日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				
								具体的な役職(他をを選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	あかるく つよく みんなとともに みらいをひらこう											
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域の中で笑顔でたくましく育つ子どもたち											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2	学校運営への必要な支援について					○						
3	地域の実情や課題について					○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					○	4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	人		
									参加者延べ人数	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間						
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習						
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)						
	人権教育	国際理解	託児									
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	池田小学校との交流(6月21日)		高瀬中高瀬祭見学(9月30日)			寄宿舎バス停清掃(10月31日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
6月21日に安曇養護学校において、池田小学校6年生30名の児童と、安曇養護学校4・5・6年生の児童と交流を行った。池田小学校6年生の児童がペアとなる安曇養護学校の児童のところへ分かれて交流場所へ移動して活動を行った。それぞれの学年では、一緒にダンスを踊ったり、大玉ころがしドッジボールや台風の目などのゲームを行ったりした。大玉ころがしドッジボールの中では、池田小学校の児童がボールが来た時に「こんなふうによければいいよ。」と、安曇養護学校の児童に実際に見せてくれた。台風の目では池田小学校の児童が安曇養護学校の児童に対して、せかしたりせず、ペースを合わせてくれてとても穏やかに接してくれた。安曇養護学校の児童は、ペアの子に笑顔で自己紹介したり、ゲームでは一緒に棒を持つペアの子をチラチラ見ながら意識してゲームに参加したりするなど、対人関係の形成につながる姿が見られた。また、池田小学校の児童も「自分にできることはなんだろう。」と考えながら接してくれたことに交流の大きな意味があった。												

学校の概要	学校名	長野県松本盲 学校			学校長	関 昌浩		児童生徒数	22 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある						
			市町村教委	自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター	人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)					人	
会議開催数(予定)			回	今年度開催日(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)						
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		育む友情、元気なからだ、確かな学び										
地域と共有された育てたい子どもの姿		障がいがあっても、生き生きと前に進む幼児児童生徒										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。									
2 学校運営への必要な支援について												
3 地域の実情や課題について		2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。									
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)									
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	参加者延べ人数	人 77 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会	クラブ、部活動		給食		休み時間		
	清掃		○ ICT	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○		
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	グラウンド除草作業(2022年9月4日)			奉仕治療(2022年7月12日)			奉仕治療(2022年9月29日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
地域奉仕治療～地域の皆さんとの交流、また除草作業等への感謝の意を伝えるべく、年に2回ほど地域の皆さんにマッサージ施術を行っています。この2年間はコロナ禍ということもあり、実施できていませんでしたが、今年度は40名ほどの方において頂きました。本校の学生にとっては実技実習の目的もあり、良い勉強の機会となりました。2回のうち1回は学校近くの公民館で行いました。ここでは20名ほどの方において頂きました。60歳代以降の方が主でしたが、日頃の疲れるがとれると好評でした。2回目は学校の臨床実習室で行いました。やはり20名ほどの方において頂きました。日頃の臨床実習でお世話になっている患者さんや、この日が初めてという方もいらっしゃいました。こちらは1年生～3年生までの学生6名と職員10名で対応しました。施術をしながら、日頃の学校での様子や地域の様子をお互いに情報交換する良い機会になりました。今後も地域の皆さんへの感謝の気持ちと学生の技術向上のため、奉仕治療を続けていきたいと考えています。												

学校の概要		学校名	長野県松本ろう学校		学校	学校長	五味 重栄		児童生徒数	24 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
			市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある				
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称			学校評議員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		
			<ul style="list-style-type: none"> 信州大学教職支援センター教授 消防団分団長 公民館長 交番所長 同窓会長、長野県中南信聴覚障害者親 			地域コーディネーター			人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人		
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		第1回 5月26日(木)		第2回 2月 7日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
										学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
										具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		声さわやか・心ゆたか・体げんき < 本年度の重点:読む(受信)力・書く(発信)力の育成 >									
地域と共有された育てたい子どもの姿		一人一人が自分の力を発揮し、自分らしく生きていく姿									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 学校運営への必要な支援について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			
3 地域の実情や課題について				4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について								3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
								4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 参加者延べ人数	
										人 人	
地域学校協働活動の概要											
登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
人権教育		○ 国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		幼稚園なつまつり(7月8日)		ライオンズクラブふれあい教室(10月19日)		交流提携校運動会参加(10月28日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>松本深志ライオンズクラブとは、長いお付き合いがあるが、ここ数年、コロナウイルス感染症拡大の影響で交流会が行えない状況であった。本年度、万全の感染症対策を施し、久しぶりに交流会を実施できた。写真はレジンクラブをご指導いただきながら、生徒がハロウィンをテーマにしたマスコットを制作しているところであるが、子どもたちの好きそうなテーマのフレームを精密機械に携わっていらっしゃるメンバーの方が3Dプリンターで作ってくださった。また、映像関連のお仕事をされているメンバーの方はバーチャル旅行のコンテンツを提供していただき、農業機械に関係するお仕事をされている方は、小学部の子どもたちを対象に初搾りから精米までの過程を家庭用精米機を使ってデモンストレーションしてくださった。</p> <p>ふれあい教室という名前でも交流をメインに据えた活動であるが、持ち寄っていただく企画がそれぞれの企業の得意分野に裏打ちされており、人とかかわりとともに、子どもたちの知的好奇心をくすぐる「本物に学べる貴重な機会」となっている。</p>											

学校の概要		学校名	長野県	立松本養護	学校	学校長	渡邊 和幸	児童生徒数	234 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の 学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいますか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター		人
					地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)				人
会議 開催数 (予定)	3	回	今年度 開催日 (予定)	5/17 11/9 2/8 運営委員会や学校運営協議会を学校評議員会と兼ねて いる。	中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)				
					具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	わたしらしく わたしから せいいっぱい								
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	人とのつながりを感じながら、地域で生き、地域で育つ子どもたち。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。			
2	学校運営への必要な支援について								
3	地域の実情や課題について				2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの 人数		ボランティア 登録者人数	人
						参加者延べ 人数		人	
地域 学校 協働 活動 の 概 要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃	放課後教科・ 体験学習	
	土日・長期休業 教科・体験学習	地域の伝統文化の 継承に係る活動		子ども食堂(子ども カフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場 体験を含む)	○
	人権教育	国際理解		託児					
学校・家庭・ 地域の協働した 取組例									
	小学部ボランティア読み聞かせ(6/13)		中学部福祉広場交流(6/22)		高等部志學館交流(10/7)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
(小学部) ボランティアの方に読み聞かせをしていただいています。子どもたちは、身を乗り出しながらかつと絵本を見たり聞いたりする姿が見られます。 (中学部) プランターに植えた花を福祉広場の玄関に飾っていただきました。学年の中で当番を決めて、毎日、主体的に水やりをしています。 (高等部) 志學館高校との交流で、ポッチャを楽しみました。また、11/4には、志學館高校の生徒が来校され、互いの学校をさらに知るきっかけとなりました。									

学校の概要		学校名	長野県寿台養護 学校		学校長	麻田 正明		児童生徒数	148 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある					
			市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表	ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	学校評議員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター	人
				病院副院長、ソーシャルワーカー、相談支援センターコーディネーター、療育コーディネーター						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月23日(月) 2月2日(木)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	知恵をたがやし 心をゆさぶり 体をうごかす 学たしか 心ゆたか 体げんき										
地域と共有された育てたい子どもの姿	人と関わりながら、生きる喜びを育てる 命を大切に、健康な心と体をつくる できる、わかる体験から「自ら学ぶ」喜びを育む										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2	学校運営への必要な支援について										
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	人	
									参加者延べ人数	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動		給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児						
											
			ファーマーズ販売(7/6)			松本山雅サッカー教室(10/12)			活動名(日付)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
○ 地元のサッカーチームの選手と一緒に体を動かしていく中で、運動する楽しさを味わえる交流を実施した。松本山雅の選手2人に来校いただき、車いすの生徒でもできる運動を紹介してもらった。最初は緊張気味の生徒たちも活動を進めていくと緊張もほぐれ、笑顔が見られ最後は一緒に楽しむ姿が見られた。実際はサッカーのルールを知らなかったり選手を知らなかったりする場合でも、交流をしていく中で簡単な動きでも楽しさを感じる交流ができた。継続していきたい活動の一つであった。											